

地方税アルモノハ之ヲ賦課スヘキハ勿論ニ之レアルヘク。果シテ然ラハ該管所及教導團へ照會ノ上隨時検査員ヲ派遣シ管内ノ販賣場ニ就キ物品ヲ検査セシメ差支ナキヤ右ノ關リ本縣下ノミナラス各鎮區及兵營ニ於テモ同様ノ設ケアルモノト想像致ス依テ取扱方一應相伺フ

指令 十九年七月十四日

同ノ趣酒保ニ於テ販賣スル物品ノ請負ヒナ爲ス者ハ其居宅ニ就キ業體相當ノ鑑札下附スヘキ領ト心得ヘシ但管内ニ立入り検査ヲ爲スヲ要セス

第百十四章 醫麴營業稅則

明治十三年九月二十七日

醫麴營業稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

(別冊)

醫麴營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 凡ソ醫麴釀造酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

醫麴營業稅 金五拾圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受ケルモ營業稅ハ直ニ管廳ニ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳へ届出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數并ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳へ差出シ検査ヲ受ケヘシ

十六年第四十三號布告
參看一第百廿三章

醫麴及ヒ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ検査スヘシ十五年第六十二號布告ヲ以テ本項ヲ追加ス

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ醫麴賣捌所ト書シタル標札へ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令 罰令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケス醫麴ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數并ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ

第十二條 醫麴營業場ノ中ニ於テハ製造受賣醫麴受賣酢造營業ヲ爲シ又ハ酒類醫麴ヲ製造スルヲ許サス 同上本條以下四條ヲ追加ス

第十三條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

第十四條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス
第十五條 醫麴營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

○醫麴營業稅則取扱心得 十三年十一月二十四日 大藏省乙第四十號達

本年九月第四十一號ヲ以テ醫麴營業稅則御布告相成候ニ付右取扱心得書別紙ノ通相定候條此旨相達候事

(別紙)

醫麴營業稅則取扱心得書

第一款 營業免許

第一項

免許鑑札ハ豫メ授與スヘキ員數ヲ見積リ主稅局ヘ申出之ヲ受取置クヘシ (本書中主稅局主八年大藏省第七號達ニ依リ改正以下皆同)

第二項

免許鑑札雛形及ヒ其記載方ハ第一號圖式ノ如シ

第三項

製造場ハ倉庫ノ棟數ニ拘ラス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ免許鑑札ヲ授與スヘシ

第四項

免許鑑札ハ其年一期有効ノモノトス故ニ引續キ免許ヲ請フモノアルトハ最初授與シタ

ル鑑札差出サセ其鑑札ノ裏面ハ該期ノ免許證印 第五項雛形ノ如シヲ捺シ再ヒ之ヲ授與スヘシ

但鑑札裏面餘白尽キタル片ハ更ニ新鑑札ヲ授與スヘシ

第五項

免許證印ハ左ノ雛形ノ如ク各府縣廳ニ於テ調製スヘシ

但其證印方郡區長ヘ委任ノ向ト雖モ各府縣廳ニ於テ之レヲ調製シ相渡スヘシ

細輪廓 角切 字体楷書

明治何年一期

醫麴營業免許之證

印肉朱 寸法壘巾曲尺壹寸四分

橫巾曲尺四分

第六項

稅則第六條免許鑑札賣買讓與ノ節其書換方若シ甲乙兩管廳ニ交渉スル片ハ雙方連署ノ書面ニ免許鑑札ヲ添ヘ甲管廳 賣渡讓與人所在ノ管廳ニ出願セシメ甲管廳ニ於テハ乙管廳 買受人所在ノ管廳ノ添翰 該期免許稅納済且免許鑑札ハ取置キタル旨明記スヘシヲ作リ之ヲ下渡シ乙管廳ニ於テハ甲管廳ノ添翰ニ據リ書換鑑札ノ下渡方ヲ爲スヘシ

但製造場轉換ノ爲メ鑑札書換方兩管ニ交渉スルモノモ本項ノ手續ニ據ルヘシ

第七項

第十二節 和稅及貨紙幣公債區町村費

廢業ノ者ハ其届出ノ節免許鑑札ヲ返納セシムヘシ

第八項

廢業並ニ書換等ノ返納鑑札ハ各府縣廳ニ於テ取廻メ十年當省乙第七號達ニ據リ不取締無之様消却スヘシ(十年大藏省乙第七號ヲ以テ諸鑑札類廢業代換等ニテ營業人ヨリ返戻ノ分其外凡後來使)

第九項

稅則第八條戶外ニ掲出スヘキ標札ハ左ノ雛形ニ倣ヒ調製セシムヘシ

寸法 豎巾曲尺三尺

横巾曲尺八寸

〔免許鑑札ノ番號

第何號

醫 藥 賣 捌 所

何府國郡區
何縣國町村

何

某

第十項

稅則第五條賣上帳簿差出シタル片ハ其記載ノ石數及ヒ購求者居所姓名等精數ニ檢査ヲ遂ケ檢印ノ上下渡スヘシ面シテ該帳簿ハ營業中之ヲ保存セシムヘシ

第十一項

營業取締ノ爲メ便宜ニ主任官出張シ之ヲ點檢スヘシ

第二款 申牒期限

第十二項

稅則第四條販賣見込ノ石數ハ每一期分第二號雛形ニ倣ヒ右數表ヲ調製シ其期十一月十五日限り差立テ主稅局ヘ送付スヘシ(十八年大藏省第七十四號達ニ據リ第(二)號雛形ハ報告表第十四號ニ改定)

但本文届出ノ後其増減ハ三ヶ月毎ニ取廻メ製表ノ上翌月十五日限り差立主稅局ヘ送付スヘシ

第十三項 (此項十八年大藏省第六十五號達ノ旨趣ニ據リ消滅)

第十四項

免許鑑札受拂ハ每一期分第四號雛形ニ倣ヒ計算表ヲ調製シ翌期十月十五日限り差立テ主稅局ヘ送付スヘシ(全上達ニ據リ第四號雛形ハ報告表第十五號ニ改定)

第十五項 (此項十五年大藏省第三十七號達ヲ以テ削除)

第十六項

營業稅ハ每一期分第六號雛形ニ倣ヒ稅表ヲ調製シ翌期十月三十日限り差立テ主稅局ヘ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村別

送付スヘシ(全上巻ニ據リ第六號雜形ハ稅表第八號ニ改正)

第十七項

販賣シタル石數ハ每一期分第七號雜形ニ倣ヒ石數表ヲ調製シ翌期十一月十五日限り差立テ主稅局ヘ送付スヘシ(全上巻ニ據リ第七號雜形ハ其格式ヲ示サザレハ適宜之ヲ報告スヘシト相成リタリ)

第一號雜形

地方管廳ノ押切印

第何號

製造場

國郡區町村番地

醫麵製造營業免許鑑札

何府國郡區
町村番地

何之誰

年月日

免許ノ年月日

主稅官ノ割印

(十四年大藏省乙第十一號達ヲ以テ右鑑札見本頒布アリ鑑札表面輪廓綠色細紋四隅ニ菊花ノ模様中央醫麵云々ノ上黑色菊桐ノ模様及ヒ大日本帝國政府ノ文字横書シタリ裏面輪廓細紋四隅ニ櫻花ノ模様中央野書トモニ色表面ニ全シ)

第百十五章

煙草稅則

明治二十一年四月六日
勅令第二十號

除煙草稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

御名 御璽

明治廿一年四月六日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二十號(官報四月七日)

煙草稅則

第一條 煙草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

煙草製造人

業煙草ヲ買受ケ刻煙草又ハ卷煙草ヲ製造スル者

煙草仲買人

業煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草製造人又ハ同業者ニ賣渡ス者

製造煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草小賣人又ハ同業者ニ賣渡ス者

煙草小賣人

製造煙草ヲ煙草製造又ハ煙草仲買人ヨリ買受ケ之ヲ自用者ニ賣捌ク者

第二條 煙草營業ヲナサントスル者ハ管廳ニ願出營業場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケハシ但營業者未丁年癩癩白痴又ハ瘡癩ナルルハ後見人ヲ立ツヘシ

第三條 煙草製造營業ノ免許ヲ受クル者ハ正實ニ營業ヲナシ此稅則ヲ遵守スヘキヲ證約スル爲メ證約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

證約金 營業場一箇所毎ニ五十圓以上

煙草製造人此稅則ヲ犯シ證約ニ背キタルルハ其犯罪ノ輕重ニ依リ管廳ニ於テ證約金ノ一部若クハ全部ヲ徵收スヘシ

第四條 煙草營業者煙草ノ仕入出賣ヲナシ又ハ家屬雇人ヲシテ之ヲナサシムルルハ管廳ニ申出鑑札ヲ受置キ之ヲ携帶シ又ハ携帶セシムヘシ

第五條 鑑札ヲ受クル者ハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

煙草營業鑑札料 一枚ニ付金貳拾錢

煙草仕入鑑札料 一枚ニ付金拾錢

煙草出賣鑑札料 一枚ニ付金拾錢

第六條 煙草營業者ハ各左ノ營業稅ヲ納ムヘシ

煙草製造營業稅 營業場一箇所ニ付一ケ年金拾五圓

煙草仲買營業稅 營業場一ケ所ニ付一ケ年金拾五圓

煙草小賣營業稅 營業場一ケ所ニ付一ケ年金五圓

第七條 煙草營業稅ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業鑑札ヲ受クルルハ其節該半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第八條 煙草製造人煙草ヲ製造シタルルハ其定價十分ノ二ノ割合ヲ以テ煙草印紙ヲ貼用スヘシ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

百九十七

百九十六

第九條 製造烟草ハ一定ノ包裹ヲ施シテ之ヲ密封シ自己ノ印章ヲ以テ其貼用印紙ニ消印スヘシ

第十條 烟草營業者ハ帳簿ヲ調製シ營業ニ係ル要領ヲ記載スヘシ

第十一條 外國ニ輸出スル製造烟草ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他證憑トナルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ其印紙稅ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請求スルヲ得但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル烟草ヲ本邦ニ輸入スル片ハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十二條 烟草耕作人烟草仲買人ハ其所持スル葉烟草ヲ烟草製造人又ハ烟草仲買人ニアラサル者ニ賣渡貸渡讓渡スヲ得ス

第十三條 烟草製造人烟草仲買人ハ烟草耕作人又ハ烟草仲買人ニアラサル者ヨリ葉烟草ヲ買受借受讓受クルヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ葉烟草ヲ買受クルハ此限ニ非ス

第十四條 烟草仲買人ハ烟草製造人ニアラサル者ヨリ製造烟草ヲ買受借受讓受クルヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ製造烟草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十五條 何人ニテモ製造人ニ雇使セラル、ノ外人ノ依頼ヲ受ケテ烟草ヲ製造スルヲ得ス

第十六條 烟草耕作人ニアラサル者ハ自用ノタメナリトモ烟草ヲ製造スルヲ得ス烟草耕作人ニ限り自用ノタメニ烟草ヲ製造スルヲ得ト雖モ之ヲ賣渡貸渡讓渡スルヲ得ス

第十七條 烟草小賣人ハ烟草製造人又ハ烟草仲買人ニアラサル者ヨリ製造烟草ヲ買受借受讓受クルヲ得ス

第十八條 烟草營業者ハ無印紙不足印紙ノ製造烟草若クハ包裹ノ解綻毀損シタル製造烟草ヲ所持シ又ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲナスコトヲ得ス

第十九條 何人ニテモ無印紙ノ製造烟草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造烟草ヲ烟草營業者ヨリ買受クルヲ得ス

第二十條 鑑札ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲナスコトヲ得ス

第二十一條 烟草印紙ハ管轄ノ許可ヲ得タル賣捌所ノ外ニ於テ賣買スルヲ得ス

第二十二條 烟草營業者ノ營業場倉庫其他ノ場所及營業ニ關スル帳簿物品ハ當該官吏之ヲ檢査スルヲアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第二十三條 營業免許ヲ受ケスシテ烟草營業ヲナシタル者ハ遁脫ニ係ル營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其烟草及器械ヲ沒收ス第十五條又ハ第十六條第二項ヲ犯シタル者ハ製造營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其烟草及器械ヲ沒收ス

第二十四條 第九條第十八條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル烟草ヲ沒收ス

第二十五條 帳簿ノ記載ヲ偽リ若クハ故ラニ記載ヲナサスシテ脫稅ヲ謀リ又ハ脫稅シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル烟草ヲ沒收ス

第二十六條 第四條第廿一條ヲ犯シタル者又ハ帳簿ノ調製記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上

二十圓以下ノ罰金ニ處シ第廿一條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其印紙ヲ沒收ス

第廿七條 第十二條第十三條第十四條第十七條ヲ犯シタル者又ハ賈流抵當流ノ葉煙草ヲ煙草製造人煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シ又ハ賈流抵當流ノ製造煙草ヲ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第廿八條 第十六條第一項第二十條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ尙ホ其犯罪ニ係ル煙草及ヒ物品ヲ沒收シ第十六條第一項ヲ犯シタル者ハ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第廿九條 煙草自用者ニシテ葉煙草若クハ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解錠毀損シタル製造煙草ヲ買受ケタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第卅條 此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡シ又ハ消糜シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第卅一條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第卅二條 煙草營業者ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタル者ハ其營業者ヲ處罰ス

煙草營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此稅則ヲ犯シタル者ハ其後見人ヲ處罰ス

第卅三條 煙草印紙ノ種類及ヒ此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第卅四條 此稅則ハ明治廿一年七月一日ヨリ施行ス

附則

第卅五條 沖繩縣及ヒ東京府管下小笠原伊豆七嶋ニハ當分此稅則ヲ施行セス

但此稅則施行ノ地ニ煙草ヲ輸送スル者ハ此稅則ニ從フヘシ

第卅六條 此稅則布達以前ニ免許ヲ受ケタル煙草營業者ニシテ第二條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ツ可シ

第卅七條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草製造人ハ三ヶ月以内ニ第三條ニ依リ證約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

第卅八條 此稅則施行以前ヨリ煙草仲買人煙草小賣人ノ所持スル卷煙草ハ煙草製造人ニ委託シ又ハ自ラ包裹ヲ施シ印紙ヲ貼用スヘシ

第卅九條 此稅則發布以前ニ裝置シタル刻煙草ハ此稅則施行ノ日ヨリ三月以内ハ之ヲ賣捌クヲ得

前項ノ期限ヲ過キ賣捌ニ至テサル刻煙草ハ其所持人ニ於テ煙草製造人ニ委託シ又ハ自ラ此稅則ニ從ヒ包裹ヲ施シ更ニ印紙ヲ貼用スヘシ

○煙草稅則施行細則

二十一年四月廿六日
大藏省令第三號

今般勅令第二十號ヲ以テ煙草稅則改正ニ就キ右施行細則左ノ通り相定ム

煙草稅則施行細則

第一條 稅則第二條ニ依リ煙草製造又ハ煙草仲買營業ノ免許ヲ願出ツル者ハ其營業ニ關スル地所建物ノ位置構造圖面ヲ其願書ニ添テ管廳ニ差出ヘシ但免許ヲ受ケタル後異動ヲ生シタル者ハ其時々管廳ニ届出ヘシ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

二十一年九月
 第六號ニテ
 省令
 又ハ
 第六號
 ナ
 仲

第二條 稅則第三條ノ證約金額ハ證約者ノ雇人、器械ノ員數及ヒ其建物ノ坪數ニ應シ
 北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム
 北海道廳長官府縣知事必要ト認ムル場合ニ於テハ前項ノ員數坪數ニ拘ハラス證約金
 額ヲ増減スルヲアルヘシ證約ノ手續及ヒ證約狀ノ様式ハ別ニ之ヲ告示スヘシ
 第三條 煙草製造又ハ煙草仲買營業免許ヲ受ケタルモノハ其營業ニ關スル家屋倉庫ノ
 圖面製造器械ノ種類箇數及ヒ雇人、弟子、職工ノ數(職工ハ其住所凡チ其府縣ノ租稅檢
 査員派出所ニ届出ツヘシ但異動ヲ生シタル凡チ其時々之ヲ届出ヘシ
 第四條 稅則第二條但書及第卅六條ノ場合ニ於テ左ニ掲グル者ハ後見人ト爲ルヲ得
 ス
 一 公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者
 一 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者
 第五條 稅則第卅六條第卅七條ノ手續ヲ履行セサル凡チハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス
 第六條 煙草營業者場外ニ住居スルトキ其家屬又ハ雇人中ニ於テ營業上自己ノ代理人
 タルヘキ者ヲ豫メ定メ置キ之ヲシテ其營業場内ニ常住セシムヘシ但代理人ノ氏名ハ
 租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ
 第七條 稅則第四條ノ仕入出賣ヲナスヲ得ル家屬雇人ハ其營業者ト同居常住ヲナス
 者ニ限ル
 第八條 煙草印紙ノ種目ハ左ノ如シ

黑色	一枚	二厘
淡赭色	一枚	三厘
黃色	一枚	四厘
赭色	一枚	六厘
萌黃色	一枚	八厘
淡青色	一枚	壹錢
茶褐色	一枚	壹錢貳厘
淡紅色	一枚	壹錢六厘
桔梗色	一枚	壹錢八厘
橙黃色	一枚	貳錢
老綠色	一枚	貳錢四厘
濃青色	一枚	三錢
淡黑色	一枚	三錢貳厘
黃綠色	一枚	四錢
嬌栗色	一枚	四錢八厘
紫色	一枚	六錢
朱色	一枚	六錢四厘
赤色	一枚	八錢

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

第九條 製造煙草ノ包裹每一箇ノ定量種類ハ左ノ制限ニ從フヘシ

刻煙草每一包(函)ニ付	百匁入
	八十匁入
	六十匁入
	五十匁入
	四十匁入
	三十匁入
	二十匁入
	十五匁入
	十匁入
	五匁入

卷煙草每一包(函)ニ付	二百本入
	百本入
	五十本入
	二十本入
	十本入
	六本入

第十條 稅則第八條第九條ノ場合ニ於テ製造者ハ各種煙草一束毎ニ各之ヲ紙袋入り又

ハ紙包入りトシ其包裹ノ接キ目、合セ目等ハ糊類ヲ以テ完全ニ之ヲ固着シテ貼用印紙ヲ破損セサレハ煙草ヲ取り出スヲ得サル様ニ密封スヘシ

製造煙草每箇ノ本數、定價、氏名、住所及ヒ製造ノ年月日ハ普通ノ文字ヲ以テ鮮明ニ之ヲ包裹ノ表面ニ記入スヘシ

第十一條 煙草印紙ハ數枚連貼スルヲ得

第十二條 製造煙草一箇ノ定價錢位ニ滿タサル端數ナルキハ二厘印紙ヲ貼用スヘキモノトス

第十三條 毀損又ハ汚染セル印紙ハ其効ナキモノトス

第十四條 煙草營業者ハ既ニ用キタル煙草印紙又ハ其包裹ヲ所持スルヲ得ス又何人

ニテモ之ヲ賣買シ若クハ讓渡讓受ヲナスヲ得ス

第十五條 煙草營業者ハ商品見本トシテ毎種刻煙草五匁紙卷煙草十本葉卷煙草五十本ニ超ヘサル包裹ヲ切披キ之ヲ店頭ニ陳列スルヲ得

第十六條 稅則第九條貼用印紙ノ消印ハ曲尺七分以上ノモノヲ用ヒ黒肉ヲ以テ其包裹封緘ノ要部ト印紙ノ彩紋トニ掛ケテ之ヲ押捺スヘシ

第十七條 煙草製造人製造スル煙草ハ其自用ニ供スル者ト雖モ總テ煙草稅則ニ從フヘシ

第十八條 煙草製造人、仲買人ニシテ葉煙草ヲ買入レ又ハ預リタル片ハ壹俵、壹カマス又ハ壹束毎ニ其葉ノ種類、量目、及ヒ買入レタル番號、年月日、賣主ノ住所、資格、氏名ヲ記シタル標札ヲ附ケ置クヘシ

第十九條 煙草營業者ハ第三條ニ依リ租稅檢査員派出所ニ届出テタル家屋倉庫ノ外ニ煙草ヲ藏置スルヲ得ス但葉取り葉搾又ハ賃卷ノ爲ニ煙草ヲ職工ニ渡ス場合ハ此限ニアラス

第二十條 煙草營業者又ハ煙草耕作人葉煙草又ハ製造煙草ヲ運送スル片ハ送狀ヲ其荷物ニ添付スヘシ

第二十一條 煙草送狀ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 葉煙草ノ種類、番號、荷造ノ區別、箇數、量目、荷數、荷送主ノ氏名住所
- 一 製造煙草ノ種類、包裹ノ區別、箇數、荷送主ノ氏名住所

第廿二條 煙草製造人ハ煙草印紙買入帳ヲ調製シ印紙買入ヲナス毎ニ之ヲ携帶シ印紙賣捌人ヲシテ左ノ事項ヲ記載シ其名下ニ押印セシメ置クヘシ

- 一 印紙賣渡ノ年月日
- 一 印紙ノ種類毎數
- 一 賣捌人ノ氏名住所

第廿三條 輸出製造煙草ノ檢査ヲ受ケントスルモノハ種類・箇數・定價・印紙稅額ノ仕譯書ヲ添ヘ輸出港稅關ニ提出ヘシ但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル製造煙草ヲ本邦ニ輸入シ其金額ヲ納ムルトキモ亦タ同シ

第廿四條 稅則第十條ノ帳簿ノ調製記載ノ方式ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム

第廿五條 送狀ヲ添付セサル煙草荷物ハ租稅檢査員其荷物ノ運送ヲ差留ムルコトアルヘシ

第廿六條 代替ノ片若クハ鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ氏名住所營業場ヲ改易シタル片ハ管應ニ届出左ノ期日以内ニ鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ但稅則第五條ニ從ヒ鑑札料ヲ納ムヘシ

一 代替書換ハ六十日間
一 其他ノ書替再渡ハ十日間

第廿七條 煙草稅則及此規則ニ掲クル帳簿書類ハ三箇年間保存スヘシ

第廿八條 煙草營業者廢業ノ節ハ租稅檢査員派出所ニ届出其製造器械ニハ當該官吏ノ封印ヲ受クヘシ

第廿九條 第九條第十條第十四條第十九條第廿條第廿一條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第一條第三條第六條第十六條第十八條第廿一條第廿二條第廿六條第廿七條第廿八條第卅一條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第卅條 稅則第卅八條及第卅九條第二項ノ場合ニ於テ煙草營業者包裹ヲ施シ又ハ印紙ヲ貼用スル片ハ稅則第八條第九條ノ手續ニ從フヘシ

第卅一條 從來免許ヲ受ケテ煙草營業ヲナス者ハ本年七月三十一日マテニ第一條ノ第三條ノ届出ヲナスヘシ

○煙草稅則取扱方要領 二十一年四月二十七日 大藏省訓令第二十二號
煙草稅則改正ニ就キ其取扱方要領左ノ通心得ヘシ
煙草稅則取扱方要領
第一款 吸烟ノ用ニ供スル煙草類(混和製ノ諸品トモ)ハ總テ稅則ニ照シテ之ヲ取扱フヘキモノトス
第二款 左ノ事項ハ從來各府縣ニ於テ經驗セル取締規則其他ノ慣例ヲ參酌シ改正稅則ノ精神ニ基キ適當ノ取締ヲ施スヘキモノトス
一 葉煙草ノ取締即チ檢證封印等ノ方法ヲ施ス
一 收穫ノ調査ヲ施ス

- 一 質、抵當ニ係ル煙草ノ受授及廢業者所持ノ煙草賣捌方ニ就テ取締ヲ施ス
- 一 煙草製造ニ關スル場所ニ取締ヲ施ス
- 一 煙草製造器械ノ取締即烙印等ノ方法ヲ施スコト
- 一 内國産製ニ非ル煙草ノ取引賣買貸借等ニ就テ取締方法ヲ施ス
- 第三款 稅則第四條仕入出賣ノ免許鑑札ニハ各其受免許人ノ屬籍、氏名、年齢、免許ノ番號及其年月日ヲ記載スヘシ
- 第四款 製造煙草ノ包裹ニ各種ノ商標、彩紋、裝飾ヲ加フルハ製造人ノ便宜ニ任ス但豫メ其見本ヲ租稅檢査員派出所ニ届出置カシムヘシ
- 第五款 天災其他抗拒スヘカラサル事故ニ罹リ煙草營業者所持ノ煙草包裹及其貼用印紙毀損又ハ汚染セル場合ニ於テハ當該官吏其事實ヲ審明シタル上特ニ其印紙ノ交換ヲ許スヘシ但交換ノ手續ハ別ニ告示スヘシ

○煙草營業者及煙草印紙賣捌人ニ於テ帶印紙角印紙

ニ交換請求方

二十一年五月一日
大藏省告示第五十九號

- 一 煙草營業者及ヒ煙草印紙賣捌人ニ於テ本年七月一日ニ持越シ未タ使用セサル帶印紙ノ損傷汚染ナキモノハ角印紙ト引換ヲ請フヘシ
- 一 煙草營業者及ヒ煙草印紙賣捌人ハ該帶印紙ノ種類枚數仕譯書並ニ之レト引換ヲ請ハントスル角印紙ノ種類枚數仕譯書ヲ作り本年七月十日限郡區役所ニ差出スヘシ
- 一 現品引換ハ本年八月十五日マテニ郡區役所ニ申出ヘシ

一 第一項ノ期限内ニ仕譯書ヲ差出サス又ハ第二項ノ期限内ニ現品引換ヲ申出サルモノニハ引換ヲ許サス

○煙草稅則中證約狀調製手續

二十一年四月三十日
大藏省告示第五十八號

本年四月勅令第二十號煙草稅則第三條ニ據リ管廳ニ差出ス證約狀ノ調製手續左ノ如シ

證約狀調製手續

- 第一項 證約狀ハ左ノ様式ニ據リテ調製シ煙草製造營業出願ノ際願書ト共ニ差出スヘキモノトス
 - 第二項 證約金額ハ管廳ノ指示スル所ニ從ヒテ掲記スルモノトス
 - 第三項 證約狀ノ保證人ハ最寄郡區内ニ住シ正實ニシテ同府縣内ニ於テ所得稅ヲ納ムル資産アル者二名以上ヲ要ス
- 證約狀
- 一金何十圓也
 - 一 私儀煙草製造營業許可相成候上ハ左ノ事ヲ確守スル爲メ前項ノ通證約金額ヲ掲記シ保證人ト共ニ署名調印ノ上證書ヲナス
 - 第一款 營業上ニ關スル法律規則ヲ遵守シ正實ニ營業ヲナス
 - 第二款 此證約ニ違背シ前記證約金額ノ一部又ハ其全部ヲ徵收セラル、片ハ徵收御達ノ日ヨリ五日以内ニ無相違完納スヘキ事
 - 第三款 前款日限内ニ證約金ヲ上納セサル片ハ連署ノ保證人ニ於テ直ニ本人ニ代リ

辨納可致事

右之通相違無之候也

年 月 日

何府何郡何町 本人	何府何郡何町 何 某 印
何府何郡何町 保證人	何府何郡何町 何 某 印
何府何郡何町 保證人	何府何郡何町 何 某 印

何府知事氏名殿

○各種煙艸印紙ノ形質彩紋ハ現行ノモノ全様

二十一年六月二十五日
大藏省告示第八十五號

明治二十一年(四月)大藏省令第三號煙草稅則施行細則第八條ノ各種印紙^{煙草印紙ノ形質}彩紋ハ現行ノモノニ同シ

○煙草印紙交換手續 二十一年七月二日
大藏省告示第八十九號

煙草稅則改正ニ付煙草印紙交換手續左ノ通之ヲ定ム

印紙交換手續

第一條 製造營業者天災其他抗拒スヘカヲサル事變ニ罹リ其所持スル製造煙草ノ包裹若クハ其包裹ニ貼用シタル印紙ヲ毀損若クハ汚染シタルハ其損失ニ係ル印紙ノ價

格一口壹圓以上ノ者ニ限ル印紙交換ヲ請求スルヲ得

第二條 印紙交換ヲ請求セントスル煙草營業者ハ其天災其他抗拒スヘカヲサル事變ニ罹リタル年月日場所實況及損失ニ係ル印紙ノ價格ヲ記載シ所在租稅檢査員派出所ニ差出シ其審明ヲ受クヘシ

第三條 租稅檢査員其事實ヲ審明シ印紙交換ヲ許可スヘキモノト認ムルハ損失ニ係ル印紙ヲ毀却シ其煙草ニ封印ヲ施シ煙草營業者ヲシテ其交換ヲ要スル印紙ノ種類枚數仕譯書ヲ調製セシメ其餘白ニ審明ヲ證シ年月日官氏名ヲ記載シ官印ヲ押捺シテ之ヲ煙草營業者ニ下戻スヘシ

第四條 煙草營業者ハ前條印紙種類枚數仕譯書ヲ所在郡區役所ニ差出シ交換ヲ請求スヘシ

第五條 印紙交換ノ價格割合ハ左ノ如シ

- 損失ニ係ル印紙ノ價格 下付スヘキ新印紙ノ價格
- 一 貳拾圓未満壹圓ニ付 八拾錢
 - 一 貳拾圓以上壹圓ニ付 八拾五錢

第六條 郡區役所ニ於テハ第三條ノ審明書ヲ調査シ前條ノ割合ニ據リ新印紙ヲ下付スヘシ

第七條 煙草營業者新印紙ヲ請取リタルハ租稅檢査員派出所ニ申出第三條煙草封印ノ解除ヲ請ヒ包裹ヲ改施シ印紙ヲ貼用シ更ニ檢査ヲ受クヘシ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

○舊裝置烟草ノ帶印紙交換手續

二十一年八月二十一日
大藏省告示第七號

本年六月三十日以前ノ舊裝置ニ係ル刻烟草ヲ結束シアル帶印紙ノ交換手續左ノ如シ
舊裝置烟草ノ帶印紙交換手續

第一款 烟草營業者ハ次ノ各款ニ從テ舊裝置烟草帶印紙ノ交換ヲ請求スルコトヲ得
第二款 本年六月三十日以前ノ舊裝置ニ係ル刻烟草ヲ結束シアル帶印紙ニシテ左ノ資
格ニ合スルモノハ其印紙ノ價額一口拾圓以上ヲ取廻メタル分ニ限り新印紙ト交換ス
ルコトヲ許ス

- 一 刻烟草ヲ結束セル儘ニシテ毫モ再用ノ疑ナキモノ
- 一 毀損又ハ汚染セサルモノ
- 一 裝置完全ニシテ且其製造ノ年月日ヲ鮮明ニ記載シアルモノ
- 一 稅則違背ノ廉ナキモノ

第三款 交換ヲ請求セントスルモノハ本年十月五日限り其舊裝置烟草ノ束數各束ノ
量區分及ヒ之ヲ結束セル帶印紙ノ各種類枚數價格仕譯書ヲ調製シテ所管稅稅檢査委
員派出所ニ差出シ其審明ヲ受クヘシ

第四款 稅稅檢査員ハ其事實ヲ審査シ交換ヲ許スヘキト認ムルモノハ請求人ニ指示シ
テ直チニ稅則第三十九條第二項ニ從テ改裝及ヒ印紙更貼ノ手續ヲ履行セシムヘシ
第五款 前款ノ場合ニ於テ改裝及ヒ印紙更貼ノ手續ヲ直チニ履行シ難キハ請求人ハ
其理由ヲ稅稅檢査員ニ申立テ其烟草ハ封印ヲ受ケ更ニ日ヲ期シテ手續ヲ履行スヘシ

シ

第六款 第四款又ハ第五款ニ依リ履行スヘキ烟草改裝及ヒ印紙更貼ノ手續ハ稅稅檢査
員ノ指示スル所ニ從フヘシ

第七款 前款ノ檢査ヲ了ヘタルキハ稅稅檢査員ハ其舊印紙ニ封印ヲ緘シ第三款ノ仕譯
書餘白ニ密明ヲ登記シ年月日官氏名ヲ署シ官印ヲ押捺シテ之ヲ請求人ニ下渡スヘシ

第八款 第三款ノ仕譯書中ニ於テ交換ノ格ニ合ハサルモノヲ混記シアル場合ニハ稅稅
檢査員ハ其書面ヲ訂正シタル上前款ノ手續ヲ爲スヘシ

第九款 請求人ハ第七款ノ仕譯書審明證ヲ所管郡區役所ニ差出シテ印紙ノ下付ヲ請フ
ヘシ

郡區役所ハ前項ノ仕譯書審明證ニ照シ後款ニ掲クル所ノ割合ニ據リテ新印紙ヲ請
求人ニ下付スヘシ但下付スヘキ新印紙ノ種類ハ郡區役所ノ便宜ニ隨フモノトス

第十款 印紙交換ノ價格割合ハ左ノ如シ

舊帶印紙ノ價格

下付スヘキ新印紙ノ割合

- 一 每一口百圓未満 百分ノ九十二
- 一 每一口百圓以上 百分ノ九十三

第十一款 第三款ノ期限以内ニ請求手續ヲ爲サ、ルモノハ交換スルコトヲ許サス

●何指令

●無印紙烟草賣捌ノ件ニ付山口縣ヨリ大藏省ヘ伺(二十年七月廿三日
同年八月十日官報)

第十二類 稅稅及貨紙幣公債區町村費

煙草製造營業人無印紙刻煙草ヲ所持シタルコト發覺裁判所ニ於テ裁判ノ未之ヲ沒收スルノ旨渡テナシタルニ被告ハ其裁判ニ服セス上告ヲナシタル處大審院ニ於テ原裁判ヲ破棄シ更ニ同院ニ於テ該煙草ハ被告ニ還付セラレタルナキハ承知スト雖モ營業稅及ヒ印紙買入レ等ノ資力ナキヲ以テ特別宥削ノ權限出候モノ之レアリ右ハ一應許可相成ラサルモノ如クニ候得共又實際ノ事實ヲ勘考スレハ今之レヲ許可セサルハ實際資力ナクシテ營業稅金及ヒ印紙ノ買入レ等ニ差支アルハ如何ニスヘカラス已ムナク廢棄スルノ外之ナキモノ如シ然ルハ實ニ憫然ノ次第ノミナラス取締上ニ於テモ亦甚不取締ノ場合モ可有之勞以テ此處分方ヲ考按スルニ買受人製造營業ト連署ヲ以テ其賣買ヲ願出サセ特別ニ許可ヲ與ヘ買受人ニ於テ相當印紙貼用販賣セシムルハ實際取テ不都合モ無之雖在セラレ候右類別モ無之ニ付相伺候

指令 二十年八月一日
伺ノ趣

●烟草稅則第三項證約金ノ件(山口縣)伺明治廿一年六月十三日

勅令第二十號改正烟草稅則第三條第三項ニ據レハ製造營業人ヨリ證約狀ヲ徵シ若シ稅則ニ關シテ其他證約ニ違背スル事アルトキハ其證約金ノ全部又ハ一部ヲ徵收可致答ニテ其徵收金ハ第二部徵入ニ編入スヘキ義御省主務局ヨリ御送付ノ間答書中ニ相見候得共相當ノ科目無之何レハ編入可致成猶又右ハ科料罰金ヘ其性質類似ノモノニ付徵入處出納規則第十六條ニ可屬モノト相心得可然哉

(大藏省) 指令 明治廿一年六月廿九日
伺ノ趣ハ雜收入ノ款辨償金ノ項送納金ノ目ヲ以テ整理スヘシ但該金徵收方ハ中山ノ通

第百十六章 證券印稅規則 明治十七年五月一日

明治七年(七月)第八十一號布告證券印稅規則別冊ノ通改正シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治八年(七月)第百二十號布告ハ同日ヨリ廢止ス
右奉 勅旨布告候事

(別冊)

證券印稅規則

第一條 凡ソ財產ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用フル證書帳簿ハ此規則ニ循ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 證書帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ

第一類

左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラズ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ但當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ稅印ノ押捺ヲ請フヲ得

一 當座預リ金引出小切手	印稅五厘	一 委任狀	同 五厘
一 金高記載ナキ約定證文	同 壹錢	一 遺物證文	同 壹錢
一 跡式讓證文	同 壹錢	一 讓與證文	同 壹錢
一 期限ヲ定メサル預リ金證文	同 壹錢	一 耕地小作證文	同 壹錢
一 雇人請令狀	同 壹錢	一 金高記載ナキ諸物品預リ證文	同 壹錢
一 金高記載ナキ諸物品借用證文	同 壹錢	一 地所預リ證文	同 壹錢
一 諸物品切手	同 壹錢	一 借地證文	同 壹錢
一 買賣仕切書	同 壹錢	一 借家證文	同 壹錢
		一 保險證文	同 壹錢

- 一 諸會社株券 同 壹 錢 一 送金手形 同 壹 錢
- 一 金 錢 通帳 一年以内 同 壹 錢 一 金 錢 判取帳 同 同 貳拾錢
- 一 結社約定書 同 壹 錢

但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確定スル證書帳簿ハ金高
記載ナシト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約證書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限り下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ
一 營業ニ關スル送狀 印稅壹 錢 一 營業ニ關スル請取書 同 壹 錢

第二類

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以内一冊ニ付壹錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ
左ニ掲クル所ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ
但爲替手形約束手形ハ手形用紙ヲ用フヘシ

- 一 金錢借用證文 一 地所賣買證文
- 一 金高記載アル諸物品預リ證文 一 金高記載アル諸物品用證文
- 一 諸物品賣買證文 一 金錢定期預リ證文

- 一 金高壹圓以上貳拾圓未満 印稅壹 錢 金高貳拾圓以上五拾圓未満 同貳 錢
- 一 金高五拾圓以上百圓未満 同 四 錢 金高百圓以上百五拾圓未満 同六 錢
- 一 金高百五拾圓以上貳百圓未満 同 八 錢 金高貳百圓以上三百圓未満 同拾壹錢

- 一 金高三百圓以上四百圓未満 同 拾四錢 金高四百圓以上六百圓未満 同貳拾錢
 - 一 金高六百圓以上八百圓未満 同 廿六錢 金高八百圓以上千圓未満 同卅貳錢
 - 一 金高千圓以上千四百圓未満 同 卅八錢 金高千四百圓以上千七百圓未満 同三十二錢
 - 一 金高千七百圓以上貳千圓未満 同 五拾錢 金高貳千圓以上貳千五百圓未満 同六拾錢
 - 一 金高貳千五百圓以上三千圓未満 同 七拾錢 金高三千圓以上三千五百圓未満 同八拾錢
 - 一 金高三千五百圓以上四千圓未満 同 九拾錢 金高四千圓以上 同壹 圓
- 右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附近見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ
一 金錢當座預リ證文 印稅四 錢 金高百圓以上總テ諸證書稅率ニ據ルヘシ
- 一 金高壹圓以上貳拾圓未満 印稅壹 錢 金高貳拾圓以上 同貳 錢
- 右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附近見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ
一 爲替手形 印稅貳 錢 金高百圓以上 同四 錢
- 一 爲替手形 二 荷爲替手形 一 約束手形
 - 一 金高五拾圓未満 印稅壹 錢 金高五拾圓以上百圓未満 同貳 錢
 - 一 金高百圓以上貳百圓未満 同 四 錢 金高二百圓以上五百圓未満 同八 錢
 - 一 金高五百圓以上千圓未満 同 拾五錢 金高千圓以上二千圓未満 同廿五錢
 - 一 金高貳千圓以上 同 五拾錢

第三條 前條ニ掲クル所ノ證書帳簿ト効用ヲ同フスルモノハ其名稱ニ拘ハラス稅率ニ

第十二條 租稅及貸紙幣公債區町村費

照シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第四條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙ヲ貼用セサルモノハ民事裁判上之ヲ受理セス但處罰ヲ受クル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニ在ラス
第五條 印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ授受ノ前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用シ證書帳簿記名ノ下ニ押捺スル印紙ヲ以テ證書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スヘシ

第六條 印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 印紙及ヒ手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第八條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿仕切書送り狀ハ主任官之ヲ検査スルコトアルヘシ

第九條 左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

- 一官廳ヨリ差出ス證書帳簿
- 一官吏准官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル議員若クハ公立學校病院ニ從事スルモノ各其職務ニ依テ用フル證書
- 一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ差出ス預リ金ニ對スル抵當證書
- 一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ證書帳簿
- 一金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ差出ス請書
- 一諸上納金ニ付國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ納入ヘ差出ス請取證書
- 一罹災救助金獻金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス證書

第十條 第二類ノ帳簿ハ初丁ヘ附込見積金高及ヒ使用期限紙數ヲ記載スヘシ但物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載スヘシ

第十一條 證書帳簿ニ稅率ノ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十二條 印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿チタルトキハ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官検査ノ節之レニ檢印ヲ受クヘシ

第十三條 前條ノ帳簿餘白アリテ尙之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條 第二類ノ帳簿見積金高未タ滿タサルカ又ハ使用期限未タ盡キサルニ紙數盡キタルトキハ更ニ紙數ヲ增加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側ニ其事由及ヒ増加シタル紙數ヲ記載スヘシ

第十五條 證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國ノ貨幣ニ改算シタル金高ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十六條 取換セ證書ハ雙方トモ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十七條 證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト効用ヲ異ニスルモノ若クハ金高ニ増減ヲ生スルモノハ其副書又ハ其裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十八條 此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ルモノハ處罰ヲ受クル後證書帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得

第十九條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ手

形用紙ヲ用ヒス若クハ不足税ノ手形用紙ヲ用ヒタルモノハ賦税高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十條 第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲サス又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタルモノハ印税高十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十一條 此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ請入證人トシテ加印シタルモノハ各正犯ニ係ル科料罰金ノ半額ニ相當スル科料又ハ罰金ニ處ス

第二十二條 第八條ノ證書帳簿ノ検査ヲ拒ミタルモノハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第十條及ヒ第十三條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス
第二十四條 第十二條及ヒ第十四條ヲ犯シタルモノハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條 第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒收シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 前數條ノ罪ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

○證券印紙及手形用紙種類定價

明治十七年五月二日
大藏省第五十六號告示

今般第十一號布告ヲ以テ證券印税規則改正候ニ付テハ印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價左ノ通り相定ム
但印紙ハ當分ノ内新舊取交貼用スルコトヲ得

紙	赭色	定價 五厘	橙黄色	同	壹錢
	黄綠色	同 貳錢	萌黄色	同	五錢
	桔梗色	同 拾錢	青色	同	貳拾五錢
	淡黑色	同 五拾錢	赤色	同	壹圓
手形印紙					
	老綠色	定價 壹錢	桔梗色	同	貳錢
	淡黑色	同 四錢	橙黄色	同	八錢
	淡赭色	同 拾五錢	淡紅色	同	貳拾五錢
	淡青色	同 五拾錢			

右布達候事

○證書帳簿用紙貼用ノ様式

明治十七年五月十日
大藏省第五十六號告示

本年五月第十一號布告證券印税規則改正相成候ニ付證書帳簿へ印紙貼用ノ様式左之通相定候條此旨告示候事

金高記載證書印紙貼用様式

證書差出人ノ印

證書

印紙 印紙

一金何百何拾圓

右者、

年月日 何ノ誰印

何ノ誰殿

同上

證書差出人ノ印

證書

印紙

一金何圓何拾錢
一金何拾圓

合金何拾圓何拾錢

右者、

年月日 何ノ誰印

何ノ誰殿

十七年八月十八日
 告示ノ以テ
 (期限)ノ下
 (本年限)ト
 アルヲ何
 年云々ト
 改正

金高記載ナキ證書印紙貼用様式

證書差出人ノ印

何證文ノ事

印紙

今般何々、

年月日 何ノ誰印

第一類帳簿印紙貼用様式

帳簿主ノ印

帳簿

印紙 印紙

此帳簿附込期限 何年何月何日
何年何月何日 何年

紙數何百何拾何葉

年月日 何ノ誰印

第二類帳簿印紙貼用様式

帳簿主ノ印

印紙 印紙

此帳簿附込見積金何千圓

附込期限 何年何月ヨリ 何年何月マデ 何年

紙數何百何拾何葉

年月日 何ノ 離印

第一類第二類帳簿附込印紙貼用様式

帳簿主ノ印

印紙 印紙

此帳簿附込期限 何年何月ヨリ 何年何月マデ 何年

此帳簿附込見積金何千圓

附込期限 何年何月ヨリ 何年何月マデ 何年

紙數何百何十何葉

年月日 何ノ 離印

○當座預引出小切手押印出願及納稅手續

明治十七年六月十八日 大藏省第七十五號告示

當座預金引出小切手押印出願及納稅手續左之通相定候條此旨告示候也

一 當座預金引出小切手ニ稅印捺捺ヲ請フトキハ其枚數ヲ詳記セル書面へ小切手ヲ添へ主稅局へ差出スヘシ

一 主稅局ニ於テハ押印濟ノ上其枚數ヲ願人へ相達シ願人ハ此枚數ニ對スル稅金ニ左ノ離形之通ナル預ケ證書ヲ添へ東京國庫金取扱所ニ差出該證書ニ稅金預リ濟證印ヲ受ケ小切手引換ニ同局へ上納スヘシ

(離形略之)

○證券印稅規則中當座預リ金引出小切手押印稅徵

收方東京府各區役所ニ於テ取扱ハシム

十九年四月十日 大藏省告示第三十一號

證券印稅規則第二條第一類證書中當座預リ金引出小切手押印稅徵收方是迄當省ニ於テ取扱タル處明治十九年度以後右徵收ハ當分ノ内東京府各區役所ニ於テ之ヲ取扱フモノトス

右告示ス

○稅印小切手捺換等ノ件

二十年六月十七日 大藏省令第十號

明治十二年第三拾壹號布告ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケタル小切手並十七年第十一號布告ニ依リテ押印ヲ受ケタル引出小切手未タ使用セサルモノニシテ銀行會社ノ合併其他ノ事故ニ由リ不用ニ屬スル分ハ更ニ稅印ノ捺換ヲ請フコトヲ得但十七年七月以後ノ押印

ニ係ルモノハ手数料トシテ壹割ヲ減シ即チ舊小切手百枚ニ對シ新小切手九拾枚ノ割合
ヲ以テ税印ヲ捺換スルモノトス

○證券印稅檢査規程

明治十七年八月
大藏省第六十號通府廳

本年(五月)第十一號布告ヲ以テ證券印稅規則改正相成候ニ付右檢査規程左ノ通知定ム
右相違候事

證券印稅檢査規程

- 第一項 府縣收稅官吏ハ明治十七年第十一號布告證券印稅規則第八條ニ記載セル證書
帳簿ノ檢査ヲ行フヘシ
- 第二項 檢査ヲ分テ二ト爲シ一ヲ定期檢査トシ一ヲ臨時檢査トス
- 第三項 定期檢査ハ毎年四五六ノ三ヶ月間ニ於テ之ヲ行ヒ臨時檢査ハ該檢査ヲ必要ト
スル場合ニ於テ之ヲ行フヘシ
- 第四項 檢査員ヲ派遣スルニハ府縣管内ヲ數部ニ區畫シ每部其擔當員二名以上ヲ定ム
ヘシ
- 第五項 檢査員ハ其擔當部内ノ商況戶數及路程ノ遠近ニ應シ一町村若クハ數町村ヲ
以テ一區トシ區内ノ便宜ヲ量リ檢査場ヲ設クヘシ
- 第六項 檢査員ハ豫シメ檢査日割ヲ定メ其日割及前條檢査場ヲ其區内ノ町村ニ告知ス
ヘシ

第七項 臨時檢査ノ節ハ時宜ニヨリ前第五項第六項ノ手續ヲ履行セサルコトアルヘシ

第八項 檢査ハカメテ便捷ヲ要シ人民ノ營業ニ障害ナキヲ圖ルヘシ

第九項 檢査員檢査ノ要領左ノ如シ

- 一 證書帳簿上印紙貼用ノ有無當否
 - 一 帳簿見積金高及使用期限紙數記載方ノ有無當否
 - 一 貼用印紙消印ノ有無當否
 - 一 印紙再貼用又ハ印紙偽造變造ノ有無
帳簿調製上詐偽ノ有無
 - 一 證書帳簿差出方店舖商況ニ相應スルヤ否
- 第十項 檢査員ハ豫メ帳簿ヲ備へ受檢査人ノ宿所職業姓名及證書帳簿ノ種類員數ヲ記
載スヘシ
- 第十一項 證書帳簿ノ檢査ヲ受ケサルモノ又ハ之ヲ受クルモ尙疑訝ニ涉ルモノアルト
キハ直チニ本人家宅ニ就テ檢査ヲ爲スヘシ
- 第十二項 檢査員ハ檢査セシ證書帳簿ニ檢印スヘシ
- 第十三項 (明治十八年四月大藏省達第十七號ヲ以テ刪除ス)
(用紙美濃紙) (帳簿名ハ實際記名ノ儘ヲ掲クヘシ)

自明治何年何月何日 証券印稅檢査濟報告表
至全 何年何月何日

第十二類、租稅及貨紙幣公債區町村製

國名	何		國			合		何	
	郡	區	何	郡	何	小計	何	小計	
帳簿	何	何	何	何	何	何	何	何	何
送	何	何	何	何	何	何	何	何	何
仕	何	何	何	何	何	何	何	何	何
判	何	何	何	何	何	何	何	何	何
取	何	何	何	何	何	何	何	何	何
通	何	何	何	何	何	何	何	何	何
帳	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何

國	合		總	
	小計	計	計	計
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、

右及報告候也

年月日

主税官長宛

何縣收稅長 姓名印

(參照) 明治十七年八月大藏省通第六十號

第十三項 検査證書帳簿ノ種類員數及犯則ニ係ル證書帳簿ノ員數ハ一回分取廻メ左ノ報告書式ニ依ヒ收稅長ヨリ主稅局ニ報告スヘシ

但臨時検査ノ節ハ検査ノ實況ヲ報告スヘシ

伺指令

● 諸帳簿貼用印紙消印ノ徴ニ付静岡縣ヨリ大藏省へ伺十六年八月九日

證券印紙稅規則第三則第二條ニ見稱金高ナ帳簿ノ初丁ニ自記シ其金高ニ相當スル印紙貼用ノ上ハ必ス實印ヲ以テ關

印スヘキナ會社ニ在テハ取引上社長若クハ頭取等ノ名義ヲ以テ取替ヒタル證券類ハ貼用印紙ノ消印ハ其社長若クハ頭取ノ實印ヲ用フヘキニ取人共同結社セシモノナレハ會社名ヲ以テスル簡帳簿ハ貼用印紙ノ消印ニハ其社ノ印形ヲ用フルモ蓋支ナキヤ右相伺候也

指令 何ノ通 十六年八月廿二日

●長野縣罪裁判所檢事ヨリ證券印紙貼用方ノ儀ニ付司法省ヘ請訓

十六年十月九日

甲アリ借用證券ヲ乙ニ入金借申入タルニ乙ハ該證券ヲ受取リ納シ甲ニ金貸貸與ヘリ後テ其證券ハ甲ノ偽造ナルヲ發覺シ乙ハ茲ニ始メテ其不正ナルヲ知リシモ締約ノ當初正當證券ト信シテ貸借セリ此ノ如キハ甲方犯罪發覺ニ依リ後テ不正ノ證券ニ歸スルモ証券授受ノ當初ハ彼我對約ナルヲ以テ無論證券面金高相當ノ證券印紙ヲ貼用スヘキ筈ニテ自然貼用無之分ハ其證券効ト無効トナ不問現行證券印稅規則違犯トシ違問ノ罰金ヲ科シ可然該違犯事件有之候條至急仰訓示候也

内訓 十六年十月廿二日

則紙請訓之趣証券ノ無効ニ屬スル場合ハ犯則ヲ以テ論スルノ限ニアラス此旨及内訓候也

●證券印稅規則中帳簿ノ儀ニ付靜岡縣ヨリ大藏省ヘ伺十七年一月廿八日

金高記載アル封金ノ儘受取タルモノハ第一類金錢判取帳ヘ記載セシムヘキヤ檢査ノ際貼用印紙ヘ他ノ印章ヲ以テ印シアルキハ後來ヲ戒メ更ニ實印ヲ押サシムヘキヤ

指令 十七年一月廿九日

前段金高記載アル封金ノ儘受取ルモノハ物品取戻ト屬認メ寄物判取帳ヘ記載セシムヘシ
後段申出ノ通

●證券印稅規則ノ儀ニ付愛媛縣ヨリ大藏省ヘ伺十七年一月三十一日

證券借証書類ヲ貸借シ期限返却ノ節其借主ヨリ發許ノ附金ヲ與フヘキ旨記載アル證券ハ證券印稅規則第二類第一類ノ金銀約定証文トシテ其附金ノ額ニ應ジ界紙又ハ印紙ヲ用ヒ無附借貸借ノ分ハ其證券ニ證券面ノ金額ヲ記入スルモ個ハ證券面ノ金額ヲ轉記シタルマテニテ實際取戻ヲ爲スヘキ金額ニアラサルヲ以テ金高記載無之約定証文トシ總テ界紙ヲ用ヒ可然該但公債証券預リ証文ノ儀モ本文ニ準シ可然哉

指令 何ノ通 十七年一月廿二日

●證券印稅徵收ノ儀ニ付山形縣ヨリ大藏省ヘ伺十七年三月七日

地所買賣讓與等ニテ地券ヘ名面記入ノ領出願ノ節破損或ハ虫蝕等ニテ記入スヘキ機無之場合ニ於テハ直ニ讓受人名面ニ書換相渡賣買ニ係ル証印稅ノミ徵收スヘキ哉又ハ目下所有者名面ニ書換ノ領出願爲致更ニ賣買手續ヲナシ証印稅ハ書換并賣買ニ係ル兩稅ヲ徵收スヘキ儀ニ有之候哉判然タル明文無之依テ聊疑議ヲ生シ候ニ付相伺候也

指令 十七年三月十八日

伺ノ趣前段申出ノ通賣買讓與ノ區別ニ據リ相當証印稅徵收スヘキ儀ト可相心得事

●米穀借用証文ニ印紙貼用ノ儀ニ付嶋根縣ヨリ大藏省ヘ伺十七年六月六日

米穀借用証文ハ証券印稅規則第一類相當印紙ヲ貼用スヘキ哉

指令 十七年六月十七日

●證券印稅規則第二條第一類中送狀金高區別ノ儀ニ付山梨縣ヨリ

大藏省ヘ伺十七年七月廿八日

證券印稅規則第二條第一類ノ証券中營業ニ關スル送狀ニシテ金高五圓以上ノモノハ壹錢印紙ヲ貼用スルノ制規ナリ然ルニ右金高ハ其送狀ヲ副フヘキ物品ノ運賃ニ係ルカ又ハ運送スヘキ物品ノ代價ニ依ルカ

指令 十七年八月七日

●證券印稅規則之儀ニ付愛媛縣ヨリ大藏省ヘ伺十七年八月八日

證券印稅規則第一類期限ヲ定メサル預リ金証文ト第二類金錢當座預リ金証文トノ區分ハ利子ノ有無ニ仍テ區分スル其運送物品ノ代價ニ據ルヘキ儀ト心得ヘシ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

モノニアテス而シテ係三條ハ前條ニ掲ケル所ノ証書帳簿ト効用ナ同フスルモノハ其名稱ニ拘ハラヌ稅率ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシノ明文アル上ハ証書差出人ニ於テ適宜ニ付記シタル名稱ニ仍リ印紙ヲ貼用セシムルモノニモアラス右ハ如何相心得然ルヘキ哉

指令 十七年九月五日

全ク貸借ノ性質ヲ帶ヒサルモノ即チ保證預リノ類ハ期限ヲ定メサル預リ金証文無定期預リ金ノ使用及利子等ヲ約諾スルモノハ金錢當座預リ証文ニ屬スル儀ト可相心得事

●定備諸職工及小使等ノ給料并旅費受領書へ印紙貼用ノ件ニ付會計

檢査院ヨリ太政官へ同十七年九月十八日

各職作業場ニ於テ工事熟練ノ者或ハ學校卒業生ヲ採用シ他ノ技手同様ノ勤務爲致其身分取扱ハ雇吏ト認ムヘキモノニシテ事業上整理ノ都合ニ依リ其給料ハ職工給ノ名義ヲ以テ仕拂フ者(工部省等級ナル職工印)又官船定備ノ水火夫及ヒ各職定備ノ給仕小使(給料月給日給ヲ論セス)若クハ旅費等受領証書へ印紙貼用シ或ハ貼用セス各職取扱上區々ニ涉リ且去ル十年九月工部省何へ御指令ノ趣モ有之候處右ハ如何相心得可然哉

指令 十七年十月廿一日

同ノ紙印紙貼用ニ及ハサル儀ト心得ヘシ

●印紙貼川之儀ニ付石川縣ヨリ大藏省へ同十七年十月七日

本縣管下金澤區共有積金ト稱ヒ區會議決ヲ以テ年年収支シ幣ニ其金ハ私立銀行へ無定期利付預ケテ爲スモノアリ右金取扱ハ都テ同區役所ニ於テ主管スルヲ以テ假令ハ人民共有金ト雖モ區長ノ職權ヲ以テ主管スル以上ハ印稅規則第九條ニ依リ該證書印紙貼用ニ及ハス哉或ハ別ニ出納取扱ヲ命シタルモノニアラサル上ハ第二類ニ依リ相當印紙貼用致サセ然ヘケ儀ニ候哉

指令 十七年七月二十日

同之趣區長ヨリ發スル證書ハ印紙貼用ニ及ハス銀行ヨリ發スル證書ハ第二類ニ據リ相當印紙貼用セシムヘキ儀

ト可相心得事

●證券印紙貼用方ノ儀ニ付農商務省ヨリ太政官へ同十七年十一月十七日

雇員等俸給旅費等ノ受取證書ニ証券印紙貼用ノ儀ハ去ル七月廿三日ノ同濟ニ依リ致區分來候處通過檢査院へ御指令ノ趣ニ依リハ今後當省各局都定備ノ定夫團丁農夫收夫等ノ給料旅費其他手續費諸人及公用旅費ノ如キ支給金ニ係ルモノノ受取證書ハ總テ印紙貼用ニ不及儀ト相心得可然哉

指令 同ノ趣 十七年十二月十二日

●官沒ニ係ル證券印紙處分ノ件ニ付愛知縣ヨリ大藏省へ同二十年一月二十六日

官邸内得遺失物ノ中證券印紙(壹錢)一葉有之候處既ニ拾得ノ日ヨリ一年ヲ經過スルモ其事主不分明ニ付今同官沒ノ處分ヲナシテリ就テハ曾テ御指令ノ旨ニ基キ該印紙ハ留メ置處分方相候儀

指令 二十年二月二日

同ノ趣官沒ニ係ル印紙ハ不取締無之候其際ニ於テ燒却スヘシ但書ハ開置ク

●證券印稅ノ件ニ付靜岡縣ヨリ大藏省主稅局へ賀儀二十年四月十二日

證券印稅規則取扱備考中規則第二條第一類(金高記載ナキ約定証文)ノ注解ニ本證書金高ノ全部又ハ幾分ノ返濟ヲ伸縮スル證書トアリ又第十七條注解ニ至リ効用ヲ異ニスルモノトハ期限ヲ定メタル借用証文ニ對シ返濟期限ヲ伸縮スル證書トアリ而シテ返濟期限ヲ伸縮スルモノノ如キハ其權理義務ニ於ル甲乙ナキ懸慮スルニ一ハ單ニ一類ニ屬シ一ハ二類ニ屬スルノ場合アルモノト如シ果シテ然リトセハ齊シク返濟期限ヲ伸縮スルモノニシテ其一類トナリ二類トナルノ區分如何ナル場合ニ於テ區分シ得ルヤ

回答 二十年四月十六日

證券印稅規則取扱備考中第十七條ノ注解ト第一類中金高記載ナキ約定証文トノ注解區別第十七條ハ第二類ノミニ對

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

シ扱ケタルモノニアラス第一類ノ第二類ノ證書ヲ總括シタル條ニテ則チ本條ノ注釋ニアル如ク金高ヲ記載セス單ニ返濟期限ノミ伸縮スルモノハ第一類ニ從ヒ相當印紙ヲ貼用シ又増減シタル其金高ヲ記載シタルモノハ第二類ニ依リ相當印紙ヲ貼用セシムルノ意義ナリ

●印紙賣捌ノ件(靜岡縣伺)明治廿一年六月廿三日

本月十二日付官報第千四百八十四號ニ登載有之候群馬縣伺賣捌ノ件ニ對スル御指令ノ趣ニ依ルトキハ登記所ニ於テ差支ナキ以上ハ該印紙ニ限リ登記所人民控所ニ出張シ之ヲ賣捌カシムルヲ得候處登記事務治安裁判所ニ於テ取扱候場所ニ限リ訴訟用印紙ヲ併セテ賣捌カシメハ一層人民ノ便利トナルノミナラス該印紙ヲ密賣スルノ憂ナキニ至リ候儀ニ付御差支無之候ハ、御許可相成度候

(大藏省) 指令 明治廿一年六月廿七日

伺ノ通

●積荷證書印紙貼用ノ件新潟縣ヨリ大藏省主稅局へ照會(十九年四月九日)

海運營業者アリ荷主ヨリ貨物ノ運送ヲ依託セントキ別紙一號二號ノ如キ證書ヲ發セリ然ルトキハ該證書ノ性質ハ專ラ運送ノ目的トシテ依職セシモノナレハ該令他ノ性質ヲ含有スルモノ之ヲ送狀ノ部類ニ編入スヘキヤ又ハ其運送ノ目的トスルモ貨物到達マテノ間ハ該社ハ荷主ニ對スル預リ主ナレハ之ヲ預証ノ部類ニ編入スヘキヤ(別紙略ス)

回答 十九年四月十九日

回濟營業者ヨリ發スル所ノ積荷證書印紙貼用ノ儀ハ其性質效用全ク送狀ト認メ取扱フヘシ

●證券印紙ノ件ニ付愛知縣ヨリ大藏省へ伺(十九年四月二十九日)

茲ニ木綿問屋業ノ者アリ自己ノ店頭ニ於テ木綿仲買人ヨリ木綿購求ノ際其品位ヲ鑑定シ價格相協ヲ約定ノ上其價格等運約ナカラシメン爲メ買主ニ於テ一ノ帳簿ヲ製シ其初丁ニ直段決定ノ上ハ賣主ノ自筆ヲ以テ木綿ノ種目及直段ヲ記載シ買受人ニ差出シ檢印ヲ受ケタル後ハ何様ノ相違アルモ此帳簿ヲ確證トスヘキ旨ノ契約文書ヲ明記シ賣渡人數十名ヲシテ漸次記載セシメタル一別紙寫ノ如ク斯ノ如キモノハ業ヨリ甲乙二名ノ間ヲ互交スル通帳ニアラサレハ一

紙證書ニスヘキ性質ノモノト解釋セリ果シテ然ラハ假令便宜上ヨリ之ヲ帳簿ニナスモ毎帳ニ賣渡人ヲシテ相當印紙ヲ貼用スヘキハ當然ナルニ之ヲ貼用セシメテ既ニ授受使用セシモノハ賣主買主トモ證券印稅規則第二類諸物品當買證文ノ項ニ掲リ同則第十九條ニ準據シ處分スヘキヤ

(別紙) 木綿賣附帳

此賣附帳簿ハ直段決定ノ上ハ自筆ヲ以テ種目及直段ヲ記載シ買受人へ差出シ檢印ヲ受ケ通帳ヲ添へ帳簿へ可差出候事然ル上ハ何様ノ相違有之候トモ此帳簿ノ記載ヲ確證ト可致候者也

年月日

證

某村

何 某 印

年月日

一長九反

○打付圓ニ付二匁六步替

買受人ノ檢印

同 人 印

○打付圓ニ付二反七步五厘替

(賣印ナキモノモアリ)

右正ニ賣附候也

(以下三百三座附込アリ人員四十八人ナリ)

指令 十九年五月六日

何ノ趣稅則第五項ノ諸物品賣證文ヲ便宜ノ爲メ捺メ帳簿トナス者ハ其附込見積金高ニ隨ヒ帳簿主ニ於テ使用以前相當印紙ヲ貼用セシムヘシ

但印紙不貼用ニテ使用セシモノ處分ノ儀ハ申出ノ通

●證券印紙貼用方ノ件ニ付神奈川縣ヨリ大藏省主稅局へ照會(十九年五月十九日)

(十九年五月十八日官報)

第十二類 租稅及貨糾幣公債區町村費

本月十八日官報中券印紙貼用方ノ儀ニ付愛知縣ヨリノ伺ニ對スル指令閱テスルニ證券印稅規則第二類第五項附
一物品買置證文ヲ便宜ノ爲メ豫メ帳簿トナスモノハ其附込見積金高ニ隨ヒ帳簿主ニ於テ使用以前相當印紙ヲ貼用セシ
ムハシトアリ既テハ客歲五月二日日本縣電報伺(證券印稅規則中第一類第二類ノ證券ヲ帳簿トナシ數人ノ分ヲ附込ム
ルノハ同稅則第三條ニ準據スヘキヤ)ニ對スル同月十六日電報御指令(本月二日電報證券印紙稅伺ハ應毎ニ稅率ニ
照シ相當印紙貼用セシムヘシ)自然消滅候儀ナラヤ
回答 十九年五月二十二日

本月十八日官報中證券印紙貼用方愛知縣伺非指令掲載アルニ付實縣客年五月二日電報伺ニ對スル指令消滅云々了
承右ハ愛知縣ヘノ指令ハ第三類ノ證券ニシテ同項同稅率ノモノニ限リ附込ミ見積金高ニ隨ヒ使用以前相當印紙貼
用セシムヘシトノ旨趣ニアリ就テハ昨年五月二日電報電報伺ニ對スル指令中前件旨趣ニ抵觸スル廉丈ハ自ラ消滅
シタル儀ナリ

●買取主ヨリ差出ス納稅證書ヘ印紙貼用ノ件ニ付滋賀縣ヨリ大藏省ヘ伺

十九年五月廿八日 (十九年六月十一日官報)

明治六年(一月)第十八號大政官御通地所賃入書入規則第六條ニ賃入ノ地所ハ金主ニテ其地所耕作可致管ニ付テハ地
租附役トモ總テ金主ニ於テ可但租勤其段管轄處ヘ届出證書差出スヘシト之アリ候處十七年三月第七號布告地租條例
第十二條ニ賃入ノ土地ハ其買取主ニ於テ地租租納ムヘキ旨ノ明文之アリ加フルニ本年(三月)閣令第三號ヲ以テ歲入
歲出納規則御制定ニ付部長ハ同則第十九條ニ依リ徵稅令書ヲ發シ戶長ハ同則第二十條ニ依リ徵稅傳令書ヲ發スヘ
キ順序ニシテ管轄ニ於テハ證書ヲ差出サシムル必要之ナキニ付賃入書入規則第六條但書ハ自ラ消滅ニ屬シタル儀ト
心得然ルヘキヤ百十相伺候處司法大臣ヨリ伺ノ通地所賃入書入規則第六條但書ハ消滅シタルモノニ非サル旨指令
之アリ然ルニ地租ハ賃入主ニ於テ可相納旨地租條例ニ明文之アル以上ハ管轄ト買取主ト別ニ契約ヲナスニ及ハサル
ハ勿論ニ付規則第六條ニ證書可差出トアルモ該證書ハ契約ノ性質ヲ有スルモノニ非スシテ賃地ヲ届出ルニ止マル者
ナラハ証券印稅規則ノ範圍外トシ然ルヘキヤ

指令 十九年六月四日
伺ノ通

●爲換手形ノ件ニ付愛知縣ヨリ大藏省ヘ伺十九年六月十七日(十九年七月一日官報)

明治十七年(五月)第十一號布告証券印稅規則第二類中約束爲換手形ハ金高五十圓未満印稅證錢ト之ナリ然ルニ十
五年(十二月)第五十七號布告爲換手形約束手形條例第一章第四條ニ爲換手形ノ金額ハ五圓以上ニ限ル者ト之アリ然
ラハ爲換金高五圓以下ナルモノハ發行相成ラサル儀ニ候ヤ又ハ印稅規則改正ニ據リ自然條例中五圓以上ニ限ルノ明
文ハ消滅シ指令二三圓ノ爲換手形ト雖モ五十圓未満ノ爲換手形用紙ヲ用ニル儀ト心得然ルヘキヤ
指令 十九年六月二十五日
伺ノ通消滅セサル儀ト心得ヘシ

第百十章 船稅規則

明治十六年四月十七日
第拾三號布告

船稅規則別冊ノ通制定シ明治十六年七月一日ヨリ施行ス

但船稅ニ關スル從前ノ布告布達ハ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

別冊

船稅規則

第一章 鑑札 稅率 免稅

第一條 凡ソ船舶ハ此規則ニ依リ課稅スル者トス

第二條 船舶所有主ハ其船舶定繫場ヲ定メ定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札
ヲ乞フヘシ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

第三條 新規造船シタル者其造船場所在ノ府縣管内ニ定繋場ヲ定メサル時ハ該廳ニ願出検査ヲ受ケ假令鑑札ヲ乞ヒ定繋場ニ回漕ノ上其地方廳ニ願出本鑑札ト引換ヲ乞フヘシ

第四條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生スル時ハ其定繋場所在ノ地方廳ニ願出検査ヲ受ケ鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第五條 船舶ヲ賣買讓與シタル者ハ雙方連署ノ上買受讓受主ノ定ムル定繋場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第六條 船舶ノ稅率ハ左ノ如シ
西洋形蒸氣船 百噸ニ付一年金拾五圓
同風帆船 同 金拾圓
日本形積石五拾石以_上 百石ニ付同 金貳圓

同 積石五拾石未滿 長_{自軸梁}三間迄ハ一年金三拾錢
浮漁船小廻船_{積石ニ拘ラス} 長_{自軸梁}三間迄ハ一年金五拾錢

但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金拾五錢ヲ增加ス
但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金貳拾五錢ヲ增加ス

第七條 本鑑札又ハ假令鑑札ハ航行若クハ回漕ノ時之ヲ本船ニ所持スヘシ
但日本形積石五拾石未滿ノ船並浮漁船小廻船遊船ノ本鑑札ハ其船ニ釘付スヘシ

省乙第ニ大
三第ニ十
省乙第ニ大
三第ニ十
省乙第ニ大
三第ニ十

第八條 解船破船又ハ水火盜難等ニ因リ船舶ヲ失ヒタル者ハ其旨定繋場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ヲ還納スヘシ

第九條 鑑札ヲ亡失毀損シタル時或ハ改名代替ノ時或ハ船號ヲ改メ若クハ定繋場ヲ變換シタル時ハ其旨定繋場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ再渡若クハ引換ヲ乞フヘシ

第十條 左ニ掲クル船舶ハ其稅ヲ免除ス其所有主ハ地方廳ニ願出免稅ノ烙印ヲ乞フヘシ
倉庫船
水田ノ耕作ニ用フル船
水災ノ爲メ陸地ニ備ヘ置ク船
橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用フル船
船橋ノ組成ニ用フル船
航海中本船ニ揚ケ置ク傳馬船「バツテ」船ノ類

第二章 納稅

第十一條 稅金ハ一年ヲ二期ニ分チ一月一日七月一日現在ノ船舶ヨリ徵收スル者トス其前半年分ハ一月三十一日限り後半年分ハ七月三十一日限り定繋場所在ノ地方廳ニ上納スヘシ

第十二條 新規造船シタル者ハ鑑札ヲ受クル時該期ニ係ル稅金ヲ上納スヘシ

第十三條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生シタル時ハ次期ヨリ其積量又ハ間數ニ係ル稅金ヲ上納スヘシ

數ニ隨ヒ税金ヲ納ムヘシ

第十四條 他管下ニ定繫場ヲ定ムル者ハ該地ニ代人ヲ定メ連署ノ上其定繫場所在ノ地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十五條 本籍管内ニ定繫場ヲ定メタル者不在ノ時ハ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十六條 假鑑札ヲ受ケタル船舶定繫場ニ回漕中納稅期限ニ係ル時ハ豫メ定繫場所在ノ地ニ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第三章 罰則

第十七條 此規則ヲ犯シ脱稅ニ係ル者ハ處罰ノ後其税金ヲ追徵ス

第十八條 此規則ヲ犯シ脱稅ニ係ル者ハ其脱稅高五倍ノ科料若クハ罰金ニ處ス

第十九條 免稅船ヲ有稅船ノ用ニ充テタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及第十條ノ免稅船ニ烙印ヲ受ケサル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○船稅徵收ノ噸數及積石數定メ方

本年四月第拾號布告ヲ以テ船舶積量測定規則制定相成候ニ就テハ明治四年十二月當省達船舶噸數改方法則及ヒ石數改方法則右施行ノ日ヨリ廢止候條船稅徵收ノ噸數及ヒ積

十七年第十號布告ヲ以テ船舶積量測定規則第二十九號

石數定方左ノ通相心得ヘシ

西洋形船舶ハ船免狀ノ登簿噸數ニ照シ船鑑札面ヲ改正其登簿噸數ヲ徵稅スヘシ
船免狀ヲ下付セサル西洋形船舶及ヒ日本形積石數五十石已上ノ船舶ハ測定更正濟ノ時ヨリ船鑑札面ヲ改正シ其噸數及ヒ積石數ニ據リ徵稅スヘシ
前二項ニ由リ在來徵稅ノ噸數及ヒ積石數ニ増減ヲ生シタルトハ其次期ヨリ更正ニ係ル税金ヲ徵收スヘシ
右相達候

●伺指令

●船稅規則ノ儀ニ付兵庫縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年七月二日
經稅規則第十五條中不在ノ時トハ其定繫場ニ不在ノモノヲ言フヤ右相伺候也
指令 申出ノ通 十六年七月十四日

●湖川日本形船舶ノ儀ニ付滋賀縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年七月三日
湖川ノ日本形船舶積石五十石以上ト雖モ小廻船ト見做シ可然ヤ右相伺候也
指令 十六年七月十七日 小廻一途ニ用フルモノニ限リ積石ニ拘ハラヌ小廻船トス

●船稅規則取扱ノ儀ニ付福岡縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年六月七日
第一條 本年次政官第十三號布告船稅規則第六條西洋形船舶噸數及日本形積石數改方ハ從前ノ手續ヲ以テ調査スヘキヤ將タ更ニ改方手續等御指示相成ルヘキヤ
第二條 前同條中積石五十石未滿淨流船小廻船等ノ間改方ハ自抽梁至船梁トアリ右抽梁トハ實木等ノ次位膠梁ノ上位ニアル表梁ノ邊ナルヤ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

第三條 同則第十條水田ノ耕作ニ用フル船トハ平生水浸ノ濕田ニシテ四圍川堀等縱橫相築回シ刈稻肥料等部ヲ水路運搬ニ供スル船及離島ノ耕作ニ係ル海路運搬ニ用フル等ヲ指スヤ船將タ人畜立入離ノ船ニ非ラサレハ往來シ能ハサル深泥ノ水田ニ用フル船概テ船上ヨリ卸秧蒔稻等ヲナスモノニ限ルヤ

第四條 平生公園地内ノ池中ニ浮ヘ公衆ノ快樂ニ供スルカ學校境内ノ池中ニ浮ヘ生徒等ノ用ニ供スルカ陸地ニ揚置キ神祭ノ日ニ限リ神輿ヲ乘セテ祭式執行ニ供スル等ノ船舶ハ船稅則範圍外ノモノトシ可然ヤ

第五條 土木工事一途ニ用フル船ハ稅則第十條ニ明文ナシ右ハ普通船稅ヲ賦課スヘキヤ將タ同範圍外ナルヤ右相伺候也

指令 十六年七月十八日

第一條 前段申出ノ通

第二條 申出ノ通

第三條 水田ノ深泥ニシテ船ニ非サレハ耕作シ能ハサル場所ニ用フル田船ヲ指タルモノニシテ耕作及其具、作物肥料等ヲ運搬スルノ外他ノ用ニ供セサルモノニ限ル候ト了知スヘシ

第四條 無料ニテ公衆ノ快樂ニ供スルモノハ課稅ノ限ニアラズ生徒等ノ使用ノ事實ハ取調更ニ伺出ヘシ官國幣社ノ神事ニ供スルモノハ課稅ノ限ニアラス

第五條 官廳ノ使用ヲ除ク外前段申出ノ通

●渡船免稅ノ儀ニ付福井縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年七月三十一日

通路ナキ湖島ニシテ人ヲ乘スルノミニ用フル一村持ノ渡艇アリ甲乙丙ノ各地ヘ渡航スル者ノ如キモ免稅ノ部アルヤ右相伺候也

指令 十六年八月六日 橋梁ニ換ル者ノ外ハ免稅ノ限ニアラス

●免稅船ノ儀ニ付大坂府ヨリ大藏省ヘ伺十六年七月三十日

第一條 船稅規則第十條免稅ノ部ニ水田ノ耕作ニ用フル船トアリ右水田トハ鹽田ニ對スル稱呼ニシテ一般ノ水田ヲ

總稱シタル者ナルヤ將タ普通一般ノ水田ヲ總稱スルニアラス特ニ深田沼田等ヲ指稱シタルヤ

第二條 前條特ニ深田沼田ヲ指稱シタルモノナレハ川中付洲及海面埋立新田等ノ耕地ハ四圍水ヲ繞ラシ徒涉シテ耕地ニ達スル能ハス故ニ船カヲ藉リ農具作物肥料等ヲ載セテ往來セリ該艇ハ農事一途ニ使用シ他ノ運用ニ供セサルモノニシテ深田沼田ニ使用スル船ト違モ軒軽ナキモ尙ホ免稅セサルヤ右相伺候也

指令 十六年八月二十日

第一條 水田トハ深田沼田等ニシテ船ニ非サレハ耕作シ能ハサル場所ヲ指稱ス

第二條 川中付洲海面埋立等ノ耕地ニシテ艇ニ非ラサレハ往來シ能ハサル場所ヘ農具作物肥料等ヲ運搬スルノ外他ノ用ニ供セサル艇ハ橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用フル艇ニ準シ免稅スヘシ

●免稅船ノ儀ニ付愛知縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年八月廿一日

官報第二十七號指令欄内船稅規則第十條水田ノ耕作ニ用フル船ノ性質福岡縣同ニ對シ水田ノ深泥ニシテ船ニ非サレハ耕作シ能ハサル場所ニ用フル田船ニシテ耕作及其農具作物肥料等運搬スルノ外他ノ用ニ供セサルモノニ限ル旨御指令有之ニ付テハ水田ニ非サル田圃ヘ耕作人便宜ノ爲メ農具肥料等運搬往來スル小船ハ勿論免稅ノ限ニ非サルヤ右相伺候也

指令 十六年八月廿一日

免稅ノ限ニ非ス但河川ヲ隔テタル耕地ヘ農具肥料又ハ其地ノ收穫物ヲ運搬スルニ止マル船ナレハ規則第十條第四項ニ準シ免稅スヘシ

●免稅船ノ儀ニ付德嶋縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年九月十二日

一村又ハ一部落ヲ割斷スル一川ヲ踰ヘ耕作スルモノアリ該上流或ハ下流ニ橋梁又ハ渡船場アルモ肥料農具等運搬迂回不便ナルヲ以テ一村或ハ一部落又ハ一已一人ニテ右耕作ニ往復スルノミニ設ケタル渡船ハ規則第十條中橋梁ニ換ヘ渡船ノミニ用フル船ニ準シ免稅シ可然ヤ右相伺候也

指令 何ノ通 十六年九月廿五日

●船税免否ノ儀ニ付愛媛縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年九月十日

第一條 官報第五十六號同指令欄内大坂府例第二條ニ對シ御指令 川中洲海面埋立等ノ耕地ニシテ船ニ非サレハ從外他ノ用ニ供セサル船ハ橋梁ニ換ヘ渡ノアリシニ因レハ甲ノ島民ニシテ乙島ノ耕地ニ肥料作物農具等ヲ運搬スルニ止リ一切他ノ用ニ供セサル船モ同様免稅ト心得然ルヘキ哉
第二條 甲乙兩島間若クハ甲ノ陸地ト乙ノ島嶼トノ間ニ一日數回往復スル渡船ハ橋梁ニ換フルモノトシ免稅ト心得然ルヘキ哉右相伺候也
指令 十六年十月十六日

第一條 申出ノ通

第二條 渡船ヲ定メ彼我ノ往復而已ニ用フル渡船ハ申出ノ通

●官用船處分方ノ儀ニ付秋田縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年九月廿六日

本年(四月)第十三號ヲ以テ船稅規則公布アリ船稅ニ關スル從前ノ布告布達ハ廢止セラレシニ該規則中官用船處分方明文ナシト雖モ六年第九拾三號布達ニ基キ官廳使用船ハ總テ無稅ニテ噸銘號ノ燒印ヲ適宜ノ個處ニ押シ使用シ然ルヘキヤ右相伺候也
指令 何ノ通 十六年十月十六日

●船稅賦課ノ儀ニ付滋賀縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年八月七日

本縣下琵琶湖ハ其周圍五十九里南北十五里二十七町東西平均五里強ニシテ該湖ニ用ル船ハ湖上ノ外他ニ通スルヲ得ス畢竟海灣内ノ小廻ニ均シキモノナレハ總テ該湖ニ用ル日本形船ハ小廻船トシテ課稅シ然ルヘキヤ固ヨリ海船ノ灣内ニ使用スルモノト同漕トノ區分ノ如ク判然タル區別不相立モノニ有之候條右邊御洞察至急御指令被下度又右ノ如キ湖上一途ノ使用船ニテモ同漕ト小廻トノ區分ヲ要スル御旨趣ニ候ハト其區分方詳細御指示被下度此段相伺候也
指令(電報) 十六年十二月十三日

琵琶湖内ノ日本形同漕船ハ都テ小廻船トシテ課稅スヘシ

●堰使用船ノ儀ニ付兵庫縣ヨリ大藏省ヘ伺十七年二月十八日

耕地發水ノ爲メ年々堰キチナスニ深淵ニシテ徒涉スル能ハス止ムヲ得ス堰カチ藉リ土木ノ運搬ハ索ヨリ堰中ニテ其堰キチチチスルハ一切他ノ用ニ供セサルモ免稅ノ限ニアラヌカ
指令 何ノ通 十七年二月二十九日

●新造ノ免稅船證票ノ儀ニ付山口縣ヨリ大藏省ヘ伺十七年四月二十一日

他管下ノ香木縣下ニ於テ免稅船ヲ新造シ其定緊場迄歸港ノ節ハ假艦札下付スヘキ限ニ非ヌヤ然ルレハ証票ナク管理上不都合ニ付假艦札付與セサル旨ノ證書ヲ下渡シ然ルヘヤ
指令 何ノ通 十七年五月六日

●免稅船取扱方ノ儀ニ付石川縣ヨリ大藏省ヘ伺十八年三月二十七日

管下加賀國江沼郡中柴山湖瀨端ニ位置セシ村落該湖中政拾町ヲ隔テ新開耕地チ有ス往復陸路ナキニハ非スト雖モ迂回不便ナルヲ以テ直徑往來スルニ漕ニ非サレハ能ハス該箇所ニノミ用ユル肥料農具作物類ヲ運搬スル漕ハ免稅シ然ルヘキヤ
指令 十八年四月十日

同ノ趣場所及ヒ漕ヲ指定シ橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用ユルモノニ限り其他自家ノ用ニ供スルモノハ免稅ノ限ニアラサル儀ト可相心得事
但最前指令ニ及ヒタル分モ爾後本文ニ據リ取扱フヘシ

●船稅規則ノ件(鹿兒嶋縣伺)明治二十一年七月十七日

河海航行ノ用ニ供セス單ニ庭前ノ泉水ニ泛ヘ來容待過又ハ兒童遊戯ニ供スル漕ハ免稅規則ノ支那ヲ受クヘキモノニ非サル旨同法大臣ノ内訓アリ右ハ稅則ノ支那ヲ受クサルモノトセハ其ノ漕ノ大小如何ニ拘ラス課稅ハ勿論規則第十

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

條免稅ノ烙印ヲモ受クヘキモノニ非サル儀ト心得然ルヘキヤ
指令(電信) 明治二十一年七月三十日
申出ノ通リ

第百十八章

車稅規則

明治八年二月二十日
第貳拾七號布告

明治六年(一月)第三十一號布告僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船諸稅規則昨七年十二月三十一日限リ相廢シ十六年第十號布告ヲ以テ船稅規則改正ニ付船稅ノ課チ略ス車類ノ儀ハ改テ車稅規則左ノ通相定同月同日ヨリ施行候條此旨布告候事

車稅規則

第一則

- 一 馬車貳匹以上 壹箇年稅金三圓
- 一 同 壹匹立 壹箇年稅金貳圓
- 一 荷積馬車 壹箇年稅金壹圓
- 一 人力車貳人乘 壹箇年稅金貳圓
- 一 同 壹人乘 壹箇年稅金壹圓
- 一 牛車 壹箇年稅金壹圓
- 一 荷積大七六八車 壹箇年稅金壹圓
- 一 荷積中小車但大六以下 壹箇年稅金五拾錢

第二則

一新調ノ車ハ總テ其都度區戶長ハ届出檢印可申受事

但從來所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ハ更ニ檢印可申受事

第三則

一新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ破解ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅候儀ト可相心得事

第四則

一 右稅金上納ハ年々兩度ニ區別シ半箇年分宛區戶長ヘ取集メ其管轄廳ヘ可相納事十一
四號布告ニ依リ消滅ニ係ルチ以テ但書ヲ除ク

第五則

一 荷積車等ノ内耕作一途ニ相用候分ハ免稅タルヘキ事

第六則

一 諸車類無届ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其賦稅高ノ五倍科料タルヘキ事

○車稅規則附則

二十一年二月二十四日
勅令第七號

明治八年(二月)第二十七號布告車稅規則ニ附則ヲ追加シ本年七月一日ヨリ施行ス

附則

北海道廳管内ニ限リ第一則ニ掲クル諸車ノ内荷積馬車牛車荷積大七六八車荷積中小車ハ當分ノ內稅金ヲ免除ス

○(船)車賣藥牛馬賣買等ノ稅金納期ヲ定ム

明治十一年二月十五日
第四號布告

「船」車賣藥牛馬賣買等ノ税金納期左ノ通明治十一年ヨリ施行候條此旨布告候事
但從前布告達中此布告ニ矛盾スル條目ハ總テ廢止ト心得ヘシ

一「船」賣藥、牛馬賣買等ノ税金前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限其管轄廳ヘ可相納事
但事ハ船稅規則改正消滅ニ係ルヲ以テ除ク

○耕作一途ニ用フル車類車稅免除ノ檢印燒記方

明治八年三月二十四日
大藏省乙第四十號府縣ヘ達

本年第二十七號公布車稅規則中第五則荷積車ノ内耕作一途ニ相用候車類ハ車稅免除ノ檢印(免稅)ヲ爲取締一車毎ニ燒記候上免稅致シ候儀ト可相心得此旨相達候事

○大中小車區別方

明治十一年七月十五日
大藏省乙第三拾五號府縣ヘ達

車稅規則中荷積車ノ儀ハ荷臺(至ク荷物ヲ積載スル場所)ノ縱橫相乘尺積十四坪以上ヲ以テ大七車以上トシテ右未滿ヲ以テ中小車(大六以下)ト相心得更ニ區別可致此旨相達候事

○船車ヘ修繕シ税金徵收方

明治十三年六月十一日
大藏省乙第貳拾三號府縣ヘ達

船車ヘ修繕ヲ加ヘ爲メニ稅額ニ増減ヲ生シタル片ハ新調ト認メ更ニ該期ヨリ相當ノ税金徵收候儀ト可相心得此旨相達候事
十六年第十三號布告ヲ以テ船稅規則改正ニ付(車)ノ上六字ヲ除ク

●伺指令

●修繕車徵稅ノ儀ニ付東京府ヨリ大藏省ヘ伺十六年六月十九日

船車ニ修繕ヲ加ヘ其稅ニ増減ヲ生シタルトキハ新調ト認メ更ニ該季ヨリ相當ノ税金徵收ノ儀十三年御省乙第二十三號ヲ以テ御達アリ本年四月第十三號公布船稅規則第二章第十三條ニ據レハ概休ノ變更ハ次期ヨリ積量又ハ間數ニ關シ税金ヲ納ムヘシト然ラハ乙第二十三號ノ船稅ハ消滅シ車稅ノ儀依然取扱フトキハ同一ノ物品稅ナルニ一ハ該季ヨリノ徵稅トシ一ハ次期ヨリノ徵稅トス如何成分スヘキヤ右相伺候也

指令 十六年七月六日

十三年當省乙第二十三號達ノ通

●車稅免除ノ儀ニ付愛媛縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年十一月十日

食鹽製造者製造用ニ供スル游炭ヲ製鹽場ニ送り又ハ製鹽者自宅若クハ間屋懸積ノ場所等ヘ運搬スルニ止リ他用ニ供セサル車ハ農夫ノ耕作一途ニ使用スルモノト政ヲ異ナルナキヲ以テ車稅規則第五則ニ準シ免稅シ可然哉

指令 十六年十一月十九日

伺之趣免稅ノ限ニ無之儀ト可相心得事

●車稅ノ儀ニ付靜岡縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年十二月十三日

消防器械ヲ運搬スルニ車ヲ用フルトキハ臨時間ニシテ相達シ煩ル便益ヲ與フル具ニ付平常準備非常ノ時ニ限り使用致度旨願出ルトキハ稅則中抽ルヘキナシト雖モ特ニ免稅致シ然ルヘキヤ此段相伺候也

指令 十六年十二月廿四日 伺之通

●一正立ノ馬車ニ立立ニ兼用ノモノ課稅ノ儀ニ付東京府ヨリ大藏省ヘ伺

十七年四月二十三日

一正立自用馬車鞍轡ヲ所有スル者更ニ二正立ノ桿棒ヲ調整檢印ヲ受ケ置キ時宜ニ依リ一正立或ハ二正立ノ二途ニ兼用出願スル者アリ右ハ稅額ノ重キニ就キ登願分課稅シ可然哉

指令 伺之通 十七年四月二十九日

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村表

●郵便物運送車へ課税ノ儀ニ付内務大藏兩省ヨリ太政官へ伺 十八年五月四日
 官用郵便車馬ノ儀ハ地方税ヲ賦課セサル機明治十五年七月何定ノ上府縣へ相違置候ニ付テハ驛遞局所用郵便物運送車ハ課税セサル勿論ニ有之然ルニ各地郵便運送車ノ内ニハ受負人ノ自費ヲ以テ製造シタルモノ有之右ノ受負人ノ所有ニ屬スルモノハ候得共其製造機式等總テ驛遞總官ノ指定ニ從フモノニテ外面ニハ郵便御用ノ標識ヲ施シ他ニ使用スルヲ得ス官用ニノミ供スルハ驛遞局所用ノ車輛ト同一ニ有之就テハ國稅地方稅トモ免除シ可然哉
 指令 伺之通 十八年六月十日

●車稅規則取扱心得書ノ件(兵庫縣)伺明治廿一年二月九日

第一條 客年十一月大藏省第六二五三號訓示車稅規則取扱心得書第九項ニ車類ヲ變更シ税金ニ増差ヲ生シタルトハ該期ヨリ其増差ニ係ル金額ヲ徵收スヘキ筋ニ相成居之ヲ例スルニ二月某日人力車一人乘テ二人乗トシ荷稅馬車ヲ馬車一匹立ニ爲ス者ノ如キハ既ニ原車ニ對シテ積續ノ部分ニ於テ税金徵收済ナルヲ以テ更ニ増差ニ係ル五十錢ヲ追徵スヘキ筋ニ可有之付テハ稅表調理ニ於ケル追徵ノ税金ハ隨時收入ノ部ニ加ヘ備考ニ其事由ヲ詳記シ置可然哉
 第二條 前條ニ反シ車類ヲ變更若クハ修繕シ税金ノ減額ヲ來タシタルトキハ該期ハ車籍臺帳ニ其事由ヲ記入スルニ止メ翌期ヨリ相當ノ税金ヲ徵收スヘキハ勿論付テハ税金調理ニ於テハ翌期へ豫繳稅表備考面へ其事由ヲ記シ置クヘキ哉
 第三條 車類ヲ修繕シ税金ニ差異ナキモノハ更ニ檢印ヲ要セサルモノ之ヲ變更シタルトキ又ハ修繕シ税金ニ差異ヲ生シタルトキハ更ニ檢印ヲ附ハシムルハ勿論其變更車ニシテ税金ノ差異ナキモノト雖モ車籍臺帳ニ其事由ヲ記シ置更ノ迹ヲ明ニシ稅表調理ニ於テモ同上ノ心得ヲ以テスヘキ歟
 (大藏省) 指令伺ノ通。明治二十一年二月二十一日

但シ第一條稅表ノ備考ノ菓子増稅ノ例ニ準シ記載スヘシ第二條第三條ハ備考ヲ記スニ及ハス

●徵發物件運搬ノ件ニ付愛知縣ヨリ大藏省へ伺 十九年五月廿六日

町村ニ賦課セラシタル徵發物件ヲ臨時供給スルニ際シ荷積車之レナキ場合ニ於テハ其町村ノ便宜ニ依リ免稅車ヲ用ヒテ該物件ヲ運出シ場所へ運搬セシムルモ妨ケナキ儀ナルヤ

指令 十九年六月四日 伺ノ通

第百十九號章

牛馬賣買渡世ノ者免許稅規則

明治五年十一月四日第 三百卅號府縣令

牛馬賣買渡世之者免許稅ノ儀昨辛未十二月中大藏省ヨリ相違候處今般別紙規則書ノ通相定候條各管内共區々ノ取計無之様可致候事

(別紙)

牛馬賣買渡世ノ者免許稅ノ儀昨辛未十二月相違候處此度御詮議ノ次第モ有之別紙ノ通規則相定候條是迄相渡候免許鑑札ハ引換相渡シ引上ケ候分ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ燒捨其段可申立候其餘ハ規則ニ隨ヒ處置可致事

壬申十月

大藏省

規則

第一條 各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世ノ者取調牛馬壹鼻綱ニ付免許鑑札壹枚相渡可申事

但壹鼻綱ハ牛馬共七匹ニ限鑑札壹枚ヲ所持スル者旅行ノ時ハ七匹以内ニ枚ヲ所持スル者ハ十四匹ニ限ルハシ其餘准之可申事

第二條 免許鑑札新規願受候者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅可致事

第三條 免許鑑札萬一燒流失盜難等ニテ失ヒ候モノ有之其段申出候ハ、事實取調鑑札相渡可申事

第四條 免許鑑札壹枚ニ付一ヶ年税金壹圓上納可致事

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村區

十二年第四
號布告ヲ以
テ稅金納期
ヲ改メ第一
號ニ改メ
シテ施行ス

第五條 免許鑑札燒印並押切判ハ離形ノ通其管轄所ニテ製造致シ各稼人共ハ相渡可申事
但鑑札相渡次第稼人共國郡町村名及ヒ名面等詳細取調右鑑札印鑑相添當省ハ可差
出事

第六條 右様取締相立候上ハ向後無鑑札ニテ賣買不相成萬一無鑑札ニテ密々賣買候者
有之相願ルニ於テハ牛馬共取上ケ免許稅十倍ノ科料可申付事
但密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ其訴主ハ取上ケ牛馬拂代金ノ十分ノ二
褒美トシテ被下候事

第七條 取上牛馬拂代並科料金等ノ儀ハ第四條但書ニ照準上納可致事

第八條 此規則施行ニ付候諸入費ハ一ケ年試驗ノ上可申立事

第九條 免許鑑札ハ貸借決テ不相成候事七年第三百三十一號布告ヲ以テ本條追加
但免許鑑札借受賣買スル者ハ規則第六條密賣買ノ廉ニ照シ處分可致貨渡候者ハ免
許稅五倍ノ科料可申付事

右之通規則相定候事
壬申十月

○牛馬賣買鑑札書替下渡ノ節取計方

牛馬賣買鑑札改名代替轉居等ニテ鑑札書替下渡候節ハ八年(十一月)第百六十六號公布
ニ準據シ可取計此旨相達候事同上ニ付(牛馬)ノ上ニ商船生糸ノ四字ヲ除ク

第百二十七章

賣藥印紙稅則

明治十五年十月二十七日
第五拾壹號布告

十六年第四
十三號布告
第十三章
第百二十七章

賣藥印紙稅規則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ
貼用スヘシ

一	定價壹錢迄	印紙壹厘
二	同 貳錢迄	同 貳厘
一	同 三錢迄	同 三厘
一	同 五錢迄	同 五厘
一	同 拾錢迄	同 壹錢
以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス		
第二條	印紙種目ハ左ノ如シ	

壹厘	淡色
貳厘	青色
三厘	黃色
五厘	茶色
壹錢	赭色
貳錢	綠色
	黑色
	褐色
	各色

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

三	錢
四	錢
五	錢
拾	錢

濃	青色
橙	黃色
紫	紅色
深	紅色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ
但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ

第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限り賣捌クモノトス

第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

右奉 勅旨布告候事

(印紙貼用離形略之)

● 伺指令

● 沒收物品公賣ノ件ニ付新潟縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年三月廿三日

第一條 稅則違犯ニ係ル沒收物件中賣捌規則第二十二、二十三、二十四、二十五條、ニ該當シ沒收セラレタル物品ハ配劑用法詳ナラサルモノニシテ公費ニ付スルヲ得サルニ付キ廢棄スヘキヤ

第二條 賣捌規則第二十一條ニ該ル犯罪者ヨリ沒收シタル賣藥中無印紙ノモノハ直ニ需用者ニ拂下クルヲ得ス若シ之ヲ公費セハ稅則上許多ノ不都合ヲ醸生スヘキモノト思考候間前條全額取扱フヘキヤ
指令 十九年四月五日
伺ノ趣總テ申出ノ通可相心得事

● 賣藥稅徵收區分方ノ件ニ付大阪府ヨリ大藏省主稅局ヘ照會 二十年三月二十九日

明治十年六月滋賀縣同賣藥稅ハ鑑札配賦ノ月ヨリ起算シテ其稅金ヲ徵收スヘキヤ將々本人ヘ交付セル月ヨリ起算シテ徵收スヘキヤニ對シ鑑札配賦ノ月ヲ以テ起算スヘシト指令相成當府モ之ニ準據シ取扱來リシ成茲ニ其年十二月二十日方名改正ノ領出同月二十七日指令鑑札等所屬郡役所ヘ送付セシニ恰モ年末休暇ニ際シ其儘郡役所ニ留置亞該鑑札本人ヘ交付セシ時ヨリ稅金徵收シ差支ナキヤ
回答 二十年四月四日

第百二十一章 醬油稅則

朕醬油稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治二十一年六月十六日

内閣總理大臣伯爵黒田清隆
大蔵大臣伯爵松方正義

勅令第四十七號 (官報六月十八日)

醬油稅則

第一條 醬油溜ヲ併製造ノ營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ但シ製造人十六歳未満ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘡啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘ

第二條 醬油製造人ハ左ノ營業稅及造石稅ヲ納ムヘシ

營業稅 製造場一箇所ニ付一ヶ年

造石稅 醬油ハ溜味一石ニ付
溜ハ製成一石ニ付

金 五 圓
金 壹 圓

第三條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分チ前半年分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業ヲ爲ス者ハ免許鑑札ヲ受クルルキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第四條 造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其節之ヲ納ムヘシ

第一期 五月三十一日限

一月一日ヨリ四月三十日マテノ間査定済石數ニ係ル稅額

第二期 九月三十日

五月一日ヨリ八月三十一日マテノ間査定済石數ニ係ル稅額

第三期 翌年一月三十一日限

九月一日ヨリ十二月三十一日マテノ間査定済石數ニ係ル稅額

第五條 醬油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日以内ニ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受クヘシ

造石數査定済ノ醬油ト査定未済ノ醬油トヲ混和シタルトキハ其總石數ニ就キ更ニ査定ヲ受クヘシ

第六條 醬油製造人廢業ノ際査定未済ノ醬油ヲ所持スルトキハ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ但シ其醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ノ場合ニ限り管廳ニ申出檢査受置キ其賣買讓受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及ヒ第四條ノ期限ニ從ヒ造石稅ヲ納ムルコトヲ得

製造場二箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其一箇所以上ヲ廢シ査定未済ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

第七條 免許鑑札ハ貸借賣買及讓渡讓受人ニ爲スコトヲ得ス

第八條 醬油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ貸渡スコトヲ得ス

第九條 醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已チ得サル事故ニ因リ管廳ニ届出タル後ニ非サレハ造石數査定未済ノ醬油ヲ其製造場外ニ移スコトヲ得ス

第十條 醬油製造人ハ造石數査定未済ノ醬油ヲ賣渡讓渡又ハ目用スルコトヲ得ス

但第六條但書ノ場合ハ此ノ限ニ在テス

第十一條 造石税ノ査定ヲ經タル醬油其造石税納期內ニ天災又ハ避ヘカラサル事故ニ因リ廢棄ニ属シタル片ハ直ニ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造石税ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條 醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十三條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節税關ノ檢査ヲ受置キ輸入港税關ノ陸揚免狀若クハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ税關ニ差出シ造石税ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得其下戻ノ歩合ハ大藏大臣定ムル所ニ依ルヘシ但造石税ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ本邦ニ輸入スル片ハ其金額ヲ輸入港税關ニ還納スヘシ

第十四條 醬油製造人ノ製造スル醬油ハ他ノ委託ヲ受ケ又ハ自家用料ニ供スルモノト雖モ總テ此税則ニ從フヘシ

醬油製造人ハ製造場外ニ於テ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス

第十五條 醬油請賣ヲ爲ス者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス其同居亦同シ

第十六條 自家用料ノ爲メ製造シタル醬油ハ之ヲ賣渡スコトヲ得ス

第十七條 醬油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醬油仕込高並ニ仕込ニ属スル原品及營業ニ關スル帳簿ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但シ當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十八條 當該官吏ニ於テ此税則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所

ニ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十九條 免許證札ヲ受ケスシテ醬油製造ノ營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十條 醬油製造人ニシテ醬油ヲ隱蔽シタル者ハ其石數ニ相當スル造石税三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器ヲ沒收ス

第十條第十四條第二項ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十一條 第五條第六條ノ査定ヲ受ケサル者第八條第九條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及違脱ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ第十五條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十二條 第七條ヲ犯シタル者第六條ノ檢査ヲ受ケサル者及帳簿ノ記載ヲ忘リタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 此税則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡讓渡又ハ消費シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第二十四條 此ノ税則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十五條 醬油製造人ノ家屬雇人ニシテ此税則ヲ犯シタル片ハ其製造人ヲ處罰ス

醬油製造人十六歳未満ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘡啞ニシテ此ノ税則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第二十六條 此税則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十七條 此税則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

附則

第二十八條 北海道沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七嶋ニハ當分此稅則ヲ施行セス
但此稅則施行ノ地ニ輸送スル醬油ヲ製造スル者ハ此稅則ニ從フヘシ

第二十九條 此稅則施行以前ニ免許ヲ受ケタル醬油製造人ニシテ第一條但書ニ該當ス
ル者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ヘシ

○醬油稅則施行細則

二十一年八月三日
大藏省令第九號

本年六月勅令第四十七號醬油稅則施行細則左ノ通相定ム

醬油稅則施行細則

第一條 稅則第一條ニ從ヒ製造免許ヲ受ケントスルモノハ其製造場ノ倉庫又ハ建物ノ
棟數ニ拘ハラス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ之レニ關スル地所建物ノ位置及坪數
ヲ圖面ニ製シ願書ニ添ヘ管廳ニ差出スヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖モ檢査濟ノ醬
油又ハ製造用諸器械ヲ藏置スルニ止マルモノハ管廳ノ許可ヲ受ケ製造場ノ附屬ト爲
スコトヲ得

第二條 二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスルモノハ其組合員ノ連名ヲ以テ願
出テ會社ヲ設ケ營業ヲ爲スモノハ社則ヲ添ヘ其頭取ノ名ヲ以テ願出ヘシ

第三條 免許鑑札ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ醬油製造用器械ノ種類員數目錄ヲ所管
租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第四條 第一條及同條但書ノ倉庫建物第三條ノ製造用器械ニ増減變換ヲ生シタルトキ

ハ其時々所管租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第五條 醬油製造人ハ毎年一月中其年仕込並査定ヲ受クヘキ見込石數並其製造方法ヲ
所管租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ但前年製造方法ニ據ルモノハ其旨ヲ届出ヘシ新タ
ニ免許鑑札ヲ受ケタル者ハ其翌日ヨリ十五日以内ニ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

第六條 醬油製造人不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ匿キ稅則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セ
シムヘシ

第七條 醬油製造人他ヨリ醬油ヲ買入タルトキハ其石數年月日買入先キヲ帖簿ニ記載
シ置クヘシ

第八條 醬油製造用ノ容器ハ使用以前管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ前項ノ容器ハ左ニ註
クル方法ニ據リ其容積ヲ量リ租稅檢査員派出所ニ申出檢査ヲ受クヘシ但容器ニハ番
號及管廳ノ烙印ヲ施スモノトス ●丈量法 口徑「口頃ヨリ三寸下リタル箇所」**「**口徑」
口底徑ノ中央底徑底板面ノ箇所「孰レモ内側ニテ縱横」**+**圖ノ如ク度リ此縱横徑ヲ和
シニテ以テ之ヲ除ス深サハ其桶ノ前後左右中心等孰レモ底面ヨリ口徑マテノ間ヲ丈
量シ之ヲ和シ五ヲ以テ之ヲ除ス但尺度ハ都テ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨トス
●算則 口徑ト胴徑ノ和ヲ自乘シ甲トス 胴徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ乙トス 口徑ト
底徑ノ和ヘ胴徑ヲ乘シ丙トス 甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及ヒ〇・〇四〇三
八四四「乘率」一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分位ニ止メ尺位ヲ一位トス」ヲ乘シニテ以
テ之ヲ除シ其容量ヲ得容器中類其他異樣ノ容器ハ總テ前項ニ準シ量定スヘシ其準

シ難キモノハ其便宜適實ノ方法ニ依リ量定スルモノトス

第九條 石數査定ノ際其入實容器測定ノ全量ニ滿タザル端數ハ左ノ算則ヲ以テ査定ス
ベシ入實胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス「此底徑ヲ求ム
ルニハ口徑ヨリ胴徑ヲ減シ容積ノ深サヲ乘シ二倍シ至深ニテ除シ之ヲ口徑ヨリ減シ
テ假定ノ底徑トス」假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乘シ甲トス假定ノ底徑ト口徑トヲ
相乘シ乙トス右甲ヨリ乙ヲ減シ容積ノ深サ及ビ〇・〇四〇三八四四「乘率ノ一位ヲ石
位トシ丈量尺度ハ分位ニ止メ尺位ヲ一位トス以下準之」ヲ乘シ其得ル石數ヲ容積帳
簿記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル 入實胴徑ヨリ以下ニ在ルトキハ其容積面
ノ直徑ヲ口徑ト假定ス「其口徑ヲ求ムルニハ入實胴徑ニアルモノハ其胴徑ヲ定假ノ
口徑トシ入實胴徑ニ滿タザルモノハ胴徑ヨリ底徑ヲ減シ現在ノ深サヲ乘シ二倍シ至
深ニテ除シ之ニ底徑ヲ加ヘテ假定ノ口徑トス」假定ノ口徑ヲ底徑ノ和ヲ自乘シ甲ト
ス徑假定ノ口徑ト底徑ヲ相乘シ乙トス徑右甲ヨリ乙ヲ減シ現在ノ深サ及ビ〇・〇四
〇三八四四ヲ乘シ現在ノ石數ヲ得ル

第十條 醬油製造人廢業シタルトキハ直ニ管廩ニ届出鑑札ヲ還納スベシ

第十一條 改名代替リ若クハ鑑札ヲ失却毀損シ又ハ住所製造場ヲ移轉シタルトキハ左
ノ期限内ニ鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ請フベシ徑一代替書替ハ徑六十日間
一其他ノ書替再渡ハ徑十日間

第十二條 製造場ヲ他府縣ヘ移轉セントスルモノハ免許鑑札ヲ添へ管廩ニ届出添書ヲ

受ケ二十日以内之ヲ移轉地ノ管廩ニ差出シ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

第十三條 稅則第六條第二項ノ場合ニ於テ査定濟ニ係ル造石稅ハ稅則第四條ノ納期ニ
至リ之ヲ納ムルコトヲ得

第十四條 稅則第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請フ者ハ其實況及廢棄石數等詳記シ所
管稅檢査員派出所ニ申出ヘシ 前項ノ場合ニ於テハ當該官吏二名以上現場ニ臨檢
シ事實相違ナシト視認スルトキハ該造石稅免除ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 造石數査定未濟ノ醬油漏溢其他ノ事故ニ依リ減量若クハ廢棄シタルトキハ
直ニ所管稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第十六條 醬油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ 醬油製造原品買入帳 醬油麴製造帳
醬油仕込帳 醬油賣揚帳

第十七條 稅則及ヒ此細則ニ掲クル帳簿ハ附込濟翌年ヨリ三箇年保存スヘシ

第十八條 稅則第十三條ニ依リ外國輸出醬油ノ檢査ヲ受ケントスル者ハ其製造地名、
名稱、石數、箇數、輸入地名、積込船名等ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ其現品ノ檢査
ヲ請ヒ檢査濟證明書ヲ受クヘシ

第十九條 造石稅ノ下戻ヲ請フニハ外國ニ輸入セシ證憑書類ニ當初輸出ノ際受ケタル
所ノ證明書ヲ添へ稅關ヘ申出ヘシ

第二十條 輸出醬油造石稅下戻ノ歩合ハ其製造セシ府縣管内ニ於テ前一箇年中諸味一
石ヨリ製成シタル平均歩合ニ據リ其石數ヲ算定スルモノトス

第二十一條 稅則第十三條但書ノ場合ニ於テハ其製造地名、石數、簡數、及當初下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ現品ノ検査ヲ受クヘシ

第二十二條 稅則及細則ニ於テ石數ノ合位稅金ノ厘位ニ滿タサルモノハ切捨トス

第二十三條 稅則第二十九條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第二十四條 第一條但書ノ許可ヲ受ケサル者及第八條第一項第十五條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第三條第四條第五條第六條第七條第十條第十一條第十二條第十六條第十七條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條 此細則ニ關スル粘簿記載方其他書式等ノ手續ハ府縣知事之ヲ定ム

● 伺指令

● 醬油諸味ニ課稅ノ件(關見島縣) 明治廿一年七月二日(電報)

二番三番諸味ニ課稅スヘキヤ
(大藏省主稅局) 回答明治廿一年七月三日
二番三番諸味ハ課稅ノ限ニアラス

第二百二十二章

菓子稅則

明治十八年五月八日
價拾壹號布告

二十一年二月
勅令第八
號ニテ各條
項中改正刪

菓子稅則別紙ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス
但東京府管轄伊豆七嶋小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分之ヲ施行セズ
右奉 勅行布告候事

除本年七月
一日ヨリ
施行ノ旨
セラル

(別紙)

菓子稅則

第一條 菓子營業者ヲ分テ左ノ三種トス
菓子製造人
菓子卸賣人
菓子小賣人
菓子ヲ製造シ之ヲ菓子營業者ニ對シテ賣ル者ヲ云フ
菓子ヲ買入レ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ
菓子ヲ需用人ニ賣渡ス者ヲ云フ

第二條 菓子營業者ヲ爲サントスル者ハ管應ニ願出營業鑑札ヲ受クヘシ但一人ニテ二箇所以上ノ營業場ヲ設クル者又ハ二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ各別ニ營業鑑札ヲ受クヘシ

第三條 菓子營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲サントスルトキハ管應ニ願出仕入鑑札又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帶スヘシ

第四條 鑑札ヲ受クルトキハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ
營業鑑札料 一枚ニ付金貳拾錢
出賣鑑札料 一枚ニ付金拾錢
仕入鑑札料 一枚ニ付金拾錢

第五條 鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉店セシトキハ管應ニ願出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ但前條ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

第六條 菓子營業廢業スルトキハ管應ニ願出鑑札ヲ還納スヘシ

第七條 鑑札ハ貸借賣買又ハ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 菓子營業者ハ左ノ區別ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ但二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

ハ其税額ノ多キモノニ就キ納税スヘシ

製造營業税

雇人十人以上アル者
 雇人六人以上アル者
 雇人三人以上アル者
 雇人二人アル者
 雇人一人アル者
 雇人ナキ者

卸賣營業税

雇人十人以上アル者
 雇人六人以上アル者
 雇人三人以上アル者
 雇人二人アル者
 雇人一人アル者
 雇人ナキ者

小賣營業税

雇人三人以上アル者
 雇人二人アル者
 雇人一人アル者
 雇人ナキ者

二種以上ヲ兼タル營業者ノ雇人ハ各種ヲ別タス之ヲ合算スルモノトス
 露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其營業税ヲ免除ス

第九條 營業税ハ一箇年ヲ二期ニ分子前半分ハ其年一月三十一日限後半分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ營業税額札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業税ヲ納ムヘシ

一箇年 金貳拾圓
 一箇年 金拾五圓
 一箇年 金拾圓
 一箇年 金五圓
 一箇年 金三圓
 一箇年 金壹圓

一箇年 金貳拾圓
 一箇年 金拾五圓
 一箇年 金拾圓
 一箇年 金五圓
 一箇年 金三圓
 一箇年 金壹圓

一箇年 金七圓
 一箇年 金三圓
 一箇年 金貳圓
 一箇年 金壹圓

第十條 營業税前半分ハ其年一月一日後半分ハ同ク七月一日ノ雇人ノ現員又新ニ開業スル者ハ其營業税額札ヲ受クルトキノ現員ニ據リ定ムヘシ但雇人増加シタルトキハ該期ノ増税ヲ納ムヘシ

第十一條 菓子製造人ハ製造税トシテ菓子賣上金高百分ノ五ヲ左ノ期限ニ從ヒ納ムヘシ

第一期 一月一日ヨリ六月三十日迄
 其年八月三十一日限

第二期 七月一日ヨリ十二月三十一日迄
 翌年二月二十八日限

半年分ノ賣上金高三拾圓未滿ノ者及ヒ露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其製造税ヲ免除ス

第十二條 菓子營業者ハ毎年一月一日七月一日現在雇人ノ員數代名ヲ取調其月十五日限又新ニ開業スル者ハ出願ノ片管廳ニ届出ヘシ但増員アルハ其時々之ヲ届出ヘシ

第十三條 菓子製造人ハ毎年其製造高及ヒ賣上金高ヲ左ノ通管廳ニ届出ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス

一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分 其年七月十五日限

七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分 翌年一月十五日限

第十四條 菓子製造額ハ前條ノ届出ニ據リ郡區長之ヲ調査シ府縣知事之ヲ定ム

第十五條 菓子營業者ノ帳簿倉庫營業場及ヒ營業物品ハ主任官隨時之ヲ検査スルコトアルヘシ

第十六條 二十一年二月勅令第八號ニテ本條刪除

第十七條 第二條ニ違ヒ營業税額札ヲ受ケスシテ菓子營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ菓子及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代

第十二類 租税及貨紙幣公債區町村別

金ヲ追徴ス

- 第十八條 第十二條第十三條ノ届書ニ詐偽ノ記載ヲ爲シ又ハ第十五條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十九條 第三條ニ違ヒ鑑札ヲ携帶セスシテ仕入又ハ出賣ヲ爲シタル者及ヒ第七條ニ違ヒ鑑札ヲ貸借賣買又ハ讓受讓渡シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十條 第五條第六條第十二條第十三條届出ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第二十一條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
- 第二十二條 菓子營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○博覽會共進會ニ際シ菓子烟草等出品販賣取扱方

二十一年一月七日

大藏省訓令第一
號北海道廳府縣

博覽會共進會開設ニ際シ烟草菓子賣藥ヲ出品シ且ツ其會場内外ニ於テ特ニ販賣スルトキ其取扱方ハ左ノ通心得ヘシ

但明治十一年(六月)内務大藏兩卿連署乙第四十七號達ハ自今廢止ス

明治二十一年一月七日

大藏大臣 伯爵松方正義

- 一 從來免許ノ營業人ニシテ出品スルモノハ別段免許鑑札ヲ受ルニ及ハス
- 一 印紙ノ貼用ヲ要スル物品ハ總テ其規則ニ遵テ印紙ヲ貼用スヘシ
- 一 出品主ニシテ其出品ノ販賣店ヲ開設スルモノモ亦前二項ニ準ス但其店頭ニ免許何

營業人住處氏名ヲ記載セル標札ヲ掲出スヘシ

- 一 前項販賣店開設ヲ許可スルニ當リ場内狹隘ノ爲メ止ムヲ得サルトキハ其場近傍ニ一定ノ區域ヲ限リテ之ヲ許可スルコトヲ得

(參照)

明治十一年六月内務大藏兩省乙第四十七號

各府縣ニ於テ一時博覽會相開候節列品中酒類煙草賣藥等販賣方成規有之物品場中ニ於テ賣渡ノ儀ハ其出品人兼テ營業免許ノ者ニ候ハ、別段受賣免許鑑札申受ニ及ハス尤煙草ノ儀ハ假令見本品タリ共需求ニ應シ受渡候節ハ成規ノ違リ印紙貼用可致此旨相達候事

但開場中一時賣物店開設開届候向モ本文ニ準シ受賣鑑札申受ニ不及候得共何營業免許人何某ト記載セル本製ノ看取ヲ見易キ場所ヘ必ス掲示可致事

●伺指令

●西洋菓子課稅ノ儀ニ付高知縣ヨリ大藏省ヘ伺 (電) 十八年五月十八日

西洋菓子ノ卸小賣ヲ爲ス者ハ菓子稅則ニ據リ課稅スヘキモノナルヤ

指令 (電) 十八年五月二十六日

申出ノ通心得ヘシ

●菓子稅則ノ儀ニ付東京府ヨリ大藏省ヘ伺 十八年五月二十二日

一 稅則第八條ニ掲クル菓子營業者ノ雇人ハ菓子製造及ヒ仕入出賣店等ニ從事スル者ニ限ラス一家給テ雇人 (炊飯
我縫等ニ使役スル者共) ナ指タルモノニ有之候哉果シテ然ラハ菓子營業者ニシテ他ノ營業ヲ兼ヌルモノハ其雇人
中菓子一途ニ從事スルモノト他ノ營業ニ從事スルモノトハ自カラ區別アルヘント雖モ同ク一家ノ雇人タルハ是
ヲ菓子營業ノ一方ヨリ視ル時ハ殆ト分別シ難シ況ンヤ炊飯等ノ雜事ニ使役スルモノハ誠ニ其限界ヲ定メ兼候如斯
モノノ區別ハ如何相心得可然哉

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

指令 十八年六月九日

第五條 第七條申出ノ通

第六條 露店又ハ呼賣ヲ業トスルモノハ一家登人ニ限ラズ營業各人ニ其鑑札ヲ下付スヘシ
但シ家族ノ者露店又ハ呼賣先ニ於テ其業ヲ助クルハ苦シカラズ

第八條 雇人ハ申出ノ通
但店內ノ區域ヲ異ニスルト否トニ關セズ

●菓子營業者仕入鑑札下付方ノ儀ニ付靜岡縣ヨリ大藏省ヘ伺(電)十八年六月五日

菓子製造人原貨品買入及ヒ自製ノ菓子小賣スルモノハ仕入鑑札ヲ受クルニ及ハスヤ

指令(電) 十八年六月十日

菓子原貨品買入又ハ自家ニテ仕入チナス者ハ仕入鑑札ヲ要セズ

●菓子露店呼賣鑑札下附ノ儀鹿兒嶋縣ヨリ大藏省ヘ伺(報)十八年六月九日

菓子露店業ノ者子弟ヲシテ呼賣ヲ爲スモノハ出賣鑑札ヲ下付シ又一人ニシテ露店呼賣ヲ兼メル者ハ營業鑑札二枚下付スヘキヤ

指令(報) 十八年六月十三日

露店業ノ者子弟ヲシテ呼賣ヲ爲サシムルモ更ニ其子弟ニ呼賣ノ鑑札ヲ下付シ出賣鑑札ヲ下付スルノ限リニアラス
又露店業ノ者呼賣ヲ兼メルトキハ鑑札ニ露店呼賣ト列記シ二枚下付スルニ及ハス

●菓子稅則中疑義之藤千葉縣ヨリ大藏省ヘ伺 十八年六月十五日

第一項 稅則第二條但書二一人ニテ二箇以上ノ營業場ヲ設クル者(中)ハ各別ニ營業鑑札ヲ受クヘシトアリ然レハ
營業稅モ亦隨テ其場所毎ニ之ヲ徵收スヘキハ勿論ニ之アルヘシ就テハ一人ニテ甲乙二箇所ノ營業場ヲ有シ而シテ一
名ノ雇人ヲシテ甲乙二日何日ト定メ其職其業ニ從事セシムル時ハ甲乙孰モ二人以下ノ雇人アル者ト見做サトル
ヲ得サル儀ト心得可然哉

第二項 一期内ニアリテ某甲某甲一旬日乃至半箇月ツノ之ヲ數回ニ雇入ル者ハ引續ノ雇人ト見做シ得可キ乎果シテ
然トセハ一月ニ某甲某甲入レ二月ニ之ヲ止メ代ルニ乙某ヲ以スル等數次ニ及ヘハ一期中自然甲乙丙丁ノ數人ニ涉
ルヘシト雖モ同時ニ三名以上ノ現員ニ至ラサル限リハ尙ホ二人以下ノ雇人ト見做シ得可キ儀ト心得可然哉

第三項 稅則第十條但書ニ雇人増加シタル時ハ該期ノ增稅ヲ納ムヘシトアリ右ハ例ヘハ雇人ナキ小賣人ニテ中途ニ
至リ一名若クハ二名ヲ雇入ル時ハ之ニ對スル半箇年ノ稅額即チ金壹圓五拾錢ノ内ヨリ當初納稅額ナル五拾錢ヲ
扣除シ其全ク增稅ニ係ル邊面ヲ徵收スヘキ法意ナラン果シテ然リトセハ小賣人ニテ製造又ハ卸賣ヲ兼テントスル
者ハ差引其全ク增稅ニ係ル者ノミヲ徵收スヘキ儀ト心得可然哉

第四項 稅則取扱心得書第六項ニ露店又ハ呼賣專業ノ者ニハ出賣鑑札ヲ下付スルノ限ニ在ラストアリ就テハ露店又
ハ呼賣專業ノ者ニ限リテハ該營業種之徵稅ヲ所持セスシテ何レノ場所ヲ問ハス其營業ヲ爲シ得ラル儀ト心得可
然哉

第五項 露店又ハ呼賣專業ノ者ニ下付スル免許鑑札ハ唯リ鑑札面記載ノ人ニ限リ其効力ヲ有スヘキモノタレハ其父
子兄弟タリト雖モ更ニ鑑札ヲ受クルニ非サレハ一時免許人ニ代リ其營業ヲ爲ス如キハ法理上不相成儀ト心得可然
哉

第六項 露店及ヒ呼賣ヲ兼業スル者ニ下付スル鑑札ヘハ稅則取扱心得書第一號鑑形ニ準シ露店呼賣ト併記スル儀ト
心得可然哉

第七項 稅則上ノ雇人トハ平素雇主ノ家ニ寢食スル者ノミニ限ラズ日雇或ハ臨時雇ノ者又ハ手代番頭等ニテ日々雇
主ノ家ニ通勤スル者又ハ籍ヲ異ニスル親族等ニテ賃金ヲ受ケス臨時ニ來リテ業務ノ助ケヲ爲ス者ノ如キモ渾テ均
ク雇人ノ範圍内ヲ以テ論ス可キ儀ト心得可然哉

第八項 前項果シテ雇人ヲ以テ論ス可キ者トセハ今コノ雇人ヲシテ稅則第三條ニ據リ仕入又ハ出賣ヲ爲サシムルモ
妨ケナキ儀ト心得可然哉

第九項 演劇場寄席又ハ揚弓場等ニ於テ其雇主ノ販賣スル者ハ小賣營業者ト心得可然哉

第十項 下々職ト唱ヘ常ニ自宅ニ在リテ製造人ヨリ送附セル物品ノ製造「モナカ」ノ皮ノ類ノミヲ製スルニ止ルアリ
或ハ落雁ノ類ノ如キハ直ニ仕上ケテ爲スア

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村庶

第十二項 菓子種(干菓子ノ類即チ「毛」ヲ製シ專業ト爲ス者アリ右ハ其製法ノ營業者ト否トナ間ハス總テ規則範圍ノ外ニ付ス可キ儀ト心得可然哉

第十二項 規則上ニ掲ケアル露店トハ常ニ一定ノ營業場ヲ有セス神佛ノ緣日夜見世市場等ニ於テ其部府所謂屋蓋店又ハ葺置張等ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ノ類ノミニ限ラス立場茶屋(家屋ノ構造ヲ爲スモ)路傍常設ノ葺置張社寺境内ノ掛茶屋(茶菓子トシテ來客ニ出ス)等ニ於テ販賣者其他方言床見世ト唱ヘ朝ニ來リテ店ヲ閉キ夕ニ去リテ之ヲ閉ル者ノ如キ平素一定ノ營業場ヲ設ケ販賣スル者モ亦均ク露店ノ範圍内ト心得可然哉

但在村居宅ノ片隅若シクハ掛出シ等ヲ設ケ農圃園細ノ雜菓子ヲ賣ク者ノ如キモ本項ニ準シ可然哉
指令 十八年六月廿六日

第一項第三項第六項第八項及第十一項申出之通
第二項 申出之通

但此部府雇人ノ兵名ヲ居出サシムヘシ
第四項 營業鑑札ヲ携帶セシムヘシ

第五項 家族ノ者一時免許人ニ代ルハ苦シカラス
第七項 申出之通

但祭禮等ノ場合ニ於テ業務繁多ノ爲メ一時手傳ヲ爲サシムルモノハ此限ニアラス
第九項 申出之通

但揚子場等ニ於テ茶菓子トシテ出スモノハ此限ニアラス
第十項 日給ヲ受クル者ハ雇人トシ製造高ニ應シ手間賃ヲ受クル者ハ申出ノ通

第十二項 飲食セサルモノナレハ申出之通但露店ト稱スルノ限ニアラス

菓子製造小賣業ノ營業者ニテ其製造高ニ應シ貨金ヲ受ケル者ハ雇人ヲ以テ論シ難キ者タレハ規則範圍ノ外ト心得可然哉
(十九年三月二十三日官報)

菓子製造小賣業ノ營業者ニテ其製造高ニ應シ貨金ヲ受ケル者ハ雇人ヲ以テ論シ難キ者タレハ規則範圍ノ外ト心得可然哉
但營業者ノ其種類ノ多キモノニ就テ納税スヘシトアリテ其小賣營業ハ製造ニ附帶シテ免許ヲ得タルモノナレハ各營業ヲ停止シ可然モノ、如シ然リト雖規則第一條ニ於テ各管人ノ資格ヲ表示メサレ第一條但書ニ於テ二種以上ヲ兼テルモノハ各別ニ鑑札ヲ受クヘシトアリテ畢竟製造小賣各別ニ營業權ヲ得タルモノト解釋セサル能ハス然ルモ製造業ノミニ意納スルノ場合ニ於テ各營業ヲ停止スルハ不適當ト相若候若シ各資格ノ異ナラサルモノトシ小賣ヲ併セテ營業ヲ停止シ公賣處分等ヲ爲スモノトセハ小賣人ノ資格ヲ以テ他ヨリ買入タル菓子モ均シク公賣セサルヲ得ス然ルニ該菓子ハ亦自家製造ニ關係ナキ物品ナレハ之ヲ公賣スルハ頗ル適當ナラサルモノト存候各資格ノ異ナリタルモノト見認メ處分シ可然哉

追テ製造營業ノミニ停止候ニ於テハ小賣營業ハ既ニ當初營業權ヲ得タルモノナレハ當季中ハ別段税金ハ徵收不致積ニ有之候此段添テ相伺候
指令 十九年三月十八日

菓子税則不納處分方ノ件長野縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年四月二十四日

第一條 菓子製造營業ニシテ卸小賣兼業ノモノ當十九年前中期營業稅上納濟ノ後十八年第二期七月ヨリ十二月三十一日迄賣上金高ニ係製造稅徵收ニ方リ該稅不納ニ付キ成規ノ通直ニ處分ニ當テ製造品並ニ器械鑑札等ヲ差押ヘ營業ヲ停止セリ然ルニ卸賣小賣等ヲ兼メタル者ノ營業稅ハ稅額多キ分ニ引付ケ營業稅ヲ徵收スル儀ニ有之今營業稅ノ最多キ製造稅不納ノタメ製造營業ヲ停止スル并ハ營業モ之ト共ニ附帶シテ營業權消滅スル儀ナルヤ
第二條 單ニ製造稅ノ不納ニ係ルモノハ假令營業稅ハ重キ分ニ付キ徵稅スルモ製造營業ノミニ停止シ卸小賣ノ兼業ヲ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

不問ニ措クモノトスレハ卸小賣ノ營業稅ノ更ニ徵收セサルモ差支ナキヤ
第三條 卸小賣業停止ノ限ニアラヌトスレハ兼業ニ屬スル卸小賣業札面朱書製造ノ文字ヲ塗抹シテ取扱主任ニ
認印スヘキヤ

第四條 前條製造稅不納成分ヲ受ク物件ヲ公賣ニ付シ其金額ヲ納稅ニ充テ剩餘アルハ本八ニ還付シ不足アルハ官
ノ損失ニ歸スルハ勿論假令公賣成分ヲ受クルモ納稅義務ヲ盡シタルモノハ重子ヲ營業スルヲ得ルモ若シ納稅義務
ヲ了セルモノ其不足稅ヲ完納シ營業出願スル場合ニ於テハ其年ノ前中期營業稅ハ已ニ納濟ナレハ直ニ營業セシム
ヘキヤ又ハ更ニ營業稅ヲ徵スヘキ哉
指令 十九年四月一日

何ノ趣左ノ通可相心得事

第一條 兼業ハ消滅セス

第二條 當期ノ營業稅ハ徵收スヘキモノニアラヌ

第三條 申出ノ趣

第四條 卸小賣ノ兩業ニ對スル稅額ト製造業ノ稅額トチ比較シ其増進アルモノハ其差額ヲ徵收シタル上差額ナキ
モノハ直ニ營業ヲ許スヘシ

●菓子稅ノ件愛知縣ヨリ大藏省ヘ何十九年三月廿七日(十九年四月八日官報)

菓子製造人ノ製造高ヲ帳簿ニ記載スルハ賣上ケ高等ニ参照檢査緊要ナルモノナレハ之カ記載ヲ怠リ又ハ詐偽ノ記載
ヲ爲シタルモノハ稅則第十四條ニ包含スルモノト解釋シ該條違犯ノ廉ヲ以テ懲罰シ可然哉
指令 十九年四月二日

何ノ趣則第十四條ノ帳簿トハ稅則取扱心得書第十三項ノ菓子賣上帳及製造原品買入帳ニ限ル儘ト可相心得事

●菓子營業者轉業ノ節鑑札書換ノ件靜岡縣ヨリ大藏省主稅局ヘ問合(十九年八月九日)

(十九年八月廿一日官報)

菓子營業者ノ内營業ノ都合ニ因リ露店呼賣專業ヨリ普通營業又ハ普通營業ヨリ露店呼賣ニ轉業スルモノハ鑑札ハ露
店呼賣ノ廉加除訂正主任者捺印ノ上下與シ苦カラヌヤ又ハ新鑑札書換下與スヘキヤ御明示相成度
回答 十九年八月十八日

御問合ハ菓子營業者轉業ノ節鑑札書換ノ儀ハ後段御見込ノ通

●菓子營業人廢業後再營業ノ者納稅ノ件ニ付靜岡縣ヨリ大藏省主稅局ヘ質議
二十年四月八日(同月二十八日官報)

菓子製造兼小賣營業ニシテ雇四人ヲ有スルモノ納稅後ソノ製造ヲ廢シ單ニ雇一人ノ小賣トナリシカ其半期中再ヒ雇
一人ヲ増シ製造兼小賣トナリシモノアリ製造ハ一旦廢業シタルモノニ付更ニ製造ニ對シ貳圓五拾錢ノ營業稅ヲ
徵收シ然ルヘキモノト思考スルモ明治十八年六月二日栃木縣ヨリノ照會並ニ回答書(栃木縣照會ニ云フ小賣營業者雇
云フ)該營業ヲ廢シ卸賣一方ニ轉シタルトキハ稅額ニ三圓ノ差額ヲ生スルモ(四人アルモノ)半期中(納稅後ヲ
追徵スルノ限リニアラスヤ)回答)卸賣ニ轉業スルモノハ其差額ヲ追徵ス(ノ精神ニ據レハソノ半期中既ニ納稅シ
アルヲ以テ更ニ營業稅徵收セサルモノナリモノト如シ又茲ニ一ノ論點ヲ掲クレハ蓋ニ製造兼小賣タリシトキ雇三人
以上アル者ノ稅金半期五圓ヲ納メタルハ單リ製造ノミナラス併セテ小賣稅ヲ納メタルノ資格ヲ有スルカ故製造營
業ヲ廢シタル後ハ雇一人アル小賣營業ト認メサルヲ得然ラハ雇一人ヲ増シ再ヒ製造營業ヲ願フ者ハ其營業稅ノ差
額即チ壹圓ヲ徵收シ可然ヤ

回答 二十年四月二十三日

菓子稅則第八條ノ精神タル他ノ諸稅則ノ營業稅ト大ニ其趣ヲ異ニシ即チ一旦甲種ノ業ニ就テソノ免許ヲ受ケタル
者ハ他日乙種又ハ丙種ヲ兼メルトモ若クハ乙丙兩種ヲ兼メルトモソノ營業稅ハ當初甲種ノ納稅金額ニ照シテ不足
ナサモノハ別ニ加徵スルヲ要セス若シ不足アルモノハ其差金タケテ追徵スルニ止マルヲ當然トス今般實議ノ場合
ノ如キハ再營ノ稅金ヲ徵收スルニ及ハサルハ無難トス

●菓子稅則取扱方ノ件(秋田縣)問合明治廿一年四月五日

菓子稅則取扱方訓示アリ其二項檢査員ノ意見トハ製造人各自ニ賦テノ事カ又四項檢査員ノ報告書トアルハ意見ノ報

答ナルヤ御報ア

(大蔵省主税局) 回答 明治廿一年四月五日

菓子税則取扱方要領ノ件(神奈川縣) 照會明治廿一年四月六日

菓子税則改正相成候ニ付取扱方要領大蔵大臣ヨリ訓令有之候其第四項ニ租稅檢査員ノ報告書云々ト有之右報告書トハ同第二項ニヨリ郡區長カ檢査員ニ意見ヲ聽キタル場合之ニ對シ檢査員ノ報告上々見込額ヲ各營業者ノ届出額ニ比...

(大蔵省主税局) 回答 明治廿一年四月十日

菓子税則取扱心得及取扱要領中疑義ノ件(長野縣) 伺明治廿一年四月七日

本年二月勅令第八號ヲ以テ菓子税則御改正相成候ニ三月卅日付ヲ以テ本年七月以後該稅則取扱方要領御開通相成候...

別表ヲ製シ租稅檢査員ニ付廻シ當否ノ如何ヲ聽クノ精神ナルヤ

第三項 同第三項ハ一月一回カ又ハ二ヶ月ニ一回カ郡區長ニ於テ臨時檢査ヲナシ檢査員ニ定メ置キ尙稅額ヲ調査スル...

第四項 同第四項ニ郡區長ハ租稅檢査員ノ報告書ヲ參照シ云々トアルハ同第二項郡區長ヨリ租稅檢査員ノ意見ヲ聽ク...

同(越前) 第一項ハ中出ノ通簿二項以下ハ本般主税局長ヨリ收稅長ヘ廻付シタル菓子税則取扱方要領問答ニテ了解スヘシ...

第百二十三章

酒造稅則醫藥營業稅則賣藥印紙稅則

煙草稅則ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則ノ證憑取調處分

酒造稅則醫藥營業稅則賣藥印紙稅則煙草稅則ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則アリト認知シ若クハ思料スルトキハ其場所ニ立入り犯則ノ證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但官吏ハ主任タルノ證票ヲ携帶スヘシ

酒造稅則等ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則ノ證憑取調

處分時限及立會方 明治十六年十二月二十一日 大蔵省第七十七號府縣(沖繩縣ヲ除ク)ヘ達 本年第四十三號布告ニ依リ人民ノ家宅内ニ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スハ日出後日没前ニ於テシ其地戶長若クハ用掛隣佑ノ内ヲ立會ハシメ候様取計フヘシ此旨相達候事

◎酒稅其他諸印紙稅營業稅等逋稅取締ノ爲メ租稅
 官吏ニ於テ警部以下へ監查打合方
明治十一年五月二十日大藏省
 日府縣(東京府ヲ除ク)へ達
 酒類稅其他諸印紙稅諸營業稅等逋稅取締ノ義ハ租稅專務ノ吏員警部等ト打合セ取締相
 立候儀勿論ニ有之候處當省租稅局員巡回ノ節モ其時宜ニヨリ直チニ警部以下へ監查爲
 打合候議モ可有之ニ付豫メ警部以下へ相達置可申此旨相達候事

●伺指令

●租稅官吏職務上家宅搜查ノ儀ニ付長崎縣ヨリ司法省ヘ伺 (電報) 十七年
 一月十日
 客年第四十三號公布ニヨリ主任官吏規則ノ段懲取調ルル本入拒ムトモ家宅倉庫ヲ搜查スルノ權アリヤ
 指令 十七年一月十四日

客年第四十三號公布ニ依リ家宅倉庫搜查ノ件ハ何ノ通

●郡區役所書記ニ於テ稅則違犯者取調處分ノ儀ニ付京都府伺十七年四月十日
 明治十六年十二月第四十三日布告酒造稅則暨鹽稅則並煙草稅則等ニ關シ租稅官吏ニ於テ規則アリト認知シ若
 シクハ原料スルトキハ其場所ニ立入り規則ノ應懲取調ノ處分ヲナスコトヲ得但其實吏ハ主任タルノ證據ヲ携帶スヘ
 シトアリ右ハ郡區役所稅取調主任ノ書記ニ於テモ同様處分スルヲ得ヘキ儀ニ候處果シテ然ラハ證據ハ其郡區役所
 ニテ適宜調製サセ該費用ハ國稅徵收費ノ内ヨリ支出致シ然ルヘキ儀
 指令 十七年四月十九日
 伺ノ趣郡區書記ニシテ國稅檢查ニ係ル事務爲取調候儀ハ不相成ト可心得事

第二百二十四章

地方稅規則

明治十三年四月八日

第一條 地方稅ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス
第十六號布告
 明治十一年(七月)第十九號布告地方稅規則左ノ通改正候條此旨布告候事

平八内務省
 大藏省
 中央
 地方稅
 稅則
 稅務
 規則
 地方稅
 規則
 地方稅
 規則
 地方稅
 規則

- 一 地租三分一以内
- 一 營業稅并ニ雜種稅
- 一 戶數制
- 第二條 營業稅雜種稅ノ種類ハ別段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ
 - 一 警察費
 - 一 警察廳舍建築修繕費
 - 一 土木費
 - 一 區町村土木補助費
 - 一 府縣會議諸費
 - 一 衛生及病院費
 - 一 教育費
 - 一 區町村教育補助費
 - 一 郡區廳舍建築修繕費
 - 一 郡區吏員給料旅費及廳中諸費
 - 一 教育費
 - 一 浦役場及難破船諸費
 - 一 諸運書及揭示諸費
 - 一 勸業費

一 戶長以下給料旅費

一 地方稅取扱費 府縣廳ニ屬スル爲替方給料爲
換手數料現金遞送等ノ費用

一 府縣廳舎建築修繕費

一 府縣監獄費

一 府縣監獄建築修繕費

以上費目互ニ流用スルコトヲ許サス

一 豫備費 豫算外ニ生シタル事件ノ費途
及豫算ノ臨時不足ニ充ツ者

右ノ外特ニ費目ニ増加ヲ要スルトキハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大
藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第四條 其年四月ヨリ翌年三月迄ヲ一週年度トナシ府知事縣令ハ前年十月迄ニ地方稅
ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算並地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣
會ノ議決ヲ取り其年二月ヲ以テ內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ

地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事件數年ヲ期シテ施行スルモノハ初年ニ於テ其年期間各年
度ノ經費豫算ヲ定メ府縣會ノ議決ヲ取り府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ認可ヲ得テ
其年期間之ヲ施行スルコトヲ得

第五條 非常ノ費用ハ(豫算ニ立ツルヲ得サル天災時變ノ費用豫備費ヲ以テ給足セサ
ルモノヲ云)別ニ賦課スルヲ得ルト雖モ其府縣會ノ議決ヲ取り內務卿及大藏卿ニ報
告スヘシ

前年度經費決算ノ場合ニ於テ已ムヲ得サル事故アリテ費目中不足ヲ生スルモノアル
トキハ府知事縣令ハ府縣會ノ議決ヲ取り其補充費ヲ徵收スルコトヲ得

第六條 地方稅徵收ノ期限ハ府知事縣令適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第七條 府知事縣令ハ一週年度間ノ出納ヲ計査シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會議ノ
初メニ於テ之ヲ府縣會ニ報告シ然ル後內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ

第八條 島嶼ノ地方稅ニ係ル經費ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀
シ其裁定ヲ得テ本屬府縣ノ經費ト之ヲ分別スルコトヲ得

第九條 營業稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ但國稅アルモノハ課稅ノ限ニアラス 十五年第三
號布告ヲ以

第十條 營業稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ但國稅アルモノハ課稅ノ限ニアラス 十五年第三
號布告ヲ以

商業
工業

第十一條 雜種稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ
料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店ノ類
湯屋

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

理髮人

傭人受宿

遊藝師匠遊藝藝人相撲俳優帶間藝妓ノ類

市場

演劇其他興行遊覽所

遊技場 玉突大弓揚弓射的吹矢ノ類

人寄席

船 解漁船海船及五車馬車人力車荷積馬車荷積大七丈十石未滿海船八車荷積中小車荷積牛車ノ類

但國稅ノ額ヲ超過スヘカラス

水車

乘馬

屠畜

漁業採藻ノ類

但漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其慣例ヲ改正シ又

ハ新稅ヲ賦課セントスルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩

卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第三條 同上

第四條 府知事縣令ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第一條第二條類目中ニ於テ賦課スル者ヲ取

拾スルヲ得

第五條 府知事縣令ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ觀察シ府縣會ノ決議ヲ以テ各個ノ稅

額ヲ査定スヘシ 同上(決議ヲ以テ)ノ下八字ヲ削ル

第六條 同上

第七條 同上

第八條 第四條第五條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ報

告スヘシ

第九條 第一條第二條課稅種類ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スル者ハ府縣會ノ決議ヲ經テ

府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ 同上(第二條)ノ下(第三條稅目)ヲ收メ(課稅種類)トス

○集治監ニ入ルヘキ囚徒並ニ其費用區分方

明治十四年三月八日第十七號布告

集治監ニ入ルヘキ囚徒並ニ其費用ノ區分當分ノ內左ノ通相定メ本年七月ヨリ施行候條

此旨布告候事

第一條 集治監ニ入ルヘキ囚徒ハ刑期終身ノ者及ヒ國事犯刑期五年以上ノ者トス其費

用 府縣會ニ拘留中ノ費用并ニ集治監ニ移送ノ費用トモハ國庫ヨリ支給スヘシ

第二條 府縣會ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ノ費用ハ其刑ヲ宣告セシ地方ノ

地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

○官用ノ船舶車馬ヘ地方稅ヲ賦課スルヲ得ス

明治十五年十月廿八日

內務大藏兩卿乙第七十五號府廳(函館沖繩札幌根室ノ四縣ヲ除ク)ノ邊

官用ノ船舶車馬ハ明治十六年度以降地方税ヲ賦課スルヲ得サル儘ト可心得此旨相達候事
但從前ノ達及指令之ニ矛盾スルモノハ廢止ス

○皇族所有ノ車馬ハ地方税ヲ賦課スルヲ禁ス 明治十六年六月九日

皇族所有ノ車馬ハ明治十六年度以後地方税賦課不相成候條此旨布告候事
內務大臣府令第三十號府縣
(函館札幌根室津別四縣ヲ除ク)ノ通

○乘馬飼養令ニ依リ飼養スル乘馬ハ地方税ヲ賦課セス

明治十七年十月八日
第八十三號府縣ノ通

本年(八月)第六十六號達ニ依リ飼養スル乘馬ハ地方税ヲ賦課スルノ限リニ在ラサル儘ト心得ヘシ此旨相達候事

○地方税不納者公賣ノ未欠額及地方税年度未殘額處分方

明治十一年十一月二十八日
內務省乙第七十九號府縣ノ通

一地方税ヲ不納スルモノ十年第七十九號公布ニ據リ財産公賣徵收スルモ猶不足スル片ハ其欠額ハ管内一般ノ損失トシ賦課スヘシ

一地方税年度尾ニ至リ其一年度間ノ出納實費ニ就キ殘額アル時ハ之ヲ翌年度ニ繰越スヘシ十三年乙第四十四號府縣ノ通
以テ結尾三十六字ヲ削ル

○地方税ヲ以テ施行スル事業ニ對シ寄付スル金穀物件

仕拂及仕用方 明治十五年十二月二十七日
內務大臣府令乙第七十五號府縣(函館津別根室四縣ヲ除ク)ノ通

地方税ヲ以テ施行スヘキ事業ニ對シ寄付スル金穀物件ハ地方税豫算ニ編入セス直ニ寄付者指定ノ用途ニ仕拂及使用ス可シ此旨相達候事

但從前ノ令通訓示本文ニ抵觸スルモノハ消滅ス

○囚人證人及無罪解放ノ者警察官吏ノ處分ニ依リ支給ス

ヘキ旅費滯留日當仕拂方 明治九年十一月八日
內務省乙第二百二十七號府縣(東京府ヲ除ク)ノ通

罪囚證人及無罪解放ノ者旅費支給方ニ付本年第六十三號及ヒ第三百三十二號ヲ以テ公布之趣有之候警察官吏ノ處分ニ依リ旅費滯留日當支給スヘキ分ハ渾テ警察費ヨリ可仕拂此旨相達候事

○管内限諸達書及揭示諸費從來官費ニ係ル者支辨方

明治十二年二月七日
第六號府縣ノ通

明治十一年(七月)第十九號布告地方税目第十項管内限諸達書及揭示諸費并郡區役所ニ設置スル布告類揭示場新築修繕諸費ノ儀ハ從來官費ニ係ル部分ト雖自今地方税ヨリ支辨スヘシ此旨相達候事

○營業鑑札下附及鑑札費支辨方

明治十二年四月四日
內務大臣府令乙第十七號府縣ノ通
客年第三十九號公布中各業ノ者ヘ鑑札下附候儀ハ不苦ト雖凡鑑札料手数料等ハ收入不致儀ト可相心得此旨相達候事

但鑑札下附之費用ハ警察上ヨリ下附スルモノハ警察費ヨリ支辨シ收稅上ヨリ下附ス

十七年第六十六號達ヲ以テ乘馬飼養令ヲ頒ツ

九年第六十三號布告ヲ以テ罪囚證人及無罪解放ノ者旅費ヲ定

ルモノハ地方税の中費ヨリ支辨可致候ト可相心得事

○警察署分署建築修繕費國庫下渡金地方税連帶支辨

方 明治十三年四月三十日
第二十九號(使)府縣(東京府ヲ除ク)へ通

官舎建築修繕費等官費ト相定候旨明治十年(一月)第十六號ヲ以テ相達置候處警察署分署建築修繕費ハ本年七月以後國庫下渡金ト地方税ト連帶支辨スヘキ候ト心得ヘシ此旨更ニ相達候事

○警察上賞與等巡查以下へ給與ノ分國庫下渡金ト地

方税ト連帶支辨方 明治十三年五月二十日
內務省乙第貳拾貳號(縣)東京府神戶縣ヲ除ク)へ通

警察上賞與及扶助療治料等交付方ニ付明治八年(十月)官省乙第百廿四號達ノ趣有之候處十三年度ヨリ別途不相渡候條巡查以下へ給與スヘキ分ハ警察費ニ属スル國庫下渡金ト地方税ト連帶支辨可致尤右賞與等届ノ節一般人民ト區別候儀ハ從前ノ通可心得此旨相達候事

但一般人民へ給與候分ハ客歲第五十號公達ノ趣ヨリ支出スヘシ

○警察官吏並ニ之ニ準スル傭内外人諸給與支給方

明治十四年三月十八日
第十二號府縣へ通

本年(二月)第十六號布告第三條警察官吏並之ニ準スヘキ傭内外人ノ諸給與ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ストアルハ是迄全ク國庫ノ支辨ニ係リシ費項ヲ指シタルモノニシテ地方税ト連帶支辨ニ係ル費項ニ關係ナキ候ト心得ヘシ此旨相達候事

○巡查並警察諸備等懲罰金巡查還納被服類及警察署不用

品賣却代金地方税費へ仕拂方 明治十四年四月十一日
內務省乙第拾八號府縣(東京府ヲ除ク)へ通

巡查並警察諸備等懲罰金巡查還納被服類及警察署不用品賣却代處分方之儀ニ付明治九年官省乙第二十一號同年乙第九十五號同年乙第百八號本年乙第一號ヲ以テ相達候處右ハ相廢シ候條以來該金ハ地方税一般ノ到途へ可仕拂此旨相達候事

但十三年官省乙第四十六號達中賣淫罰金ノ項ヲ除ノ外ハ總テ廢止ト心得ヘシ

○國庫下渡金割合方

明治十四年四月十五日
第二十八號府縣(東京府神戶縣ヲ除ク)へ通

本年(二月)第十六號布告第二條地方税支出高拾分ノ三トアルハ警察費總高ノ内第三條ノ費用ヲ除キ餘ル金員ノ十三分ノ三ト心得ヘシ此旨相達候事

○已決囚ニ係ル經費區分實地取計方

明治十四年七月二十一日
內務大臣兩省乙第三十四號

本年第十七號布告ヲ以テ已決囚ニ係ル經費區分等被定候ニ付テハ實地取計方左ノ通可心得此旨相達候事

一豫算ヲ以テ受入タル監獄費中國庫金ト地方税トハ混一シテ諸費(懲役人ノ諸費)ヲ仕賄置每一ヶ月ニ囚員ノ延數ニ照シ平均ヲ以テ一囚若干ノ費金タルヲ算出シ而シテ刑期終身ノ者ト國事犯五年以上ノ者ノ延人員ニ乘シタル金額ヲ以テ國庫費ノ支出ニ可取計事

但臨時加給療養費埋葬費寫真費移轉費ノ如キ囚ニ關ラサル費項ハ其囚員限リノ

平均ヲ以テ算出スヘシ
一府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在モノハ經費モ前項ノ例ニ依リ地方稅支出方
可取計事

○堤塘使用料並木貨渡料地方稅ニ合セ土木費ニ
使用セシム

堤塘使用料及並木貨渡料ノ義ハ從來雜收入トシテ大藏省へ上納致來候處十四年度以
後ハ地方稅ニ合セ土木費ニ使用スヘシ此旨相達候事
明治十四年七月二十九日
內務省乙第三十五號府縣へ達

○集治監ニ入ルヘキ囚徒ノ費用管理方

警視廳府縣(東京府
ヲ除ク)へ達

本年第十七號布告ニ係ル費用ハ當省ニ於テ管理候條該布告第一條國庫下附金ハ當省ヨ
リ可下渡候ニ付以後豫算帳及ヒ決算帳等渾テ當省へ可差出第二條地方稅受拂方ハ集治
監ニ於テ直ニ爲取扱候條此旨相達候事

○堤塘使用料下渡方

堤塘使用料之義ニ就テハ明治十一年(九月)乙第五十八號及本年(七月)乙第三十五號ヲ
以テ相達候次第モ有之候處十四年度以降地盤ノ官民有ニ拘ラス使用地ノ修繕地方稅負
擔ニ係ル者ハ本年乙第三十五號達ノ通相心得協議費負擔ニ係ル者ハ協議費支出ノ町村
へ下渡堤塘修繕費ニ充シムヘシ尤運帶支辨ニ係ル者ハ其主擔ノ方へ可屬此旨相達候事
明治十四年九月二十八日
內務省乙第四十六號府縣(沖繩縣ヲ除ク)へ達

○警部長ニ屬スル俸給雜給支辨方

明治十四年十二月十三日
內務省乙第六十一號府縣

本年(十一月)第九十八號公達警部長ニ屬スル俸給及雜給ハ從前警部給與ノ内ヲ以テ支
辨スル儀ト可心得此旨相達候事
(東京府沖繩縣
ヲ除ク)へ達

○警察廳舎建築修繕費國庫金算出方

本年第二號布告第三條第二項警察廳舎建築修繕費ハ警察費ヨリ分裂セシ科目ニ付客年
第十六號布告ニ依リ國庫下渡金ヲ算出スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事
十六年乙第四十四號
省達(算出スル)下ノ
十三字ヲ
刪除ス

○賣淫罰金支拂費目

九年當省乙第廿五號賣淫罰金支拂費目相達置候處右ハ苦使費警察探偵費ニ遣拂仍ホ餘
リアレハ檢徵費ニ補充苦シカラスト改正ス尤モ徵收高及ヒ遣拂明細書届出ノ儀ハ從前
ノ通此旨相達候事
明治十五年三月十三日
內務省乙第十七號府縣
府縣(東京府沖繩縣并ニ北海道三縣ヲ除ク)へ達

○警部給與ノ内俸給雜給ノ科目流用方

警部給與ノ内俸給雜給ノ科目(神奈川長崎ノ二縣ハ
根室ノ四縣ヲ除ク)へ達
備外國人俸給雜給共
彼是流用セントスル片ハ該金額前以當省
エ伺出候儀ト可心得此旨相達候事
明治十五年六月十二日
內務省乙第三十七號府縣

○在府縣獄囚徒費小科目流用方

(東京府北海道三縣
沖繩縣ヲ除ク)へ達

在府縣獄囚徒費小科目(獄費、已決囚、監費、管獄費)彼此流用支辨セントスルルハ當省へ伺出候儀ト可
相心得此旨相達候事

但本件伺出候節ハ金員仕譯書添付スヘシ

○傳染病ニ罹リ身元赤貧ノ者費用地方稅衛生費ヲ以

テ支辨方

明治十六年二月十四日
第八號警視廳府縣沖繩函館札幌室蘭ヲ除クヘ達

明治十四年(四月)第三十號達左ノ通改正候條此旨相達候事

傳染病ニ罹リタル者身元赤貧ニシテ資力ナキトキハ本籍寄留旅行ヲ問ハス其費用ニ總
テ發病地ノ地方稅中衛生員ヲ以テ支辨スヘシ

但流行ノ勢盛ナルトキハ時機ニ依リ官費支給スルコトアルヘシ

○並木及堤防道路用惡水路土居敷等ニ生スル竹木枯

倒障害等ニヨリ拂下代金充用方

明治十六年四月三十日
內務大臣兩省乙第拾九號府縣

並木及堤防道路又ハ用惡水路土居敷等ニ生スル竹木枯倒障害等ニヨリ拂下タル代金ハ
本年度以降明治十四年內務省乙第四十六號達ノ區分ニヨリ並木拂代金ハ並木植繼費ニ
其他ノ竹木拂代金ハ土木費ニ充テシムヘシ此旨相達候事
但本文ニ抵觸セシ達ハ總テ廢止之儀ト可心得事

○監獄不用品賣拂代金看守罰俸等國庫地方稅收入區

分方

明治十六年九月二十七日
內務省乙第三十八號集計官傳戶部及三池ノ三箇ヲ除クヘ達

東部府及沖繩

國庫札幌根室ノ四
縣ヲ除クヘ達

國庫下付金及地方稅受ケ入レ金ヲ以混一ノ上罪囚ノ刑期ニ區分シ十四年內務大臣兩省
達乙第三十四號計算法ニ照據購入セシ監房常置ノ器具ヲ始メ戒具雜具等不用物品賣拂
代金及看守罰俸金等納入方ノ儀國庫地方ノ區分計算法ニ據ラス十五年以降集計監ニ生
セシモノハ總テ國庫へ收入シ警視廳及府縣ニ生セシモノハ地方稅へ收入セシメ候條此
旨相達候事

○警察費ノ內府縣下渡金交付方

明治十七年六月十二日
內務省乙第貳拾八號府縣(沖繩縣
除クヘ達)

北海道三縣ヲ
除クヘ達

警察費ノ內府縣下渡金ノ儀從來大藏省ヨリ直チニ交付シ來リ候處十七年度以降當省ヨ
リ交付候條此旨相達候事

但請求書ノ儀ハ警部給與備外國人給與ト各別ニ調製シ受取方申出候儀ト心得ヘシ

○在府縣獄囚徒費取扱方

明治十七年六月十二日
內務省乙第貳拾九
號警視廳府縣(沖繩縣北海道三縣ヲ除クヘ達)

在府縣獄囚徒費取扱方左ノ通改正候條十七年度ヨリ施行スヘシ此旨相達候事

但十四年七月內務大臣兩省乙第三十四號同年九月乙第四十二號十五年十月乙第五十
三號之達ハ十六年度限り廢止ス

一集治監ニ入ルヘキ囚徒ニシテ府縣獄ニ在ル者檢束衣食一切從前ノ獄費已
決囚諸費管轄費ノ費用トシ
テ一囚一日ニ付金貳拾錢ヲ交付スヘシ

但朝夕出入アルモ各一日ヲ以テ計算スヘシ

一十四年十月乙第五十三號達之内現員表ハ差出ニ不及前々年度中宣告濟人員ニヨリ左ノ科目表ニ照準豫算帳調整定期ノ通差出スヘシ
但十七年度分ハ差出ニ及ハス
(科目表略之)

○輕罪控訴被告人ニ係ル拘禁中ノ諸費支辨方

明治十八年 四月二十四日

輕罪ニ係ル控訴之儀ニ付本年第二號ヲ以テ公布相成候付テハ控訴裁判所管轄區域内各地方ヨリ控訴ヲ爲シタル被告人ニ係ル拘禁中ノ諸費ハ總テ最前裁判言渡アリタル地方ノ地方稅ヲ以テ支辨シ其費用交付方等ハ客年當省乙第貳拾九號達ニ準據シ可取計此旨相達候事

但控訴裁決後已決囚ニ属スル諸費モ本文同様可心得事

○警察費警察廳舍建築修繕費豫算原案額届出期限

十五年十月廿日内務省乙第五十六號 府縣(沖繩國館札根根室ノ四縣ヲ除ク)へ達

本年第二號布告ニ依リ十六年度以降警察費并ニ警察廳舍建築修繕費ニ對スル國庫下渡金豫算調整ノ都合有之ニ付右科目毎々年府縣會へ附スヘキ豫算原案額ハ前年十一月廿日限リ其地發遣及該會議決額ハ認可次第左ノ書式ニ照準シ當省へ可届出此旨相達候事
但豫算外臨時費用ヲ議決シ又ハ豫備費ノ支出ヲ要セシハ其事由ヲ具シ本文書式ニ倣ヒ届出ヘク且客年當省乙第二十三號并ニ乙第五十六號達ハ相廢シ候事

(用紙通常界紙ヲ以一通)

何年度警察費及警察廳舍建築修繕費原案額御届

一ノ内朱字

〔高金〕 爰ニ高金ヲ掲クルハ外書ニ記載スヘキ金額有之并ノ例

一金

警察費

金

地方稅

金

國庫下渡金

右二項ハ十四年第十六號公布及第二十八號公達ニ属スル金額ヲ掲クルモノニテ東京府ハ地方稅二十萬圓ナレハ國庫下渡金ヲ三十萬圓トシ其他ハ地方稅十萬圓ナレハ國庫下渡金ヲ三萬圓ト記載スルノ例

全別途金

此項ハ神奈川兵庫長崎高知鹿兒嶋ノ五縣ニ限ル

寄附金

此項ハ警察費ニ寄附金有之并ノ例尤此金額ニ對スル國庫下渡金ハ無之事

〔外金〕

賞金 賞金 賦金

第十二類

租稅及貨紙幣公債區町村費

右二項ハ警察探偵費ニ補充スル片外書ニ記載スルノ例

〔高金〕愛ニ高金ヲ掲クルハ外書ニ記載スヘキ金額有之片ノ例

〔外金〕

一金

諸
買
淫
罰
金
賦
金
警察廳舎建築修繕費

地方
國庫下渡金

全別
用途金

〔此項ハ神奈川兵庫長崎ノ三縣ニ限り従前警察費ニ属スル別途金ヨリ分派スヘキ金額有之片ノ例

〔此項ハ建築修繕費ニ寄附金有之片ノ例尤此金額ニ對スル國庫下渡金ハ無之

内譯

金

金

金

内

金

金

金

内譯

金

金

新築費
修繕費

原按領
府知事
關令
氏名印

右者何年度地方警察費及警察廳舎建築修繕費豫算

警察費並警察廳舎建築修繕費届出方

十八年十月二十八日
内務省甲第三十五號府廳

警察費並警察廳舎建築修繕費ニ於テ豫算外ノ費用支出ヲ要セシ片十五年當省乙第五十六號達但書ニ據リ届出ノ餽國庫下渡金調理ノ都合有之自今該年度出納閉鎖ノ期三箇月以前可届出此旨相達候事

警官練習所受業生ニ係ル費用支辨方

十八年九月九日(大城殖運費)
内務省甲第三十號府廳

警官練習所受業生ニ係ル費用ハ地方警察費ヨリ可致支辨此旨相達候事
但警部ニ係ル旅費並寄宿舎賄料ノ實費ハ警部給與ヨリ支辨スヘシ

陸海軍軍法會議ニ於テ處斷受ケタル囚徒ノ費用支辨方

十九年一月二十九日
内務省甲第一號府廳

陸海軍軍法會議ニ於テ輕重懲役及ヒ劊官ヲ附加シタル禁錮ノ刑若クハ普通刑法ニ依リ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

懲役禁錮ノ處斷ヲ受ケ官職ヲ失ヒ軍籍ヲ除カレタル囚徒ニ係ル費用ハ來ル二十年度以後軍法會議所在地方ノ地方稅ヲ以テ支辨ス可シ
但從前陸海軍軍律ニテ處斷セラレタル囚徒ニ係ル費用ハ明治十四年三月第十七號公布ニ依リ區分シ陸海軍刑法ニテ徒刑並刑禁獄ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル費用ハ國庫費ヨリ支辨スヘキ儀ト心得ヘシ
右相違ス

○府縣立醫學費用地方稅ヲ以テ支辨

朕府縣立醫學學校費用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年九月三十日

內閣總理大臣伯爵伊藤博文
文部大臣子爵森 有禮

勅令第四十八號

府縣立醫學學校ノ費用ハ明治二十一年度以降地方稅ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得ス

○地方稅經濟ニ關スル樹木拂下處分方

二十一年七月九日
內務省訓令第四十號

地方稅經濟ニ屬スル樹木拂下ノ儀ハ自今其應限リ處分シ翌年二月二十日ヲ發送期限トシ當省ヘ報告スヘシ

○府縣管理ニ管スル飲用水道及公葬墓地維持保存法

經費徵收方

二十年十月十九日
內務省訓令第四拾四號府縣

府縣管理ニ係ル公園飲用水及公葬墓地ノ維持保存方法經費徵收方法及其所屬現在ノ建物種棟瓦塗家石造軒數等取調本年十二月限り届出仍ホ將來之ヲ變更増減スルコトアルニ於テハ其都度可伺出經費ノ儀ハ收出豫算並精算共毎年豫算ハ前年度一月限り
精算ハ翌年度九月限り當省ヘ報告スヘシ

○地方稅支辨ニ係ル諸費收入豫算議案並ニ精算報告書式中改正

二十一年十一月五日
內務省令第三號

- 一 地方稅ノ支辨ニ係ル道路ノ並木枯損木拂代金ハ明治二十一年度ヨリ該年度地方稅土木費雜入ニ組入レ並木植續費ハ該土木費ヨリ支出スヘシ
- 一 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル寄附金ノ支出豫算議案及精算報告書式ハ明治二十一年度ヨリ警察費國庫下渡金ノ例ニ準シ寄附者指定ノ費目ニ於テ地方稅ト寄附金ト内譯ヲ爲スヘシ
- 一 物件ノ寄附又ハ年賦寄附等ニシテ通常豫算ニ編入シ難キモノハ便宜別議定ニ付スルコトヲ得
- 一 明治十五年(十二月)內務大藏兩省乙第七十二號達地方稅收入豫算議案並精算報告書式申戸數割ノ次合計以下明治二十一年度ヨリ左ノ通改正ス

收入豫算議案書式

一金

雜收入

内閣	警察費雜入
金	土木費雜入
金	何 費雜入
金	何 費雜入
金	前々年度ヨリ繰越金
一金	國庫下渡金
一金	國庫補助金
一金	寄附金
合計金	
収入豫算報告書式	
豫算金	△印ハ朱書
一金	雜收入
内譯	
豫算金	警察費雜入
金	
△豫算金	土木費雜入
金	

△豫算金	何 費雜入
金	
△豫算金	何 費雜入
金	前々年度分何税延納
△豫算金	何々年度ヨリ繰越金
一金	
△豫算金	國庫下渡金
一金	國庫補助金
△豫算金	寄附金
合計金	

◎警察費ノ内地方税連帶支辨金支出及殘金納付
 報告方 二十一年二月二十五日内務省
 訓令第四號府縣(冲繩縣ヲ除ク)
 警察費ノ内地方税連帶支辨金支出方之儀ハ二十年度以降總テ精算拂トナシ爾後決算之
 上殘金ヲ生セシハ八戻入ニ相立ヘシ

但シ會計整理期限後ニ於テハ精算拂ノ儘据置キ決算ノ上該殘金ハ直ニ現年度ノ第二部歳入トシテ國庫ヘ納付シ其旨當省ヘ報告スヘシ

◎地方税又ハ區町村費ノ支辨ニ係ル堤塘使用料及道路並木布貸渡料等ニ屬スル竹木拂代金取扱方

二十一年七月十七日內務省訓令第十七號
内務大臣兼逓信大臣(沖繩縣ヲ除ク)

地方税又ハ區町村費ノ支辨ニ係ル堤塘使用料及道路並木布貸渡料其他同上ノ並木及堤塘道路用惡水路土居布等ニ屬スル竹木拂代金ハ左項ニ準シテ取扱フヘシ
但本文ニ抵觸セシ從前ノ指令訓令ハ取消ス

- 一 修繕費ノ全部ヲ地方税ヨリ支辨スル箇所ノ收入ハ地方税ヘ其區町村費ヨリ支辨スル箇所ノ收入ハ區町村費ヘ毎年度ニ於テ編入セシムヘシ
- 一 修繕ハ區町村費ノ主擔ニシテ地方税ノ補助ニ係ル箇所ノ收入ハ區町村費ヘ編入セシムヘシ
- 一 地方税ト區町村費ト修繕ノ主擔ヲ定メスシテ分擔支辨ニ係ル箇所ノ收入ハ其支出金額ノ歩合ニ隨ヒ編入セシムヘシ
- 一 地方税ト區町村費ト年々修繕負擔ヲ異ニスル箇所ノ收入ハ該年度負擔ノ方ニ編入セシムヘシ
- 一 區町村費ノ支辨ニ係ル堤塘道路用惡水路土居敷修繕費及並木植栽及保護費ハ區町村費中土木費ヨリ支出セシムヘシ

一前各項ノ收入金ニシテ府縣廳ヘ積置タル分ハ前各項ニ準據シ本年度中悉皆交付スヘシ

第二百二十五章 地方税中警察費ニ對スル國庫下渡金

朕地方税中警察費ニ對スル國庫下渡金改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

內閣總理大臣伯爵黑田清隆
內務大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第六拾壹號 (官報八月七日)

明治十四年(二月)第十六號布告府縣警察費ニ對スル國庫下渡金ノ割合左ノ通改正ス
第一條 地方税中警察費及警察廳舍建築修繕費ニ對スル國庫下渡金ノ割合ハ東京府ハ其總高ノ拾分ノ四トシ其ノ他ノ府縣沖繩縣ヲ除クハ六分ノ一トス
第二條 前條割合ノ外警察官並並ニ之ニ準スヘキ傭内外國人ノ諸給與警視廳ノ廳費ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ス
第三條 本令ハ明治二十二年度ヨリ施行ス

第十二類 租税及貨紙幣公債區町村費

第二百二十六章 警部巡查給與規則

明治十年十月十五日
内務省乙第九十三號通

明治八年(十二月)當省乙第六十八號ヲ以テ相達候警部巡查給與規則及ヒ十年(二月)乙第十五號同年(四月)乙第四十五號ヲ以テ相達候右規則追加増補ノ分共都テ相廢シ更ニ別冊之通相定メ來ル十一月一日ヨリ施行候條此旨相達候事
(別冊)

警部巡查給與規則

巡查月俸之事

- 第一條 月俸ハ毎月十七日ヲ以テ支給ノ定日トス
但免職旅行等非常ノ事アル時ハ此限ニ在ラス
- 第二條 授任轉免等ノ月ハ一般ノ定規ニ依リ俸金ヲ給スヘシ
- 第三條 臨時出張セシムル時ハ日數ヲ見込俸給ニケ月分迄ハ繰上ケ給與スルモ妨ケ無シ猶滞在ヲ要スル時ハ右ニ準シテ送致スルコトヲ得ヘシ
- 第四條 出張中又ハ願濟歸郷中轉免スル時ハ達書其地ニ達シ當人受書ヲ出シタル日ヲ推シ十五日前後ノ區分ヲ以テ俸金ヲ給シ又ハ給セサルヘシ
- 第五條 免職ノ上奉職中ノ事ニ付滯留申付ル時ハ手當トシテ其日數ヲ算シ舊俸ノ半高ヲ給スヘシ
但不正ノ事アルヲ以テ滯留申付ル時ハ一切給セサルヘシ

第六條 病氣引又ハ父母看病及ヒ墓參等願ノ上休暇ヲ賜フ者ハ一般ノ定則ニ依テ月俸ヲ給スヘシ

但病氣ノ者到底奉職ニ堪ヘサル見込アラハ日數ノ多寡ニ拘ハラズ退職セシムヘシ尤職務上ニ於テ傷ヲ被リ療養スル者ハ日數ノ長短ヲ問ハズ全額ヲ給スヘシ

第七條 公事失錯等ニテ糾問中ハ月俸全額ヲ給ス私事等ニ渡ル糾問ト雖モ日數七日迄ハ尙ホ全額ヲ給スヘシ
糾問日數八日以上ニ及フ時ハ其月十五日前後ヲ區分シ減シテ其半額ヲ給ス無罪ニ歸スル時ハ其減額ヲ追給スヘシ
但處刑中ハ一切給セサルヘシ

第八條 一私事訴訟ノ原告人又ハ證人引合人トナリ之カ爲メ出勤セサル日數八日以上ニ及フ時ハ本條ニ準シ減シテ其半額ヲ給スヘシ

巡查被服器具支給ノ事

第九條 巡查一年ノ被服并ニ器具ハ現品ヲ以テ給與スヘシ

但保存期限ノ儀ハ各府縣適宜相定ムヘシ
(明治十四年五月内務省乙第二十八號追加)

第十條 白革胴縮手帖捕縛繩呼子笛棒提灯或ハランプ保存期限ニ照シ支給スト雖モ期ニ至リ猶ホ用ニ堪ユル物ハ用ニ堪ヘサルヲ待テ後ニ引替ユヘシ

第十一條 胴縮棒手繩呼子笛保存期限ニ至ラスト雖モ職務上ニ關シ破損スル者ハ速ニ換與スヘシ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

二十二年四月
内務省訓
令第十五號
第八號

但本條物品ノ外現品支給ノ分破損スト雖モ輒ク換與スルコトヲ許サス然レトモ職務ニ關シ事情已ムヲ得サル者ハ檢査ノ上換與スルコトアルヘシ

第十二條 被服帽靴等保存期限ヲ過ル分ハ之ヲ本人ニ付與スルヲ得ヘシ
但胴縮手帖捕繩呼子笛棒提燈並帽服徽章ハ此限ニ在ラス

第十三條 警部ノ費ハ一般ノ定規ニ依ル其區内出張及ヒ巡回ハ一日金六拾錢同滞在日當ハ一日金三拾五錢トシ右支給方ハ一般ノ定規ニ依ル可シ

第十四條 巡查旅費ハ明治九年八月第十八號公達ニ依リ里程日數等計算支給方ハ一般ノ定規ニ依ルヘシ
但持區内出張及ヒ巡回ハ總テ給セサルヘシ

第十五條 巡查免職スル時ハ前二年以上勤續ノ者ニアラサレハ總テ旅費ヲ給セス
但勤續二年未滿ト雖モ職務上重傷ヲ受ケ不具トナリ又ハ故障無之シテ至ク官ノ都合ニヨリ(改革等ノ時ヲ云フ)免職スル者ハ歸國旅費ヲ給シ職務上ニ死シ及ヒ奉職

中病死スル者ハ歸國旅費ノ額ヲ手當トシテ給ス

● 伺指令

● 並木處分之儀ニ付新潟縣ヨリ内務省へ再伺十六年六月廿二日

去月十八日並木拂代金處分相伺候處地方稅負擔ト協同費負擔トニ拘ラス總テ本年乙第十九號達之通可心得旨伺指令相成就テハ其他ノ修繕假令地方稅ノ負擔ニ係ルト雖トモ其並木古樹木拂代金ハ地方稅雜收入ニ編入セバ直ニ其費

途ニ支辨スル儀ニ候得共其植樹費ハ地方費土木費中ニ編入セサル儀ニ候哉將々從前ノ通り之ヲ編入スルモノトセハ土木費中植樹費ノ一項ヲ別ニ掲ケ古樹木拂代金ヲ以テ其費ニ充ツルノ儀ニ候哉更ニ相伺候也
指令 十六年八月二日

伺之額植樹費ハ土木費中へ編入シ拂下代金ハ土木費雜入ニ併算シ其内譯ハ說明書ニ掲載可致也

● 並木拂代金支辨ノ儀ニ付新潟縣ヨリ内務省へ伺十六年六月五日

本年四月三十日乙第十九號御達中(並木拂代金ハ並木植樹費ニ其他ノ竹木拂代金ハ土木費ニ充テシムヘシ)ト右之右並木植樹費トシテ下ケ渡シタル代金ノ内植樹費ヲ始メ開闢ノ箇所等苗木植付費用金引去ルモ尙殘金有之節ハ其殘金土木費ニ充テ支辨セシメ可然哉

指令 (大藏省) 十六年八月十三日

書面伺之趣並木植樹ノ費用ニ充テ尙殘餘アルハ翌々年度へ繰越シ植樹費ニ充用候儀ト可心得事

● 監獄費取扱方之儀ニ付茨城縣ヨリ内務省へ伺十六年七月十七日

明治十四年乙第三拾四號ヲ以テ已決因ニ係ル經費區分方御達ニ付已決因ニ係ル諸費ハ總テ一ヶ月間混一交府置而シテ(本支)署總因延人員ニ分割シ國庫地方稅ノ兩費ニ精算致來候得共實際取扱上籍雜抄ナカラス隨テ精算ニ延滞ヲ來シ不便候間輕罪囚ヲ使役スル一交署費ノ如キ區界判明ニシテ兩費(國庫金地方稅金)ニ運附セサルモノハ加キハ一ヶ月間混一支助ヲ不要其時々該囚員限リ精算相立可然哉

指令 十六年八月十四日

書面伺之趣ハ從前之通可取計事

● 已決因ニ係ル經費區分ノ儀ニ付新潟縣ヨリ内務省へ伺十六年七月十三日

一 已決因ニ係ル經費區分ノ儀十四年御達乙第三拾四號達中從後入トアルハ禁獄人ヨリ會審候儀
一 同條但書臨時加給以下五費目ノ如キ總因ニ關テラサル項其囚員限リ平均ヲ以テ算出云々トアリ候令ハ一箇月中兩度移轉有之甲ハ刑期終身ノ者ニテ乙ハ府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ自カラ入費ノ區分判然タルヲ以テ其部度官

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

或ハ地方費ト直ニ本拂ニ相立可然哉又ハ一箇月中ハ官費地方費ノ區域ヲ不問同一ニ支拂置月末ニ至リ其囚員限リノ平均ニ算出可致儀ニ候哉

一獄署諸費ノ部刑具諸費ノ如キモ刑期終身ノ者及國事犯五年以上ノ者ヘモ分頭割テ以テ算出可致儀ニ候哉

一囚人食費ノ如キ湯米代浴從前常懸ニテハ已未決流滞仕賄置月末ニ至リ已未決延人員ヲ以各費用ヲ算出致來候ヘ共右ハ已未決兩國ノ費用ト雖瓦已決囚而已ニ割合候儀ニ候哉又ハ已決囚ニ係ル費用而已囚延人員ニ算出候儀ニ候哉

指令 十六年八月十八日

第一條 已決囚ニ係ル費用ハ都テ含テス

第二條 後段何之通

但集治監ヘ押送ノ費用ハ都ニ支拂フヘシ

第三條 刑具費ハ集治監ニ入ルヘキ囚徒ニ關係之レナン

第四條 已決囚ニ係ル費用ノミ同囚延人員ヲ以テ算出スヘシ

●監獄費取扱方ノ儀ニ付群馬縣ヨリ内務省ヘ伺十六年八月八日

監獄費國庫地方費ト區分方ノ儀ニ付テハ明治十四年御省乙第三十四號御達ニ依リ諸費ヲ混一ニ仕賄延囚員ニ割合候處國庫囚徒ノ在監セサル支署外役所等ノ費用モ混一ニ仕賄候テハ計算上ニ錯雜不整且未決監ノ支署ニシテ備カ輕禁錮拘留ノ刑ニ處セラレシ者アルカ爲ニ其費用ヲ獄署諸費連帶ノ支拂ニ混入スルハ少シク妥當ナラサル様慮候儀ニ付右支署役所外等全ク國庫囚徒ノ在監セサル處ノ費用ハ地方費ヲ以テ仕拂國庫囚徒ノ在監スル監署ノ費用ノミ國庫地方稅ノ連帶ニ取扱不苦候儀

指令 十六年九月七日 書面何之懸本支署ヲ問ハス已決囚ニ係ル費用ハ總テ混一可仕賄事

●監獄費取扱ノ儀ニ付埼玉縣ヨリ内務省ヘ伺十六年六月廿六日

監獄費兩費區分其他取扱上疑義ノ件左ニ相伺候

第一條 明治十四年乙第三十四號ヲ以テ御達相成タル監獄費國庫金ト地方稅金ト區分計算方ノ儀ハ一監獄内ニ集治監ト府縣獄トニ入ルヘキ囚徒混滞シテ費用區分判然セサル者ヲ指シタル者ニシテ假令ハ一縣内ニ府縣獄ト入ルヘキ囚徒ノミ使役スル支署アリテ自ラ費用區分判然ナル者殊ニ本署(集治監ト府縣獄ト入)ノ經費ト混一配算セス直ニ地方稅ノ支拂ニ取扱可然哉

第二條 果シテ前條ノ如クナルモ茲ニ一支署ヨリ府縣獄ニ入ル可キ囚徒ノミヲ使役スルトモ費用判然區分ナク看守俸給及ヒ被服并器具應中需用品囚徒ノ被服雜具ノ類本署ニ於テ一同購求シ囚員ノ増減ニ應シ交付又ハ返還シ及ヒ本署ヨリ移轉セシムル囚徒ニ附若スル衣服物品等アリテ該支署ニ屬スル經費タルヲ區分スルニハ錯雜ニシテ判別ニ手數ヲ要スルノミナラス細密區分難相立實際却テ不便ニ有之如斯ハ其支署ニ於テ支出スル囚徒食費ノ如キモ本署ノ經 卜混一シテ計算取扱可然哉

第三條 前條ニ反シ費用分界アル支署本署ニ各集治監ト府縣獄トニ入ル可キ囚徒アル時ハ費用區分方一監獄毎ニ延囚員ヲ以テ計算ス可キ乎將々本署ニ混一シテ兩費(國庫金ト地方稅金ト)ト區分可相立哉

第四條 乙第三拾四號御達但書囚員限リヲ以テ計算ス可キ移轉費中假令ハ他ノ府縣ヨリ各地集治監ヘ押送スル囚人管内遞傳中諸費ハ其都度區分判明ナルヲ以テ其時々本拂トシ本支署ノ間ニ彼是移轉スル諸費實際區界難相立モノハ一箇月間混一仕賄置キ該囚員限リノ平均ヲ以テ計算相立可然哉

第五條 延人員ヲ算出スルニ茲ニ二法アリ一ハ飯料ノ如キモノヲ割賦法ニシテ夕ニ入監シ朝ニ出監等極メテ多シ依リテ一日ノ飯數即チ三飯ヲ以テ一入トシテ延人員ヲ計算ス二ハ獄署費其他ノモノヲ割賦法ニシテ夕ニ入監スル朝ニ出監スルモ皆一入トス尤モ朝ニ未決囚夕ニ已決囚ニナルモノ及ヒ本支署移轉發着同日ナルモノ前例ニ依テハ重複スルヲ以テ出ノ方ヲ扣除シ入ノ方ヲ増加シ延人員ヲ算出ス如斯延人員ノ積算ニ二例ヲ設ケ國庫費ト地方費モ配算取計可然哉

第六條 囚徒飯米炊所已未決囚トモ一所ニシテ米價ヲ除クノ外費用區別難相成然レハ獨リ米價ヲ判知スルモ他ノ費用區分ナシカタキ上ハ都テ一箇月間混併仕賄置キ兩囚延人員ヲ以テ計算區分シ可然哉

第七條 一掃内ニ未決已決照アル獄舎ニシテ其區域判別シ難キ箇所(獄舎及口周圍兩監獄界ノ)建築修繕ハ派テ未決囚員ヲ併シ國庫費地方費ノ區分取扱ハ可然哉

第八條 監獄費兩費區分方每一箇月混一仕附置モ其月ノ延囚員ニ割合算出ハ勿論ニ候處假令ハ甲月ニ購買シタル品物ノ内半額ハ乙月ニ至リ仕用シ或ハ甲月ニ要消シタル品價ヲ乙月ニ下附スル等月々有之右現品支消シタル月ノ延囚員ヲ以テ割賦スヘキモノトスレハ手數ヲ煩スノミナラス獄警ノ用紙薪炭油附木等ノ類ニ至リテハ實際差支行ハレ難キ次第ニ付右ハ囚徒一身上ニ係ル費途食糧被服等ノ類ヲ除クノ外都テ代價仕拂タル月ノ勘定ハ編入即チ其月ノ延囚員ニ割合可然哉

第九條 監獄則ニ在監人一人一日來代金壹錢五厘以下日用雜費金一錢二厘以下トアルニ依リ精々簡減ヲ加ヘ定額ニ越超セサル檢注意仕附ヲモ殊ニ雜費ハ外役囚多數ナルヨリ雨天ニハ鞋ノミニテモ一人二三足ヲ要スルノ有之諸費仕附雜費甲月ノ超過ハ乙月ノ殘餘ヲ以テ補充來リ候ヘ正若シ年度決算ノ際定額ニ超過セシ時ハ不得止ニ付已決囚務費ノ内來代其他ノ有餘ヲ以テ支辨不苦哉

第十條 傭工賃取人區分方ノ備ハ明支無之ニヨリ實際集治監ニ入ル可キ囚徒ノ收入ハ國庫費ニ差額キ府縣獄ニ入ル可キ囚徒收入ハ地方稅額收入ニ取扱ヒ來リ候ヘ正不用品ノ償却代及ヒ罰金沒收入金等ハ派テ地方稅ノ雜取トシ可然哉

第十一條 徒刑ノ女囚無之時ハ女監取締ノ給料ハ國庫ヘ配算セサル儀ニ可有之哉

指令 十六年九月十九日

第十二條 本支署費用區分ニ及ハス

第十三條 前條指令ニ據ルヘシ

第十四條 伺之通

第十五條 一日中出入アルモ各一人ト爲スヘシ

但未決囚ヨリ已決囚トナルモノ及本支署事務スルモノノ如キ一日中相跨ルモノ其當日ハ出入ノカチ扣除シ入ノカチ增加スヘシ

ナ増加スヘシ

第十六條 區分シ難キ費用ノミ混併シ地ツ未決囚ニ係ル分ヲ省キ其餘已決總囚員ヲ以テ算出區分スヘシ

第十七條 前條指令ニ據ルヘシ

第十八條 實際支消シタル月ノ囚員ヲ以テ算出スヘシ

第十九條 定額ニ超過スヘカラサル儀ト心得ヘシ

第二十條 不用物品賣却代等收入區分ノ儀ハ道テ何分ノ儀適スヘシ

第二十一條 伺之通

●徒刑囚海路押送費用之儀ニ付山口縣ヨリ內務省ヘ電報伺十六年九月廿六日

本月七日付御達徒刑囚海路押送費用ハ沿道府縣ニ關スルカ本縣限ノ國庫費カ又看守押丁旅費ハ本縣地方費ト連帶スルカ將國庫費ノミ支辨リ至急御指揮ヲ乞フ

指令 十六年十月六日

囚徒押送費ハ沿道府縣ニ關セス旅費共國庫費支辨タルヘシ

●監獄ニ係ル沒收金ノ儀ニ付三重縣ヨリ內務省ヘ伺十六年十一月十三日

國庫費支辨ニ係ル囚徒ノ傭工賃及沒收金モ本年乙第三拾八號御達ニ據リ地方稅雜收入ヘ受入可然哉

指令 十六年十一月二十日

工錢收入ハ從前ノ通り尤工錢ト雖モ沒收金ハ伺ノ通り

●監獄費國地兩費配算方ノ儀ニ付和歌山縣ヨリ內務省ヘ伺十六年十月十三日

監獄費國地兩費ニ算出方ノ儀ハ御達十四年乙第三拾四號及十五年乙第五拾三號御達ニ基クヘキニ付該費ノ支出ニ係ルモノハ則チ國地兩費ノ豫算金額 併令ハ國庫費百圓ト地方費四百圓ト都テ目的ト致居候處今般集治監ヘ入ヘキ囚徒ノ内七拾二名ハ宮城集治監ヘ押送スヘキ御達ニ從ヒ右押送費ノ上ハ殘囚僅カ四名ニ有之然ルモ前條兩費支出ノ目

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

的ヲ以テ既ニ着手致候事物ニシテ該費ノ内既ニ若干金ヲ支拂セシモ 看守押丁及囚徒ノ被服隊具ヲ新調スル爲メ其素
 建築用材ヲ購求シ目下 建築中ニ係ルモノノ類 其事物猶半途ニシテ未タ決算ニ至ラサル者ニ在リテハ忽チ配算ノ目的ヲ失スヘク去過之ヲ悉
 皆地方ノ費負擔ニ歸セシメントスルモ稍財政上其宜キヲ得サル姿ニ有之處如斯ハ當初ノ目的ニ因循シ其已ニ購買シ
 及購買ノ約束ヲ以今更破約シ難キ者ニ限リテハ假令之ヲ現用セサルモ此際決算シテ國地兩費ニ配算シテ可然哉
 指令 十六年十一月廿二日

伺之趣ハ實際使用シタル月ノ現囚員ヲ以算出スヘキ事
 但建築費ハ囚徒集治監ヘ押送ノ日迄ヲ限リ事業落成ノ上總延人員ニ算入スヘシ

●監獄工業ニ係ル工錢收支金算出方ノ儀ニ付山形縣ヨリ内務省ヘ伺十六年十月
 八日

明治十四年七月廿一日附乙第三拾四號ヲ以テ御達申但當ニ臨時加給療養費理葬費寫真費移轉費ノ如キ總費ニ關ラサ
 ル費項ハ其囚員限リノ平均ヲ以テ算出スヘシト有之其他ノ明文ハ無之候得共工業費ノ如キハ各種ノ區分ヲ成サスシ
 テ各囚働ノ延入頭ニ宛收支共算出候片ハ穩當ナラサル據思考候間夫取各租費限リノ入頭ニ收支共算出候片可
 然哉此段相伺候也

指令 十六年十一月廿八日
 伺之趣役業ノ何タルヲ問ハス定役ニ服ス可キ已決總囚員ノ延數ニ平均算出スヘシ
 但定役ニ服セサル或刑ノ囚徒ト雖モ其役ニ就カシムル片ハ本文延數ニ算入スヘシ

●不用ニ屬スル地所建物賣却代金納入方ニ付岐阜縣ヨリ内務省ヘ伺十六年十月
 廿九日

本年九月乙第三拾八號ヲ以テ國庫下付金及地方稅受入金ヲ以混一ノ上罪囚ノ刑期ニ區分十四年内務大藏兩省連乙第三
 拾四號計算法ニ照據購入セシ監房常置ノ器具ヲ始メ戒具雜具等不用物品賣拂代及看守罰俸金等納入方之儀御達相成
 候處右ニ獄舎其他地所建物ハ明文無之候得共素ヨリ該計算法ニ依リ支出シタル者ニ付若シ不用ニ屬シ賣却シタル片
 ハ乙第三十八號御達ニ準據取扱可然ト存候此段相伺候也

指令 伺之通 十六年十一月廿八日

●雇工錢國庫賣入收入方ノ儀ニ付石川縣ヨリ内務省ヘ伺十六年十一月二十二日

今回御省乙第三十八號ヲ以テ地方國庫ノ兩費ニテ購入セシ監房常置ノ器具ヲ始メ戒具雜具等不用物品賣拂代金及
 看守罰俸金等十五年度以降集治監ニ生セシモノハ國庫ヘ警視廳及ヒ府廳ニ生セシモノハ地方稅ヘ收入スヘキ旨御達
 相成候處因徒雇工錢ノ儀ハ右御達ノ限リニハ無之十四年御省等乙第三拾四號御達計算法ニ據リ割合兩費方稅ヲ指ス
 ルハ皆全シヘ收入スヘキ哉ニ被存別紙寫ノ通電報ヲ以テ伺御指令有之候然ル處本年十一月七日官報第百九號ノ表
 大坂府ヨリ囚徒費區分方何第二條ヘ御指令ノ趣勸候處工錢並遺留品賣却代モ乙第三十八號御達ノ通電分各監房
 警視廳及ヒ府廳ヲ云フ限リニ收入割合ニ及ハス儀ニ可有之哉ニ推考致候果シテ然ラハ擬ニ本縣ヨリ伺御指令ト支致シ前願乙
 第三十八號御達ハ雇工錢等雜收入共渾テ割合兩費ヘ收入スルニ及ハス其集治監ニ生セシモノハ國庫ヘ警視廳府廳ニ
 生セシモノハ地方費ヘ收入候儀ニ可有之哉更ニ疑惑ヲ生シ候ニ付尙又此旨相伺候也
 指令 十六年十二月十二日

工錢收入ハ最前指令ノ通尤領置工錢ノ沒收金トナル片ハ乙第三十八號ニ據ルヘシ
 [別紙]同縣伺 十六年十月九日
 已決囚雇工錢收入區分ハ今般乙第三十八號御達ノ外ナルヤ
 指令 伺之通 十六年十月十八日

●在府縣獄囚徒費取扱方御改正ニ付疑義ノ件群馬縣ヨリ内務省ヘ伺十七年六月
 廿五日

第一條 集治監ニ入ルヘキ徒囚費用トシ一四一日ニ付金貳拾錢ヲ、御下附相成候金額ハ悉皆仕拂總高ヘ差繼可然哉
 第二條 同囚徒工錢ハ從前之通國庫ヘ收入之儀ト心得可然哉
 第三條 押送費ハ一四一日金貳拾錢ノ外現費御下相成候儀ト心得可然哉
 第四條 上告期限即宣告濟ヨリ三日間及上告中ノ贈費ハ渾テ未決囚贈費ヨリ支拂之儀ト心得可然哉此段相伺候也
 指令 十七年八月十六日

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

第一條 集治監ニ入ルヘキ現囚員ニ應シ國庫ヨリ支出ノ金額ヲ地方稅ト併セ支辨スヘシ
 第二條 地方稅ヘ收入スヘシ
 第三條 押送費ノ豫算内ヲ以テ支辨スヘシ

但集治監ヘ押送ノ外移送ニ係ルモノハ日額貳拾錢ノ内ニ包含ス

第四條 上告セサル者ハ裁判宣告ノ日ヨリ上告ニ係ル者ハ刑期ニ算入スヘキ日ヨリ國庫支辨トスヘシ

●在府縣獄囚徒費其他監獄費用取扱方ノ儀ニ付
 今般乙第二十九號ヲ以テ在府縣獄囚徒費取扱方ノ儀御達相成候處實際ノ取扱上ニ於テ集治監ニ入ルヘキ囚徒ニ對スル費用ハ總テ地方費中ヘ混一ニ仕拂置月々其現人員ニ應シ一囚一日金貳拾錢ノ割合ヲ以テ國庫ヨリ支出シタル金額ヲ總支出額混一ノニ應シ各費目ニ割合地方費ノ方ヘ戻入候テ可然哉又ハ國庫ヨリ支出ノ金額ハ地方稅雜收入中ヘ編入候テ可然哉且隨軍監獄ヨリ當廳所轄監獄ヘ送致相成候囚徒ニ屬スル費用モ凡テ同儀ノ取扱ト相心得可然哉此段相伺候也

道テ本文費用一囚一日金貳拾錢ノ額ヲ以テ仕拂候上ハ僱工銀其他ノ取入金ハ悉皆地方稅雜收入ヘ編入候領ト見込候也

指令 十七年八月十六日

一 國庫支出金取扱方ハ隨軍處初囚ニ係ル分共前段同ノ通

一 退費ノ趣同ノ通

●在府縣獄囚徒費取扱方ノ件ニ付
 本年六月御省乙第貳拾九號同七月乙第貳拾號ヲ以テ在府縣獄囚徒費取扱方及囚徒假留監ヘ送致方御達相成候ニ付テハ疑義ノ件左ニ相伺候也

一 囚徒在監諸費トシテ一囚一日金貳拾錢宛御下付相成候金額ハ裁判宣告ノ日ヨリ國庫費ノ仕拂ニ相立可然哉
 一 集治監ヘ入ルヘキ囚徒判額定ノ上ハ直ニ假留監ヘ押送可致候テハ該囚徒途中衣服ノ歸部ヲ監獄費用爲致其費用

ハ押送費ノ仕拂ニ相立可然哉

指令 十七年九月三十日

第一條 刑期ニ算入スヘキ日ヨリ國庫支辨トスヘシ

第二條 伺之通

●全上ノ件ニ付
 岐阜縣ヨリ内務省ヘ伺十七年七月三日

第一條 集治監ニ入ル可キ囚徒ニシテ府縣獄ニ在ル者費用交付方今般内務省乙第貳拾九號ヲ以テ御改定相成候ニ付テハ該囚徒費用ハ他ノ囚徒費ト混同支辨シ御交付ノ金員ハ地方稅監獄費及監獄建築修繕費ノ總金額ニ割合各費ニ對スル額ヲ定メ地方稅豫算精算共警費國庫下渡金ニ準シテ關理シ可然哉

第二條 僱工錢ハ御交付ノ金員ヘ可差繼設又ハ地方稅雜收入ニ取計可然哉

第三條 豫算關製方ノ儀ハ前々年度中宣告済云々トアレ其以前ヨリ越シ來ル人員アルハ是又算入スル領ト相心得可然哉

第四條 押送中ノ費用ハ總テ實費ヲ以テ別ニ御下渡可相成候ト心得可然哉

第五條 府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ルモノハ費用モ乙第二十九號御達ニ準スル領ト相心得可然哉

右相伺候也

指令

第一條 集治監ニ入ルヘキ現囚員ニ應シ國庫ヨリ支出ノ金額ヲ地方稅ト併セ支辨シ地方稅豫算精算案及精算報告書

ハ國庫金ヲ扣除整理スヘシ

第二條 地方稅ヘ收入スヘシ

第三條 前々年度中宣告済ノ人員ニ限ル

第四條 押送費ノ豫算内ヲ以テ支辨スヘシ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

但集治監へ移送ノ外移送ニ係ルモノハ日額金貳拾錢ノ内ニ包含ス
第五條 實際ノ場合ニ於テ伺出ヘシ

●警部乘馬ノ節口附人旅費支出方ノ件ニ付大藏省ヨリ太政官ヘ伺十七年九月十日
警部ニシテ乘馬口附ノ者ヲ要スル節該旅費支出方ノ儀從來警部維持又ハ地方警察費ヨリ支辨スル等區々相成居候ニ付篤ト考按候成元來旅費定期節拾壹章第壹項口附ノ者ノ旅費タル官廳ヨリ直接ニ給スルニ非スシテ乘馬人其人ニ給神スルノ精ト被存候果シテ然ラハ右口附ノ者ノ旅費ハ警部給與ノ部分ニ屬スル至當ナルヲ以テ以後ハ國庫ノ支辨ニ歸シ候ト一定シ可然候ト存候得共聊疑義ヲ生シ候ニ付此段爲念相伺候也
指令 伺ノ通 十七年九月三十日

●在府縣獄ヨリ支出ノ金額地方監獄費等へ戻入ノ儀警視廳ヨリ内務省へ伺
十七年十月十日

在府縣獄囚徒費ヨリ支出ノ金額地方監獄費へ戻入方ノ儀ハ會テ伺定ノ趣モ有之候處尙熟考候ニ總支出額ニ應シ戻入候ハ少シク不穩當ニモ有之候付一因一日金廿錢ノ割合ヲ以テ國庫ヨリ支出ノ金額ハ監獄費總支出高ノ内未決囚諸費ヲ除去シテ當廳ノ如キハ監獄分署ヲ鑄治橋市ヶ谷石川島ノ三箇所ニ分離相成居候付集治監ニ入ルヘキ囚徒ノ現ニ入監セシ分署限リノ費額ニ應シ各費目ニ割合地方費ノ方へ戻入願儀致シ度然ルルハ實際取扱上至便ノ儀ト思考候付此段及上申候也
指令 伺之通 十七年十一月一日

●地方税費目ノ儀ニ付農商務省ヨリ太政官へ伺十七年十二月二日

地方税規則第三條地方稅ヲ以テ支辨スヘキ勸業費目ノ儀ハ土木費教育費等トハ稍其性質ヲ異ニスルモノニシテ醫ハ博覽會共進會物産品評會勸業委員勸業各會農商工事ノ改良道信統計調査等ノ如キハ其事業ノ府縣立ニ屬スルモノト人民ノ共立ニ係ルモノトナ開ハス均シク事業獎勵上必要ノ費用ニシテ自カラ一府縣全體ニ關スルヲ以テ右等費用ハ府縣會ノ決議ヲ經テ勸業費目ヨリ支出致シ法律上妨ケ無之儀ト相心得可然候此段相伺候條至急御指相成度候也

退テ本文伺ノ通ニ有之候ハ内藏兩省へハ本省へ御指令ノ旨趣御達相成度此段副テ上申候也
指令 伺之通 十七年十二月廿三日

●在府縣獄囚徒費取扱方并地方税豫算ノ儀ニ付鹿兒島縣ヨリ内務省へ伺
十七年十二月十二日

本年六月御省乙雷貳拾九號ヲ以テ在府縣獄囚徒費取扱方ノ儀御達相成候處實際ノ取扱上ニ於テ疑義ヲ生シ候件々左ニ

- 第一條 本年六月廿四日警規應伺^{官報第三百四}拾五號ニ載ス集治監ニ入ルヘキ囚徒ニ對スル費用ハ總テ地方費中へ混一ニ仕拂置キ月々其現人員ニ應シ一四一日金貳拾錢ノ割合ヲ以テ國庫ヨリ支出シタル金額ヲ總支出額^{支出高}一ノ二應シ各費目ニ割合地方費ノ方へ戻入候テ可然候又ハ云々ト云フノ項ニ對シ前段伺ノ通ト御指令有之右各費目トハ監獄費中未決囚諸費ヲ除キ俸給雜給應費已決囚諸費及ヒ監獄建築修繕費中未決監ニ係ル部分ヲ除キ已決監建築修繕費ノ總金額ニ割合地方費ノ方へ戻入候儀ト相心得可然候
- 第二條 本年七月三日岐阜縣伺^{官報第三百八}拾四號ニ載ス第一條末文地方税豫算精算共警察費國庫下渡金ニ準シテ調理シ可然候ト云フノ項ニ對シ地方税豫算議案及精算報告書ハ國庫金ヲ扣除整理スヘシト御指令有之右豫算議案ヲ調理スルニ當リ各費目^{前條ノ各費目}ニ就キ扣除スヘキ國庫支出ノ員額ハ在府縣獄囚徒費ノ豫算高ヲ以テ各費目上ノ豫算總額ニ應シ算出致候儀ト相心得可然候
指令 十八年四月一日

●控訴ニ係ル囚徒工錢收入方之儀ニ付千葉縣ヨリ内務省へ伺十八年五月 日
本年雷貳號公布ニ依リ輕罪ニ係ル被告人控訴ヲ爲セシトキ拘禁中ノ諸費及我決後已決囚ニ屬スル諸費ハ最前裁判會渡シアリタル地方ノ地方稅ヲ以テ支辨シ其費用交付方ハ客年御省乙第貳拾九號達ニ準據シ可取付旨本年(四月)甲第拾三號ヲ以テ御達ノ趣モ有之就テハ該囚工錢ハ在府縣獄囚徒ト等シク就業地方ノ地方稅へ收入候儀ニ可有之儀

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

指令 十八年五月三十日
書面伺之通

● 輕罪控訴裁判被告人ニ係ル拘禁中ノ諸費精算仕上方ノ儀ニ付愛媛縣ヨリ内務省へ伺 十八年五月十四日

御省本年甲第拾三號ヲ以テ輕罪ニ係ル控訴云々其控訴ヲ爲シタル被告人ニ係ル拘禁中ノ諸費ハ總テ最前裁判官被アリタル地方ノ地方稅ヲ以テ支辨ノ儀御達相成候處右甲地方則支拂ヲ爲スヘキ地方監獄費ニ於テハ乙地方監獄署在監中ノ日數ニ依リ一日金貳拾錢ヲ以テ支辨其精算ハ未決費スルモノハ已決費判科目外別途仕上クニ執計可然哉且又右金員ヲ受入タル乙地監獄費ニ於テハ國庫下附金同様未決費判科目ハ已決費判科目ニ別當展シ入レニ執計可然哉

指令 十八年六月四日
書面伺段ハ伺ノ通後段ハ雜收入へ編入候儀ト可心得事

● 岐阜縣ヨリ輕罪控訴被告人押送費用ノ儀ニ付内務省へ伺 十八年六月二十三日
輕罪ニ係ル控訴ノ儀ニ付本年甲第貳號ヲ以テ公布相成候ニ付テハ控訴裁判所管轄區域内各地方ヨリ控訴ヲナシタル被告人ニ係ル拘禁中諸費支出ノ儀ハ本年御省甲第拾三號ヲ以テ御達相成候處右押送途中費用ノ儀ハ沿道府縣ノ警察費ヲ以テ支辨シ可然哉此段相伺候也

指令 十八年七月十日
書面伺ノ通

● 愛媛縣ヨリ軍律ニ依リ處斷アリシ在監人費用ノ儀ニ付内務省へ伺 十八年七月八日
軍律ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル被告人在監中ノ費用ノ儀ハ明治十六年九月十九日附及ヒ同十七年八月八日附ヲ以テ御達ノ趣モ有之候得共聊カ疑岐ニ涉リ候場合有之候ニ付左ニ相伺候

一 陸軍治罪法第十八條初項末項ノ末文ニ依リ地方裁判所ニ於テ軍律ニ照シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル被告人在監中ノ費用ハ陸軍省ノ支辨ニ屬スルヤ又ハ地方稅ノ支辨ニ屬スルヤ
一 前項若シ陸軍省ノ支辨ニ屬スル者トスルハ未決在監中ノ費用モ悉ク陸軍省ノ支辨ニ屬スルヤ亦ハ刑名宣告ノ日ヨリ陸軍省ノ支辨トスルヤ
一 陸軍治罪法第二十一條末文ニ依リ軍人ニアラサル者陸軍法衙ニ於テ普通刑法ニ照シ刑ノ自擔ヲ受ケシキ在監中ノ費用ハ陸軍省ノ支辨ニ屬スルヤ亦ハ地方稅ノ支辨トスルヤ
指令 十八年八月一日
第二項 普通裁判所ノ審判ニ係ル該囚在監中ノ費用ハ總テ地方稅ヨリ辨スヘシ
第三項 本年舊拾貳號公布以後普通裁判所ニ於テ處斷シタルモノハ地方稅ヨリ支辨スヘシ
但同種ノ囚囚ト雖モ本文公布以前ニ在テ軍法會議ニ於テ處斷シ該衙ヨリ送附シタル囚徒ニ係ル費用ハ陸軍省ノ支辨トス

● 在府縣獄囚徒費ノ件ニ付靜岡縣ヨリ内務省へ伺 十九年五月五日

移轉費ノ儀ハ集治監入囚徒運送ノ都度管下沿道各警察署ニ於テ該署諸費ノ内ヲ以テ囚人膳料人カ車賃橋賃頭價等一時操營費其實費請求ニ依リ支出取計來リ候處十九年度以降雖モ右ニ取計可然哉若シ然ラサレハ他府縣ヨリ護送ノ囚人通行ニ際シ差支儀ニ付該費ニ限リ豫メ沿道警察署へ概算ノ支出取計可然哉尤後段ノ如ク概算支出取計候ハ正當受取證書ハ月々出報書書へ添付致候儀ニ付一周年度決算ノ節ニ至リ取束手進達シ可然哉
指令 十九年五月十五日

檢院何ノ通取計正當受取人ノ領收證書報告書ト同時ニ送致シ雖モハ支拂人ノ證書差出シ置其正當證書ハ翌月分ト俱ニ送致スヘシ

● 在府縣獄囚徒費支辨方ノ件ニ付靜岡縣ヨリ内務省へ伺 十九年六月二十八日

一 徒刑ノ宣告ヲ受ケタル者對其確定ノ上假留監へ押送ノ後餘額發覺ニ付原裁判所ヨリ厚尺シ候節警察傳遞ヲ以テ押

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

送途中費用ハ沿道警察費ヨリ支辨シ可然哉尤餘罪アルト雖モ原刑集治監ニ入ルヘキ囚徒ニ係ル費用ナルヲ以沿道
國庫監獄費ヨリ支辨可致儀ニ有之候哉

一 甲地重罪裁判所ニ於テ徒刑ニ處セラレタル者アリ然ルニ餘罪有之ニ付裁判確定ノ上ハ乙地重罪裁判所ヘ可引渡旨
甲地裁判所檢事ヨリ照會ニ依リ送附候旨ハ該囚ニ係ル費用最前刑名宣告ノ日ヨリ乙地ヘ發遣ノ日迄甲地國庫監獄
費ヨリ(日額金二十錢ツ)支辨シ而シテ押送途中費用ハ沿道警察費ヲ以テ支助乙地ヘ到達ノ上ハ同日ヨリ該地國
庫監獄費ヨリ支辨可致儀ト心得可然哉

一 徒刑ノ宣告ヲ受ケタル者裁判確定ノ上餘罪發覺シ爲メニ未決監ヘ移ル者アリ右ハ未決在監中ト雖モ集治監ニ
入ルヘキ囚徒ニ付該囚ニ係ル費用ハ日額金二十錢ツ、國庫監獄費ヨリ支辨シ可然哉

一 徒刑ノ宣告ヲ受ケタル者裁判不服ニテ本人上告ノ者在監中費用計算方ノ儀ハ裁判確定ノ上刑期ニ算入スヘキ日ヨ
リ國庫支辨ニ屬スルハ勿論ニ有之候得共右上告中會計年度ヘ涉リ候節ハ前年度經費決算方如何取計可然哉

指令 十九年六月二十八日

第一項 前段何ノ通

第二項第三項 何ノ通

第四項 年度決算ノ場合ニ於テハ地方稅監獄費ヲ以テ假拂ノ儘結算ヲ了シ他日費所確定國庫支辨ニ歸スルハ該
費ヨリ支出シ地方稅雜收入ニ編入スヘシ

但國庫出納閉鎖後既往年度ニ屬スル賦額ノ仕拂ヲ要スル節ハ其金額事由ヲ詳悉シテ其時々何出ヘシ

●米商會所仲買人へ地方稅賦課ノ件ニ付愛媛縣ヨリ內務省ヘ伺十八年十二月四日

(電報) 十八年十二月十四官報

三十八號公布ニテ十六年六十五號公布ハ國セラレタルニ付米商仲買費對料アレトモ地方稅ヲ課シ得ヘキヤ直ク御指
揮ヲ請フ

指令 十八年十二月十一日(電報)

本月四日米商仲買人地方稅賦課ノ件何ノ通

第二百二十七章 會計規則

朕會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年四月三十日

內閣總理大臣伯爵黑田清隆
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第六十號

會計規則

第一章 會計年度所屬區分歲入歲出金出納

第一條 歲入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル

第一 納期ノ一定シタル收入ハ其納期末日ノ屬スル年度

第二 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發スルモノハ納額告知書ヲ發シタル日ノ屬ス
ル年度

第三 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二條 歲出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ據ル

第一 公債ノ元利賞勳年金恩給諸祿ノ類ハ仕拂期日ノ屬スル年度

第二 諸拂戻缺損補填ハ其拂戻又ハ補填ノ決定ヲ達シタル日ノ屬スル年度

第三 俸給手数料旅費ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

第四 廳中雜費土木建築費其他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ属スル年
度但土木建築費ノ如キ契約ノ數年ニ涉ルコトヲ得ヘキモノハ契約ニ據リ定メ
タル仕拂期日ヲ以テ區分スヘシ

第五 前各項ニ掲クル類別ニ入ラサル費用ハ總テ仕拂命令ヲ發シタル日ヲ以テ年度
ノ所屬ヲ定ムヘシ

第三條 毎年度所屬歳入歳出金ヲ金庫ニ於テ出納スルハ翌年度八月三十一日限リトス
第二章 豫算

第一款 總豫算

第四條 大藏大臣ハ歳入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歳入歳出總豫算
ヲ調製スヘシ

總豫算ノ首ニハ歳計全體ニ關スル説明ヲ付スヘシ

第五條 歳入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歳入ノ性質ヲ明示ス
ヘシ

第六條 歳出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニス
ヘシ

第七條 歳入歳出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第二款 豫定經費要求書

第八條 各省大臣ハ毎年度其所管經費ノ需用高ヲ算定シ前年度ノ定額ト比較ヲ立テ豫

定經費要求書ヲ調製シ前年度六月三十日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第九條 各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項中所要ノ金額ヲ
各目ニ區分シ尙ホ必要ノ場合ニ於テハ番號ヲ以テ之ヲ細分シ又經費所要ノ理由計
目ノ區分ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

第十條 各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル説明及各款各項ノ説明
ヲ付スヘシ

第三款 仕拂豫算

第十一條 各省大臣ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ仕拂命令官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ
仕拂豫算ヲ調製シ大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシ

第十二條 仕拂豫算ヲ更定セントスルトキハ其更定ヲ要スル金額理由ヲ詳具スル所ノ
計算書ヲ作り大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシ

第十三條 大藏大臣仕拂豫算若クハ其更定計算書ヲ檢視シタルトキハ之ヲ會計検査院
ニ通知スヘシ

第四款 歳入歳出現計書

第十四條 會計法第六條ニ掲クル歳入歳出現計書ハ大藏省ニ備ヘタル主計簿ニ據リ大
藏大臣之ヲ調製スヘシ

第十二類 租税及貨紙幣公債區町村費

第十五條 歳入歳出現計書ニハ總豫算ニ定メタル區分ニ從ヒ其年三月三十一日ヲ以テ
終リタル年度ニ属スル歳入歳出ノ八月三十一日ニ於ル左ノ事項ノ現計ヲ示スヘシ
歳入ノ部

歳入豫算額

調定濟歳入額

收入濟歳入額

收入未濟歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令濟歳出額

翌年度繰越額

第五款 豫備金支出

第十六條 豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十七條 豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ他ノ
費途ニ流用スルコトヲ得ス

第十八條 第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作
リ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條 大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘ
シ

第二十一條 各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ
作り之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十二條 大藏大臣ハ前條ノ計算書ヲ調査シ其意見ヲ付シテ勅裁ヲ請フヘシ

第二十三條 第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣其事故金額ヲ會計検査院
ニ通知シ及官報ニ掲載スヘシ

第二十四條 豫備金ヲ以テ補充支辨シタル金額ハ各省大臣其計算書ヲ作り各費途毎ニ
説明ヲ付シ年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ豫備金支出ヲ第一豫備金支出ト第二豫備金支出トニ大別シ其總計算書ヲ
作り之ニ説明ヲ付シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ
提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第三章 收入

第二十五條 收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ納入ニ
交付スヘシ

第二十六條 現金ヲ領收スル收入官吏ハ大藏大臣定ムル所ノ規則ニ從ヒ毎月一回若ク
ハ數回其領收シタル金額ヲ金庫ニ拂込ムヘシ但外國及金庫ノ設ナキ運輸通信ノ不便

ナル内國ノ地方ニ在ル收入官吏ノ領收シタル金額ハ該官吏之ヲ保管シ大藏大臣ノ指
定ニ從ヒ金庫ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十七條 金庫ハ收入官吏又ハ納人ヨリ租稅其他ノ收入金ヲ領収スルトキハ收入ノ
目的ヲ記入シタル別符付ノ領收證ヲ拂込人又ハ納人ニ交付スヘシ

第二十八條 第二十六條ノ拂込ニ對シ金庫ヨリ交付シタル領收證ハ收入官吏ヨリ歳入
ノ徴収ヲ監督スル所ノ官吏ニ送付シ別符ヲ切離セシメ其檢印ヲ受クヘシ

第二十九條 納人ヨリ租稅其他ノ收入金ヲ直接ニ金庫ニ納付シタルトキハ收入官吏ハ
金庫ヨリ納人ニ交付シタル領收證ニ檢印シ別符ヲ切離シ領收證ヲ納人ニ返付スヘシ

第三十條 收入官吏ハ其收入ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ毎月收入報告書ヲ調製シ參
照書類ヲ添ヘ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ其事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十一條 歳入ノ事務管理廳ハ收入官吏ヨリ送付シタル收入報告書ニ據リ毎月收入
總報告書ヲ作り之ニ必要ナル參照書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章 支出

第一款 仕拂命令

第三十二條 仕拂命令官ハ總テ仕拂命令ヲ發スル前其經費ハ正當ニシテ必要ナルヤテ
調査シ該經費ノ金額ヲ算定シ又該經費ハ仕拂豫算額ニ超過スルトキヤ支出科目
及所屬年度ヲ誤ルコトナキヤ該經費ハ豫算ヲ以テ定メラレタル目的ニ違フコトナキ
ヤヲ調査スヘシ

第三十三條

仕拂命令ニハ債主若クハ其代理人ノ氏名、仕拂フヘキ金額、支出科目、年
度、番號、支出ノ目的ヲ記載スヘシ但係給諸給恩給賞勳年金諸祿及定額拂切經費ノ仕
拂ヲ爲ストキ支出科目ノ同一ナルモノハ數人ノ債主ニ對シ集合仕拂命令ヲ發シ別ニ
各債主ノ金額氏名表ヲ添ユルコトヲ得

現金前渡ノ仕拂命令ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏ノ資格、氏名(銀行ナレハ其名稱)前渡ヲ
爲スヘキ金額、支出科目、年度及番號ヲ記載スヘシ

第三十四條

仕拂命令ハ一項毎ニ之ヲ發スヘシ

第三十五條

仕拂命令ニハ支出ノ證據ニ必要ナル書類ヲ添ヘ仕拂命令官ヨリ之ヲ會計
主務官ニ交付スヘシ

第三十六條

會計主務官其仕拂命令ヲ正當ト認ムルトキハ之ニ「調定濟」ト記入シ署名
捺印シテ之ヲ受取人ニ交付スヘシ但數人ノ債主ニ對スル集合仕拂命令及仕拂命令ヲ
當テタル金庫所在地ノ外ニ於テ仕拂ヲ要スルモノハ直ニ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シ受
取人ニ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十七條

會計主務官前條ニ據リ仕拂命令ヲ不當ト認ムルトキハ其事由ヲ本屬大臣
ニ申立ヘシ

本屬大臣會計主務官ノ申立ニ拘ハラス仕拂命令ヲ發スヘキコトヲ命スルトキハ會計
主務官ハ仕拂命令ニ「特命調定」ト記入シ署名捺印シテ之ヲ受取人ニ交付スヘシ但仕
拂命令ノ金額若シ仕拂豫算額ニ超過スルトキハ本屬大臣ノ特命ヲ受クト雖モ尙ホ大

藏大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第三十八條 會計主務官仕拂命令ヲ受取人ニ交付シタルトキハ同時ニ金庫ニ案内仕拂命令ヲ送付スヘシ但第三十六條但書ニ據リ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シタル場合ニ於テモ亦同シ

第三十九條 現金前渡ノ仕拂命令ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ發スヘシ

第一 當時ノ費用ニ係ルモノハ每一箇月分ノ費額ヲ豫定シテ仕拂命令ヲ發スヘシ但在外各廳ノ經費外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費其他仕拂場所ノ一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ由リ二箇月以上六箇月分マテ合セテ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第二 隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シテ事務上差支ナキ限りハ成ルヘク分割シテ仕拂命令ヲ發スヘシ

第三 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費ハ工事ノ大小ニ由リ其所要ヲ量リ三千元以内ニ於テ仕拂命令ヲ發スヘシ

第四十條 會計法第十五條第八ニ據リ現金前渡ヲ爲シタルトキハ左ノ場合ヲ除クノ外更ニ同一ノ主任官吏ニ現金前渡ヲ爲スタメ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

第一 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三分ノ二以上ノ仕拂濟證明アリタルトキ但此場合ニ於テハ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト前ニ發シタル仕拂命令ノ仕拂濟證明未濟ノ金額ト合シテ三千元ヲ超ルコトヲ得ス

第二 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三千元未満ニシテ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト合シテ三千元ヲ超サルトキ

第四十一條 現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣各省大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第四十二條 會計法第十五條ニ據リ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金仕拂ヲ爲サシムル爲メニ發スル現金前渡ノ仕拂命令ハ國債元利金仕拂ノ場合ニ限ル

第四十三條 仕拂命令ハ所屬年度經過後滿五箇年内ハ仕拂ノ請求アル毎ニ金庫ニ於テ仕拂フモノトス

第四十四條 各年度ニ属スル經費ヲ精算シテ仕拂命令ヲ發スルハ翌年度六月三十日限リトス

第二款 仕拂命令ノ執行

第四十五條 金庫ニ於テハ休日ヲ除クノ外毎日其開庫時間内ハ何時ニテモ仕拂命令持參人ニ仕拂命令ト引替ニテ現金ヲ交付スヘシ

第四十六條 左ノ場合ニ於テハ事由ヲ仕拂命令持參人ニ告ケ金庫ニ於テ仕拂命令ノ執行ヲ拒ムヘシ

第一 案内仕拂命令ノ到着セサルトキ

第二 仕拂命令ト案内仕拂命令ト符合セサルトキ

第三 仕拂命令汚損シ案内仕拂命令ト照合シ難キトキ

第四十七條 各年度ノ仕拂命令ニシテ翌年度八月三十一日マテニ仕拂ノ請求ナキ仕拂命令済金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十條ノ歲計剩餘ニ組入レス國庫ニ於テ繰越整理スヘシ

第四十八條 前條ノ資金中年度經過後滿五箇年内ニ仕拂ノ請求ナクシテ會計法第十八條ノ期滿免除ニ據リ政府力負債ノ義務ヲ免レタルモノアルカ爲メ不用トナリタルモノハ其負債ノ期滿免除トナリタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第三款 計算報告

第四十九條 會計主務官ハ其支出ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ毎月支出報告書ヲ編製シ参照書類ヲ添ヘ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ各省中央會計主務官ニ送付スヘシ

第五十條 各省中央會計主務官ハ各會計主務官ヨリ送付シタル支出報告書ニ據リ毎月支出總報告書ヲ作り之ニ必要ナル参照書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五章 決算

第一款 總決算

第五十一條 歳入歳出總決算ハ總豫算ト同一ノ區分ニ據リ大藏大臣之ヲ編製スヘシ

第二款 各省決算報告書

第五十二條 各省大臣ハ翌年度十二月三十一日マテニ各省豫定經費要求書ト同一ノ區分ニ據リ其省所管ニ屬スル經費決算報告書ヲ編製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三款 國債計算書

第五十三條 國債計算書ハ大藏大臣之ヲ編製スヘシ

第五十四條 國債計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 當該年度末日ニ於ル國債ノ種類及現高ヲ示ス所ノ計算

第二 當該年度ニ於テ償還シ及仕拂ヒタル各種國債ノ元高及利息ノ計算

第三 最近五箇年度間ニ於ル各種國債増減ノ形況ヲ示ス所ノ計算

第四款 特別會計計算書

第五十五條 特別會計計算書ハ會計法第三十條ニ據リ特別ノ會計ヲ立ルコトヲ許サレタル事務ヲ管理スル所ノ各省大臣之ヲ編製シ毎年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五十六條 特別會計計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 收入計算

第二 支出計算

第三 最近五箇年度間資金ノ増減

第四 最近五箇年度間損益ノ比較

第六章 定額繰越、過年度支出、定額戻入

第一款 定額繰越

第五十七條 各省大臣會計法第二十一條及第二十二條ニ據リ定額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ年度經過後一箇月以内ニ繰越計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第十二類 租税及貨紙幣公債區町村費

本條繰越計算書ハ歳出豫算ノ區分ニ從ヒ關製シ左ノ事項ヲ示スヘシ

- 第一 繰越ヲ要スル項ノ定額
- 第二 右定額ニ對シ年度内ニ仕拂命令濟トナリタル額
- 第三 右定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘキ額即チ翌年度ニ繰越ヲ要スル額
- 第四 右定額中全ク不用ニ歸シ決算ニ於テ取消スヘキ額
- 第五十八條 會計法第二十一條ニ據リ年度内ニ其經費ノ支出ヲ終ラサリシ金額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ其繰越サントスル金額ノ計算書ニ各事件毎ニ竣功遅延ノ事由ヲ示シ又請負ニテ爲サシムル工事若クハ製造ナレハ竣功遅延ノ事由ノ外ニ請負人職業住所氏名ヲ示シ契約書ノ寫ヲ添ユヘシ
- 第五十九條 大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二款 過年度支出

- 第六十條 各省大臣過年度ニ属スル經費ヲ支出セントスルトキハ其金額及其所属年度ノ豫算ニ定メタル區分、年度、支出ノ事由ヲ示シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ
- 大藏大臣前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ翌月十日以内ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ
- 第六十一條 前條ニ據リ大藏大臣ノ承認ヲ經タル經費ヲ仕拂フ爲メ各省大臣ハ其承認ヲ經タル年度ノ各省定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘシ
- 第六十二條 第六十條ニ據リ支出セントスル經費ノ金額ハ豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ

モノ、外其經費所屬年度ノ豫算ニ於テ該經費ノ属スル毎項定額中不用トナリタル金額ヲ超過スヘカラス

第三款 定額戻入

- 第六十三條 各省大臣會計法第二十三條但書ニ據リ定額ノ戻入ヲ爲サントスルトキハ定額戻入要求書ヲ作り大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシ
- 第六十四條 定額戻入要求書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ
 - 第一 戻入ルヘキ金額
 - 第二 金庫ニ於テ返納金ヲ領收シタル日付
 - 第三 前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル仕拂命令ノ金額、年度、科目、番號、日付
 - 第四 戻入ノ事由
- 第六十五條 各年度ニ属スル定額戻入ノ要求ヲ爲スハ翌年度六月三十日ヲ過クルコトヲ得ス
- 第六十六條 大藏大臣各省大臣ノ要求ニヨリ定額ノ戻入ヲ檢視シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第七章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第一款 總則

第六十七條 契約ニ據リ工事ノ既済部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完済前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ハントスルトキハ各省大臣ハ特ニ検査ノ官吏ヲ命シテ事實ヲ測定シ其調

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

書ヲ作ラシムヘシ

仕拂命令官ハ前項ノ調書ニ據ルニアラサレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

第六十八條 前條ノ仕拂ヲ爲サントスルトキハ工事ノ既濟又ハ物品ノ既納トナリタル部分ニ對スル代價ノ五分ノ四ヲ超ユヘカラス

第六十九條 工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ其工事又ハ物品ノ供給ニ二年以來從事スルコトヲ證明スヘシ

工專又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ現金又ハ公債證書ヲ以テ保證金ヲ納ムヘシ

第七十條 前條ノ保證金ハ左ノ制限ニ據リ各省大臣之ヲ定ムヘシ

第一 競争ニ加ハラントスル者ハ其事項ノ見積代金ノ百分ノ五以上

第二 契約ヲ結ハントスル者ハ其事項ノ代金ノ百分ノ十以上

第七十一條 競争ノ落札者請負ノ契約ヲ結ハサルトキハ其保證金ハ政府ノ所得トス

第二款 競争契約

第七十二條 競争ハ總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第七十三條 入札ノ方法ヲ以テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ契約セントスルトキハ其入札期日ヨリ少ナクモ十五日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ

第七十四條 前條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 競争入札ニ付スル事項

第二 契約書案ヲ示ス場所及其契約ノ取結ヲ擔任スル官吏ノ官氏名

第三 競争執行ノ場所日限及時刻

第四 入札ノ保證金額

第七十五條 各省大臣若クハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ其競争入札ニ付シタル工事又ハ物件ノ價格ヲ豫定シ其豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第七十六條 開札ハ公告ニ示シタル場所日限時刻ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ入札人又ハ其代理人若シ開札ノ場所ニ出席セサルトキハ其入札ハ無効トス

第七十七條 開札ノ上ニテ各人ノ入札中一モ第七十五條ニ據リ豫定シタル價格ノ制限ニ違セサルトキハ直ニ入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十八條 落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者數名アルトキハ同價ノ入札者ヲシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ

再度ノ入札ヲ爲スモ尙ホ同價ノ入札アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第七十九條 競争ノ落札者請負ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競争ヲ行フヘシ

第八十條 工事及物件ノ賣買貸借契約書ニハ其契約セントスル事項ノ細密ナル設計、仕譯、落成期限、受渡期限、保證金額、契約違背ノトキ保證金ニ對スル處分其他一切必要ナル條件ヲ掲クヘシ

第八十一條 契約ハ各省大臣若クハ特ニ其委任ヲ受ケタル官吏其契約書ニ署名捺印ス

ルニアラサレハ確定セサルモノトス

第三款 隨意契約

第八十二條 隨意契約書ハ第八十條及第八十一條ニ準據シ之ヲ作ルヘシ但一口五百圓

未満ノ隨意契約ノ場合ニ於テハ左ノ書類ノ一ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得

第一 設計仕譯書ノ末ニ請負人ノ署名捺印シタルモノ

第二 請負人ノ署名捺印セル承諾書

第三 商業上ノ習慣ニ從ヘル往復書

第八十三條 隨意契約ノ場合ニ於テハ各省大臣ノ見込ニヨリ請負人ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得

第八章 出納官吏

第一款 會計主務官、收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏

第八十四條 出納官吏ハ其責任ニ風スル會計ニ付自身ニ事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ其責任ヲ免ルコトヲ得ス但各省大臣ノ命令ヲ以テ特ニ其代理官ヲ定メタルトキ其代理官ノ所爲ニ付テハ本條ノ限ニアラス

第八十五條 各省大臣ノ命シタル出納官吏代理官ハ其代理シタル所爲ニ付會計法第二十六條ノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

第八十六條 出納官吏ハ各省大臣ニ隸屬シ大藏大臣ノ指揮監督ヲ受ケルヘシ

第八十七條 會計主務官トナルヘキ官吏ノ任命罷免ハ豫メ大藏大臣ノ同意ヲ要ス但陸海軍武官ニ係ル場合ハ本條ノ限ニアラス

第八十八條 各省大臣ハ所屬出納官吏ノ所爲ニ由リ政府ノ損失ヲ生シタリト認ムル場合ニ於テハ會計検査院ノ判決以前ト雖モ其出納官吏ニ向テ辨償ヲ命スルコトヲ得

第八十九條 前條ノ場合ニ於テ其辨償ヲ命セラレタル出納官吏負擔ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ作り證憑書類ヲ添ヘ本屬大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付シ其判決ヲ求ムルコトヲ得

各省大臣ハ前項ノ場合ト雖モ其命シタル損失金ノ辨償ヲ猶豫セス

會計検査院ニ於テ其出納官吏ニ向テ辨償ノ責ナシト判決シタルトキハ其既納ニ係ル辨償金ハ直ニ之ヲ還付ス

第九十條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏交替ノトキハ本屬大臣ヨリ特ニ命シタル検査員ノ立會ヲ以テ會計事務ノ引繼ヲ爲スヘシ

第九十一條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日若クハ該官吏轉免死亡停職ノトキ本屬大臣検査員ヲ命シテ之ヲ検査セシムヘシ但臨時ニ現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ検査ヲ要セス

大藏大臣又ハ各省大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時ニ検査員ヲ命シテ現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

第九十二條 前條ノ検査ヲ執行スルニ當リ主務ノ出納官吏事故ニ由リ自身検査ヲ受クル能ハサルトキハ其代理者若クハ特ニ本属大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

第九十三條 現金ヲ領収スル収入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査シタルトキハ其檢定書ニ通テ製シ検査員及主務ノ出納官吏若クハ立會人之ニ署名シ一通ハ該官吏若クハ立會人ニ交付シ一通ハ本属大臣ニ提出スヘシ

第九十四條 現金ヲ領収スル収入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ別ニ検査ノ方法アルニ拘ハラズ金櫃ノ検査ヲ執行スル場合ニ於テハ他ノ公金ヲ併セテ検査ヲ行フヘシ

第九十五條 會計主務官ハ毎年度經過後五箇月以内又収入官吏ハ毎年度經過後七箇月以内ニ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年度會計事務ノ計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ之ヲ其所属省又ハ歳入ノ事務管理廳ニ送付スヘシ

第九十六條 各省又ハ歳入ノ事務管理廳ノ部長若クハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ前條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九十七條 現金ヲ領収スル収入官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ毎年度經過後二箇月以内ニ歳入ノ事務管理廳ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

在外各廳ニ勤務スル現金ヲ領収スル収入官吏ノ前條計算書及證書類ハ毎年度經過後一箇月以内ニ其廳ヲ發シ之ヲ歳入ノ事務管理廳ニ送付シ其管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九十八條 現金前渡ヲ受タル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ各省大臣ノ定ムル所ニ據リ毎月一回若クハ數回經費仕拂ノ計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ仕拂命令官ニ送付シ仕拂命令官ハ其下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ但行軍費航海費ノ如キハ行軍若クハ航海ノ終リタルトキ本條ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第九十九條 出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ其在職期限經過後六十日以内ニ其在職期限間ニ執行シタル會計ノ計算書ヲ調製シ第九十五條第九十七條第九十八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第一百條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ各省大臣特ニ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ
出納官吏定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

本條ニ據リ調製シタル計算書ハ出納官吏ノ自身ニ調製シタルモノト見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第百一條 出納官吏ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス

第百二條 會計法第二十八條ニ據リ出納官吏ノ納ムヘキ身元保證金額ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定メ會計検査院ニ通知スヘシ

出納官吏相當ノ資産アル者二人以上ヲ以テ保證人ト爲ストキハ各省大臣前項ノ身元保證金ノ全部若クハ一部ヲ免除スルコトヲ得此場合ニ於テハ各省大臣ヨリ其保證人ノ住所氏名職業ヲ大藏大臣及會計検査院ニ通知スヘシ

第百三條 身元保證金ハ現金ヲ以テ納ムヘシ但公債證書若クハ土地ヲ以テ現金ニ代用スルコトヲ得

第百四條 身元保證ノ現金ハ大藏省預金局通常預金ノ利子ヲ付スヘシ

身元保證ニ供スル公債證書若クハ土地ハ出納官吏ヨリ大藏大臣ニ書入トシ其土地ハ出納官吏ノ私習ヲ以テ登記ヲ受クヘシ

第百五條 會計検査院ノ判決ニ依リ各省大臣出納官吏ノ損失金辨償ヲ命シタル場合ニ於テ其指定シタル期限内ニ出納官吏ヨリ損失金ノ辨償ヲ爲サ、ルトキハ其身元保證金ヲ以テ辨償ニ充ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ身元保證金ニ代用シタル公債證書若クハ土地ハ各省大臣ノ通知ニ依リ大藏大臣之ヲ公賣ニ付シ其代價ヨリ損失金額ヲ差引シ剩餘アルトキハ出納官吏ニ返付スヘシ

保證人ヲ以テ身元保證金ノ免除ヲ得タル官吏損失金ノ辨償ヲ命セラレタル場合ニ於テ辨償スルコト能ハサルトキハ其保證人ヲシテ損失金ヲ辨償セシムヘシ

第百六條 前條ノ場合ニ於テ出納官吏ノ身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充ルニ足ラサルトキハ其不足ハ出納官吏及其保證人ヨリ徴收スヘシ

第百七條 出納官吏數職ヲ兼務シタルカ爲メ各職毎ニ身元保證ヲ爲シタルトキト雖モ身元保證金ハ出納官吏ノ責任其何職ヲ行ヒタルヨリ生シタルヲ問ハス流用シテ辨償ニ充ツヘシ

第百八條 出納官吏ハ其身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充テラレタルカ爲メ其身元保證金額定規ノ高ヨリ減シタルトキハ各省大臣ノ指定シタル期限内ニ其減少高ヲ追納スヘシ期限ヲ過キ追納ヲ爲サ、ルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス

第百九條 出納官吏轉職其他ノ事故ニ由リ身元保證金ノ増納ヲ要スルトキハ其轉職若クハ事故ノ生シタル日ヨリ起算シ六箇月以内ニ増納スヘシ期限ヲ過キ増納ヲ爲サ、ルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス

身元保證金トシテ納メタル公債證書若クハ土地ノ價格改定ノ爲メ身元保證金額定規ノ高ヨリ減少シ之カ補填ヲ要スル場合ニ於テハ前項ノ例ニ據ル

第百十條 出納官吏ノ身元保證金ハ其解職後會計検査院ニ於テ其官吏ノ執行シタル會計事務ニ付責任解除ヲ與ヘタル後ニ非サレハ之ヲ還付セス

第二款 金庫出納役

第百一十一條 會計法第三十一條ニ據リ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命シタル場合ニ於テハ日本銀行總裁ハ金庫出納役トシテ金庫ノ出納ヲ掌ルヘシ
金庫出納役ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年度經過後四箇月以内ニ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ大藏大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九章 帳簿

第百一十二條 大藏省ハ日記簿原簿補助簿ヲ備ヘ國庫ノ計算ニ入ルヘキ一切現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第百一十三條 大藏省ハ歳入歳出ノ主計簿ヲ備ヘ總テ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額、歳出ノ豫算額 仕拂命令濟額ヲ登記スヘシ

第百一十四條 收入官吏ハ收入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ調定濟額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第百一十五條 歳入ノ事務管理廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第百一十六條 會計主務官ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ科目ヲ區分シ仕拂豫算額、仕拂命令調定濟額ヲ登記スヘシ

第百一十七條 各省中央會計主務官ハ歳出簿ヲ備ヘ歳出ノ科目ヲ區分シ歳出豫算額仕拂命令調定濟額ヲ登記スヘシ

第百一十八條 現金ヲ領收スル收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏及金庫出納役ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第百一十九條 各年度經過後八箇月ノ末日ニ於テ大藏大臣ハ會計検査官立會ノ上ニテ大藏省ニ備ヘタル主計簿ヲ締切ルヘシ

第十章 雜則

第百二十條 本規則ニ據リ會計主務官、收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏及金庫出納役ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第百二十一條 前條ノ外本規則ニ掲クル諸計算書仕拂命令領收證ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第百二十二條 帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第百二十三條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス
本規則ト牴觸スル命令ハ本規則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス

○會計検査院法

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計検査院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年五月九日

内閣總理大臣伯耆黒田清隆

法律第十五號

會計検査院法

第一章 組織

第一條 會計検査院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有ス

第二條 會計検査院ハ院長一員部長三員検査官十二員ヲ置キ之ヲ會計検査官トシ別ニ書記官二員検査官補二十四員及属若干員ヲ置ク

第三條 院長ハ勅任トシ部長ハ勅任又ハ奏任トシ検査官書記官及検査官補ハ奏任トシ属ハ判任トス

第四條 院長ハ院務ヲ總理シ部長ハ部務ヲ掌理ス

院長事故アルトキハ上席ノ部長ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第五條 會計検査院ニ三部ヲ設ケ各部部长一員検査官四員ヲ以テ検査ノ事務ヲ分掌ス

第六條 會計検査官ハ勅令ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

會計検査官ハ刑事裁判若ハ懲戒裁判ニ依ルニアラザレハ其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラル、コトナシ

會計検査官ニ關ル懲戒ノ條規ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條 父子兄弟ハ同時ニ會計検査官トナルコトヲ得ス

第八條 會計検査官ハ他ノ官職ヲ兼テ及帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ得ス

第九條 會計検査院ノ議事ハ總會議又ハ部會議ヲ以テ決ス總會議ハ院長ヲ以テ議長トシ部會議ハ部長ヲ以テ議長トス

第十條 左ノ場合ニ於テハ總會議ヲ以テ議決ス

一 第十五條ニ依リ上奏ヲ爲シ又ハ天皇ノ下問ニ奉答スルトキ

二 第十四條ニ依リ報告書ヲ確定スルトキ

三 第十七條ニ依リ意見ヲ陳述スルトキ

四 検査事務ノ規程計算證明ノ様式及提出ノ期限ヲ定メ又ハ之ヲ改正スルトキ

五 其ノ他院長ニ於テ總會議ニ付スルノ必要アリト認メタルトキ

第十一條 計算検査ノ判決ハ凡テ會議ニ於テス其ノ總會議ニ於テスルト部會議ニ於テスルトハ會計検査院長ノ定ムル所ニ依ル

第二章 職權

第十二條 會計検査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關ル計算ヲ検査確定シテ會計ヲ監督ス

第十三條 會計検査院ノ検査ヲ要スルモノ左ノ如シ

一 總決算

二 各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算

三 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算

四 法律勅令ニ依リ特ニ會計検査院ノ検査ニ属セラレタル決算

第十四條 會計検査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ検査確定スルト同時ニ左ノ諸項ニ付報告書ヲ作ルヘシ

一 總決算及各省決算報告書ノ金額ト各出納官吏ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ

第十二類 租税及貨紙幣公債區町村費

二 歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有沽賣讓與及利用ハ各々其ノ豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ遵フコトナキヤ否ヤ

三 豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ

第十五條 會計検査院ハ各年度ノ會計検査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十六條 會計検査院ハ各官廳中一部ニ属スル計算ノ検査及責任解除ヲ其ノ應ニ委託スルコトヲ得但シ其ノ検査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ會計検査院ニ報告セシムヘシ

第十七條 會計検査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セメシ之ヲ検査ヲ行フコトアルヘシ

第十八條 會計検査院ハ計算書及計算證明ノ様式並ニ其ノ提出及推問ニ對スル答辨ノ期限ヲ定ム

第十九條 會計検査院ハ各官廳ヲシテ検査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及主任官吏ノ辨明書ヲ求ムルコトヲ得

第二十條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算書及證憑書類ヲ検査シ正當ナリト判決シタルトキハ該官吏ニ對シ認可狀ヲ付シ其ノ責任ヲ解除ス若必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推

問シ辨明又ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラスト判決シタルトキハ本屬長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム

第二十一條 會計検査院ノ判決ニ據リ辨償ノ責ヲ負フ者ハ天皇ノ恩赦ニ由ルノ外本屬長官之ヲ減免スルコトヲ得ス

第二十二條 出納官吏計算書及證憑書類ヲ提出ヲ怠リ又ハ様式ヲ守ラサルトキハ會計検査院ハ本屬長官ニ移牒シテ懲戒處分ヲ求スルコトヲ得

第二十三條 政府ノ機密費ニ關ル計算ハ會計検査院ニ於テ検査ヲ行フ限ニ在ラス

第二十四條 會計検査院ハ認可狀ヲ付スルノ後ト雖其ノ付シタル日ヨリ五箇年以内ニ於テハ出納官吏ヨリ之ヲ請求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脱漏ニ重罰課アルコトヲ發見

但シ詐偽ノ證憑ヲ發見シタルトキハ五箇年後ト雖再審ヲ爲スコトヲ得

出納官吏ハ會計検査院再審ノ判決ニ對シテ再と審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第三章 附則

第二十五條 會計検査院ノ事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○會計検査官資格

朕會計検査官資格ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年六月五日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

勅令第八十號

會計検査院法第六條ニ依リ會計検査官ハ左ノ資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

第一 年齢滿三十歳以上ノ者

第二 五年以上検査官試補又ハ五年以上他ノ高等行政官タル者但試補勤務年數ハ之ヲ算ス

第十二類 租税及貨紙幣公債區町村費 三百四十三ノ五

十一号第十
以テ府縣
屬トノ類
地稅方稅
收

十七年大藏
省第四十一
號達ヲ以テ
國稅收納順
序及同附錄
ヲ定ム

第二百一十八章 租稅未納者處分方

明治十年十一月二十一日
第七十九號布告

租稅未納ノ者ハ從來意納金ヲ徵シ本人身代限ヲ以テ取立ル等ノ處分モ有之處自今右處
分ヲ廢止シ更ニ左ノ通區別相立處分致スヘシ此旨布告候事

第一條 徵收期限 毎期ヲ過テ尙國稅ヲ上納セサル時ハ之ヲ賦課シタル財產ヲ公賣シテ

徵收スヘシ若シ其財產他人へ賣與讓與シタル時ハ之ヲ買受讓受タル者ヨリ完納セシ

ムヘシ 十四年第十五號布告ヲ以テ(毎期ヲ
云)ノ下(後三十日)ノ四字ヲ削ル

但書入質入 地所質入ハ其
規則ニ從フ 財產ニ未納稅アル時其債主ニ於テ辨納スヘシト申立ル者ハ
其意ニ任セ公賣ヲ行ハス

第二條 營業稅又ハ製造稅ヲ上納セサル時ハ其營業ヲ停止ス其製造品アル者ハ之ヲ公

賣シ次ニ其器物ニ及ホスヘシ 十八年第二十號布告
ヲ以テ全條ヲ改正ス

酒類及醬油造石稅ハ前項ニ依テ處分シ仍ホ其製造用ノ諸建物ヲ公賣スルコトヲ得

但酒類醬油及其製造用諸器物建物ハ自他人所有ヲ問ハス其一部又ハ全部ヲ公賣シ
テ徵收ス

第三條 府縣稅民費モ此規則ニ準シテ處分スヘシ

但各別ニ財產ヲ指定メテ賦課セサル民費徵收ニ付テハ土地家屋ヲ除キ他ノ財產ニ
付先取特權アリトス

第四條 凡租稅不納ニ付財產ヲ公賣セントスル時ハ地方官ニ於テ處分シ先ツ公賣ニ關

スル入質ヲ引去リ而後國稅府縣稅民費ヲ徵シ剩餘アル時ハ之ヲ本人ニ還付ス若シ不
足アル時國稅府縣稅ハ官ノ損失ニ歸シ民費ハ該區ノ損失ニ歸ス

但該財產ニ付テ區戶長役所ノ帳簿ニ記載セル債主アル時ハ其殘金ヲ順次其債主ニ
給付ス

第五條 十一年第三十四號布告ヲ以テ追加シ
十四年第十五號布告ヲ以テ刪除ス

第六條 財產公賣ノ際買請望人無之節該財產ハ之ヲ官沒スヘシ 十一年第三十四號
布告ヲ以テ追加

附則

此布告ニ矛盾スル布告布達ハ廢止トス

○書入質入ノ財產ニ未納稅アリテ債主辨納セサル

トキ公賣方 明治十六年三月二十四日
第十六號府縣へ達

明治十年(十一月)第七拾九號布告第一條但書ノ場合ニ於テハ債主ニ其未納稅アル旨ヲ
通告シ債主之ヲ辨納セサル時ニ公賣ヲ行フヘキ儀ト可心得此旨相達候事

○公賣ニ付スル酒類及器械等本人ノ所有ニアラサ

ルトキ處分方 明治十六年八月四日
第三十三號府縣へ達

明治十年(十一月)第七拾九號布告第二條第二項ノ場合ニ於テ其酒類及器械本人ノ所有
ニ非サルトキハ所有主ニ通告シ處分スルハ本年(三月)第拾六號達ノ通可心得此旨相達
候事

○租稅未納者處分取扱方心得

明治十一年二月二十一日
大藏省乙第七號府縣へ達

租稅未納ノ者處分ノ價昨十年十一月第七拾九號公布相成候ニ付取扱方左ノ通可相心得此旨相達候事

一租稅不納ニ付一旦裁判所へ相廻候モノト雖モ第七拾九號公布到達ノ日ヲ界トシ未ダ身代限ノ處分ニ不取懸分ハ右公布ノ通地方官於テ處分スルモノトス

但意納金徵收中ノ分ハ本文公布到達ノ日ヨリ意納金免除并公布ノ次第未納人へ諭達シ尙三十日ヲ過テ不納ノ分ハ成規ノ通處分スルモノトス

一改租着手中ノ分ハ納期後三十日ヲ過キ尙不納ニ候共租額確定セサルノ故ヲ以テ其地所公賣ノ處分ニ及ハサルモノトス此際若シ本人他ノ負債ノタメニ身代限ノ處分ニ係ルルハ裁判官ニ照會シ假額中ト雖モ納期後三十日ヲ過レハ該地ヲ公賣シ其年石代相場ヲ以テ前年ノ租額ヲ徵收スルモノトス

但其年石代未決ナレハ前年ノ石代ヲ以テス

一他ノ負債上ヨリ身代限ノ處分相成ル際稅納ノ期限ニ到リ不納ノ分ハ其旨裁判官ニ照會シ其未納ニ係ル財產ハ成規ノ通公賣ノ處分ニ及ブモノトス

但裁判官ニ於テ已ニ財產變賣ニ及ヒシ場合ニ於テハ裁判官ニ照會シ其變賣代價ノ内ヨリ受取ルヘシ

一明治六年(一月十七日)第拾八號公布地所賣入書入規則ニ照シ賣入セシ地所ノ租金買取人ニ於テ未納スル片一應賣入人へ相達シ納稅セシメ不苦若シ之ヲ納メサルニ於テハ成規ノ通處分スヘシ

一前納ニ非ル營業稅等未タ納期ニ至ラサルモ他ノ負債上ヨリ身代限ノ處分相成片ハ裁判官ニ照會シ其製造品及其器物ヲ公賣シ其期節ノ税金徵收スルモノトス

一逃亡失踪ノモノノ納期後三十日ヲ過キ歸籍セス納稅セサル片ハ其遺族親戚財產保管人等へ相達シ成規ノ通處分スルモノトス

但懲役人及ヒ犯罪拘留又ハ繫獄中ノ者等總ヘテ本文同様處分スルモノトス

一營業稅等不納ノモノハ一旦營業停止其製造品及ヒ其器物ヲ公賣シ尙不足ヲ生スル者ハ官ノ損失ニ歸スルハ勿論ナレモ後來再營業ヲ願出ル片ハ最前官ノ損失ニ歸セシ金員ヲ更ニ上納セシ上ハ許可スルモノトス十七年第五十七號布達ヲ以テ但書ヲ廢止ス

一釀造稅ハ四月三十日限凡半方徵收ノ等ニ候處右期限前釀造石數檢査後他ノ事故ニテ裁判所於テ身代限ノ處分ニ相成候時ハ其節迄ノ酒相場平均ヲ以テ實際釀造着手ノ石高ニ應スル釀造稅收入決算スルモノトシ現存ノ酒類并器物等公賣徵稅方裁判官へ照會致スヘキトス

一公賣處分ハ納期後三十日ヲ過レハ其翌日ヨリ日數三十日以内ニ完了スヘキモノトス十三年乙第二十六號省通ヲ以テ追加ス

一若シ財產賣却代價不足ナル乎或ハ買請望人無之完納ノ場合ニ至テサル分ハ處分済ノ後日數十五日以内ニ勘定拂テ申稟スヘシ同上

○租稅不納又ハ徵稅シ能ハサル分稟申方

租稅ノ内官損及勘定除却ヲ要スル金額稟申方ノ儀明治十六年(八月)第五十五號ヲ以テ

十八年六月十三日
大藏省第三十四號府廳へ

相違置候處右ハ相廢シ更ニ取扱方左ノ通り相定ム

一 租税不納ノ者財産公賣處分ノ未官損トナリタル金額取束子左ノ書式ニ擬ヒ整理シ
税納期後四十五日以内ニ稟申スヘシ

一 荒地成檢査中又ハ非常ノ災害ニ罹リ備荒儲蓄金ヨリ補助或ハ貸與取調中ノ類ニシテ
納期ニ際シ徵收シ能ハサル分ハ其調査完了時日ノ見込相立該税納期以前延納ノ後去
稟申スヘシ

一 戸長云々十九年五月大藏省訓令
第九號ヲ以テ廢止ス

右相違候事 (書式略ス)

○内國稅未納追徵整理順序

十九年七月二十二日大藏省訓令第三十三號
北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

内國稅未納追徵整理順序左ノ通相定メ十六年(九月)第五十九號及十七年(七月)第五十
七號當省違ハ廢止ス

但甲乙號樣式ハ別ニ之ヲ送付ス(甲乙號樣式略ス)

内國稅未納追徵整理順序

第一條 北海道廳長官府縣知事ハ甲號樣式ノ如ク内國稅未納臺帳ヲ調製スヘシ

第二條 内國稅ノ内事故アリテ翌年度十一月三十日迄ニ徵收ヲ完了セサルモノハ其年
度ノ未納元額トシ臺帳ニ登記スヘシ但後日追徵シタルキハ其時々臺帳ヘ記載スヘシ

第三條 諸營業及船車稅不納者旅行又ハ失際シ其財産ノ所在不分明ニシテ公賣處分ヲ
爲シ能ハサルモノハ年々未納臺帳ヘ登記シ置キ而シテ他日本人歸籍又ハ所在發見シ

二十一年
大藏省訓令
第七號ヲ
凡例中
アルモ
正アルモ
ス

タルトキハ未納ニ係ル毎期ノ税金追徵スヘシ但未納ノ當初ヨリ滿三ヶ年ヲ經過シ尙
完結セサルモノハ其際更ニ處分方稟議スヘシ

第四條 北海道廳長官府縣知事ハ毎年度ノ末ニ於テ乙號書式ノ如ク既往年度未納殘高
仕譯書ヲ製シ四月三十日限り大藏省ヘ送付スヘシ

第五條 北海道廳長官府縣知事ハ臺帳ニ記載シタル納稅者他管ヘ移往送籍スルトキハ
不納ニ係ル書類ヲ取纏メ其管廳ヘ引繼チナシ同時ニ大藏省ニ報告スヘシ

○租税不納者處分規則ニ依リ處分ノ未官損ニ歸ス

ルモノ報告 二十一年五月十一日
大藏省訓令第二十六號

租税不納者處分規則ニ據リ處分ノ未官損ニ歸スルモノハ二十一年度以降稟申ニ及ハス
該金額ハ本年當省訓令第十二號徵稅額訂正表ヲ以テ減額報告ヲ爲スヘシ
但他ノ事故ノ訂正表ト區別シテ調製スヘシ

●同指令

●租税不納者公賣處分ノ儀ニ付岐阜縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年十一月八日

第五條 酒類造石稅不納ニ付一旦營業ヲ停止シ繼札ヲ返納セシメ其製造品及器物トモ公賣揭示中本人ヨリ其不納金
ヲ上納スルカ又ハ債主ヨリ納付シ公賣處分取消ノ儀願出開届ルトキハ返納セシメ繼札ハ再ヒ下渡シ營業停
止相續キ可然哉
第六條 營業稅又ハ遺石稅不納ニ付其製造品并諸器械等取調已ニ其一部(製造品)ヲ公賣徵收シ其他(製造器械)揭示
中本人又ハ債主ヨリ不納金完納スヘキ旨ヲ以テ公賣處分取消ヲ出願スルトキハ開届可然哉
右相違候至急御指撥被下度候也

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

指令 十六年十二月三日

官沒器械運搬等支出ノ儀熊本縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年十二月十二日

租税不納者處分ノ未定ニ歸シタル財産ノ内酒造器械ノ如キ巨大ノモノハ縣廳ニ於テ之ヲ藏置スヘキ適用ノ倉庫無
之ヲ以不納者本人ノ倉庫又ハ近傍明瞭等ヲ借請取置時宜見計入札拂取來候處右運搬費及藏置費番人給料等ハ本廳
經費ヨリ支消スヘキ哉又ハ國稅徵收費額ノ内ヲ以支辨スヘキ哉決兼候條何分ノ御指令相成度候也
指令 十六年十二月廿五日何之趣前段之通り可相心得事

官沒物品其犯則者沒票之儀ニ付山形縣ヨリ司法省ヘ伺十六年十二月廿七日

國稅ヲ納ムル營業者稅則違犯ニ係リ其物品ヲ官ヘ沒收シ給シテ公賣之場合ニ至リシハ犯則主ト雖モ既ニ處刑済ノ上
ハ沒收スルモ差支無之哉

指令 何之趣 十七年一月廿二日

税金不納者取扱方ノ儀ニ付愛媛縣ヨリ大藏省ヘ伺十七年二月一日

第一條 租税不納者財産公賣處分ノ儀ハ納期翌日ヨリ三十日以内ニ完了スヘキ旨ニ付既ニ公賣處分決定シタル後稅
金完納スルモ公賣處分取消ノ限リニ無之ハ勿論ニ候得共公賣金ニテ稅額ニ不足ヲ生シタルモノ右期日以内ニ於テ
其不足金ヲ完納スルトキハ最前引揚タル儘札ヲ返付シ營業繼續爲可然哉

第二條 同上無財産ノモノハ儘札引揚ケ營業停止シ稅金官振拂ノ儀ヲ申渡スル迄ニテ不納者ニ對シ別段處分ノ手
數ハ無之條得共納期翌日ヨリ三十日迄ハ處分中ノモノト見做シ右期日中ニ於テ稅金完納スルトキハ前條ト同シク
營業繼續爲可然哉

指令 十七年三月十四日

第一條 公賣處分決定後ハ假令處分期限内其欠額ヲ追納スルト雖モ營業繼續セシムル限リニアラス

第二條 前條ニテ了解スヘシ

納稅代理人不納ノ節處分方ニ付福島縣ヨリ大藏内務兩省ヘ伺 十八年六月廿六日

戶長役場所内ニ居住セスシテ該町村ニ土地ヲ有シ地租地方稅等納稅代理人ヲ置キタル者其ノ代理人志納スルトキ
ハ本人ニ通知セ直ニ賦課ノ財産ヲ公賣シ若カラヌヤ
指令(電報) 何ノ通 十八年七月九日

代理人決定
ノ事項

地租徵收及不納處分方ノ件ニ付神奈川縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年十二月七日

一 蓋ニ一箇ノ地所規則ヲ犯シ買入者入ノ二重ニ公證ヲ與ヘタルモノアリ右公證ノ効力如何ハ裁判官ノ判定ニ任スヘ
キハ勿論ナリト雖トモ之カ爲メ該地租徵收ヲ猶豫スヘキ限リニ無之ト相考候得共密年七月千葉縣ヨリ不納者財産
取調ニ際シ二重買入ヲ發見セルトキ處分方何ニ對シ御指令ノ趣ニ據レハ裁判決定ヲ俟ツヘキモノト如シト雖モ本
件ノ如キ其一方ハ實地ナルカ故ニ該裁判決定ト買入者及ヒ他ノ債主ヘ通告ノ上公賣處分ヲ執行シ可然哉
ニ納租ノ儀ヲ相違シ若シ不納トキハ其地所ノ所有者及ヒ他ノ債主ヘ通告ノ上公賣處分ヲ執行シ可然哉
一 又二重買入者入地ニ地租ノ不納アルトキ前項千葉縣ヘ御指令ノ如ク裁判決定マテ不納處分ヲ爲サルトキハ其
所有者ハ地租不納ナルモ依然該地所ヲ使用シ得ルモ差支無之哉
指令 十九年十二月二十五日

租税不納者無届不在中ノ者公賣處分ノ件ニ付青森縣ヨリ大藏省ヘ伺

二十年二月十七日(同三月八日官報)

諸稅不納者公賣處分ノ爲メ財産取調ニ際シ無届ニテ一家不在且ツ門戶ヲ鎖シ數日間歸納セズ之ニ立會セシムヘキ親
戚及財産保管人等無之場合ニ於テハ隣街若シクハ戶長ヲ立會セシメ其門戶ノ鎖鑰ヲ解キ成規ノ物品ヲ取調公賣スル
モ不苦哉

指令 二十年三月四日

何ノ通但シ戶長ヲ立會シムヘキ儀ト心得ヘシ

地方稅戶數割不納處分ノ件ニ付鹿兒島縣ヨリ内務大藏兩省ヘ伺 二十年三月

(同四月十三日官報)

租税不納ノ爲メ地所建物船舶ノ公賣處分ニ着手スルトキ又ハ其公賣處分ヲ取消シタルトキハ登記所ヘ通報スヘキ旨
本年一月訓令相成然ルニ地方稅戶數割不納ノ爲メ疊建具等ヲ公賣スルニ際シ右疊建具ハ建物ニ附帶登記簿ヘ記入ノ
モノト雖モ登記所ヘ通報セシムルニ及ハサルヤ尤公賣ノ際不納者ニ於テ債主アリト申立ルトキハ該債主ヘ報納ノ儀
通告セシムヘキヤ
指令 二十年四月四日

戶數割不納處分ノ件建物ニ附帶シ登記簿ニ記入シアルモノハ登記所ヘ通報スヘシ債主ヘ通告ノ儀ハ申出ノ通

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

●租税不納財産公賣ノ件ニ付埼玉縣ヨリ大藏省へ伺

地租不納ニ據リ賦課ノ財産公賣處分ヲ行フニ當リ債主ノ有無取調方所轄登記所へ照會候處該地所ハ戸長役場ヨリ引繼タル公證帳簿ニ抵當ノ公證ハアルモ年月日及債主ノ住所姓名等記載無之旨回答アリ因テ地券記名者取札候モ當時ノ債主ハ既ニ死亡現時遺族者ハ債主ノ有無判明スルヲ得サルモノアリ此場合ニ於テハ明治十六年太政官第十六號御達ノ旨趣ニ據リ難キヲ以テ該債主ノ住所姓名取札方當登記所へ照會ヲナスモ前項ノ事由ニ外ナラス如此ハ登記所ヨリ司法省ニ其願未チ具シ公證存否裁可ノ手續ヲ經タル上公賣處分ヲ行フ儀ナルヤ

●租税不納公賣物件ニ關スル債主取調方ノ件ニ付高知縣ヨリ大藏省へ伺

租税不納者公賣處分ノ際公賣スヘキ物件ニ關シ債主ノ有無取調方ノ儀ニ付本年御省訓令第四五七號ヲ以テ訓令相成居候處其公賣處分ニ際シ郡戸長ヨリ債主ノ有無取調方登記所へ照會スルモ茲公證簿ニ債主ノ氏名ノミ記載シ住所ヲ記載シアラサルトキハ登記所ニ於テハ公證簿ニ記載ノ儘ヲ以テ郡戸長へ回答シ其住所ノ如キハ郡長若クハ戸長ニ於テ便宜取調ヲナスヘキ儀ニ候ヤ又ハ帳簿ノ不完全ニ起因セル儀ニ付其帳簿ヲ管理セル登記所ニ於テ詳細取調郡戸長ノ問ニ應スヘキ儀ニ候ヤ

●地租不納者公賣處分方ニ付静岡縣ヨリ大藏省へ伺

本年二月二十六日付知立登記所簡要第十三條ニ地券名前人ニ對シ公賣處分ヲ爲ストセハ其物件既キニ現所有者ニ非サル者ノ權利登記簿ノ後ナルトキハ其權利及物件ハ如何シテ取消ス乎トノ伺出ニ對シ同年三月二十六日付ヲ以テ司法省ヨリ登記簿ヲ經サル地券名前人ニ對シ公賣處分ヲ爲シタル場合ニ第三者ヲ所有者トシテ登記アルニ於テハ其登記ヲ取消スコトヲ得ス又落札人ヲ登記スルコトヲ得スト内訓相成候處右ハ地租條例第十二條ニ依リ地券記名者ニ向テ徵稅傳令書ヲ發セシモ納期限ニ至リ上納セサルトキハ登記所へ所有權移轉ノ有無ヲ照會シ若クハ第三者ニ登記アル場合ニ於テハ之レニ向テ未納稅アル旨ヲ通告シ尙完納申出サルトキハ之レニ依リ公賣處分執行スルモ其以前第三者ヲ所有者トシテ登記アルニ於テハ登記簿第十六條ノ手續ヲ成ス能ハサルモノト加シ果シテ然ラハ已ニ第三者ノ所有ヲシテ登記シアル物件ニ對シ前項ノ如ク不納アル場合ニ於テハ何レニ向テ公賣處分ヲ施行シ可然哉

指令 二十年八月二十七日

同ノ趣地券記名者完納セサル場合ニ於テハ十年第七十九號布告第一條ニ據リ第三者ニ向テ完納セシメ乙者完納セサルトキハ其土地ヲ公賣スヘシ

●遺稅金處分方ニ付岡山縣ヨリ大藏省主稅局へ問合

所得稅法第二十四條ニ據リ處罰シタルモノハ其遺稅金追徵ニ不及候テ然ルヘキヤ

●遺產ニ係ル租稅ノ義ニ付千葉縣ヨリ內務大藏司法三省へ伺

第一項 死亡絶家及失踪死亡者ノ遺產ニシテ遺族親戚ナキトキハ戸長ニ於テ保管スヘキ儀ニ有之候其保管トハ地所ニ在リテハ下作ト爲シ建物船舶ニ在リテハ之ヲ貸與スル等便宜ノ方法ヲ以テ收利ヲ謀リ其收利ヲ以テ止地建物船舶ニ負擔スル所ノ諸稅ヲ納ムヘキ儀ト被存候果シテ然ラハ其收利稅金ニ充テ不足スルトキハ郡長ノ認可ヲ受ケ公賣ニ付スヘキヤ

第二項 其公賣ニ付スルモ代價稅金ニ充テサル歟若クハ買受者人ナキ時ハ公賣ヲ止メ納期ニ至リ明治十年第七十九號布告ニ依リ租稅不納ノ處分ヲ爲スヘキヤ

指令 二十年九月十三日

●未納稅追徵方ノ件(宮崎縣收稅部)問合明治廿一年二月廿三日

納稅期限ニ際シ本人旅行又ハ失踪等ニテ財產ノ所在不分明公賣處分ナシ能ハサル分ハ所在認知メ簡稅金徵收方各府縣へ照會致シ來リ候處若稅金徵收シタルトキハ現金ノ回付ヲ受ケ所轄郡長へ交付シ金庫へ納付セシムヘキヤ又ハ十九年三月大藏省令第四號歲入取扱順序第十六條第十七條第二部歲入ノ例ニ準シ徵收シタル府縣ニ於テ納付ノ手續ヲ了シ該府縣ノ報告ヲ得歲入報告書ヲ製シ御省へ進達スヘキ筋ニ候哉且十九年大藏省訓令第三十三號第五條ニ據レハ未納稅帳ニ記載シタル納稅者他管へ移住送籍ノ節不納ニ係ル書類引繼キ方御示シ相成居候得共公賣處分ノ未公賣代價不納額ニ充テス官指相成候分ハ別段御明示無之右ハ該縣ニ據リ引繼キ方御示シ相成居候得共公賣處分ノ未公賣管へ寄附シ再營業ヲナス方如キモ是亦前同條引繼キ方御示シ相成居候得共公賣處分ニ於テ決算整理候處ニ候哉

(大藏省主税局計算課)回答 明治廿一年二月廿七日

第一節後段御見込ノ通 第二節御見込ノ通 第三節第一節後段ノ通ヲ御承知相成候

第百二十九章

課税ニ關スル處分ニ就キ出訴方

明治十五年五月十日

第貳拾貳號 布告

課税ニ關スル處分ニ就キ不服アリテ出訴セントスル者ハ先ツ其旨ヲ申立課額ヲ上納シ領收證書ヲ添ヘ其翌日ヨリ六十日以内ニ訴出ツヘシ

但納税期限前ニ訴出テ訴訟中ト雖モ其期限ニ至レハ課額ヲ上納スヘシ 右奉 勅旨布告候事

第百二十章

所得税法

二十年三月二十三日布告 勅令第五號

朕所得税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年三月十九日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文 大藏大臣伯爵松方正義

勅令第五號

所得税法

第一條 凡ソ人民ノ資産又ハ營業其他ヨリ生スル所得金高一箇年三百圓以上アル者ハ此税法ニ依テ所得税ヲ納ムヘシ

但同居ノ家族ニ屬スルモノハ總テ戶主ノ所得ニ合算スルモノトス

第二條 所得ハ左ノ定則ニ據テ算出スヘシ

第一 公債證書其他政府ヨリ發シ若クハ政府ノ特許ヲ得テ發スル證券ノ利子、營業ニアラサル貸金預金ノ利子、株式ノ利益配當金、官私ヨリ受クル降給、手當金、年金、恩給金及割賦賞與金ハ直ニ其金額ヲ以テ所得トス

第二 第一項ヲ除クノ外資産又ハ營業其他ヨリ生スルモノハ其種類ニ應シ收入金高若クハ收入物品代價中ヨリ國稅、地方稅、區町村費、備荒儲蓄金、製造品ノ原價物代價、販賣品ノ原價、種代、肥料、營利事業ニ屬スル場所物件ノ借入料、修繕料、雇人給料、負債ノ利子及雜費ヲ除キタルモノヲ以テ所得トス

第三 第二項ノ所得ハ前三箇年間平均高ヲ以テ算出スヘシ但シ所得收入以來未タ三年ニ滿タサルモノハ月額平均其平均ヲ得難キモノハ他ニ比準ヲ取リテ算出スヘシ

第三條 左ニ掲グルモノハ所得稅ヲ課セス

- 第一 軍人從軍中ニ係ル俸給
- 第二 官私ヨリ受クル旅費、傷病疾病者ノ恩給金及孤兒寡婦ノ扶助料
- 第三 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

第四條 所得稅ノ等級及稅率左ノ如シ

等級	所得金高三萬圓以上	稅率
第一等	所得金高三萬圓以上	百分ノ三

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

- 第二等 所得金高貳萬圓以上 百分ノ二半
- 第三等 所得金高壹萬圓以上 百分ノ二
- 第四等 所得金高千圓以上 百分ノ一
- 第五等 所得金高三百圓以上 百分ノ一

但所得金高ハ圓位未滿ノ端數ヲ算セズ

第五條 所得稅ハ前半年分ヲ其年九月ニ後半年分ヲ翌年三月ニ納ムヘシ

第六條 此稅法ニ依リ稅金ヲ納ムヘキ所得アル者ハ其年所得ノ豫算金高及種類ヲ記シ毎年四月三十日マテニ居住地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出ヘシ

第七條 各郡區役所管轄内ニ七名以下ノ所得稅調查委員ヲ置キ毎年調查委員會ヲ開キ所得稅ニ關スル調査ヲ爲サシム

調査委員定數ノ外五名以下ノ補缺員ヲ置キ缺員ノ補充ニ備フヘシ

第八條 調査委員ハ其郡區内ノ選舉ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 調査委員ノ選舉人ハ二十五歳以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ現住シ所得稅ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル、者ハ被選人タルコトヲ得ス同條第一款第二款第三款ニ觸ル、者ハ選舉人タルコト得ス

第十條 郡區長ハ各町村内ニ五名ヨリ多カラサル町村撰舉人ノ員數ヲ定メ其町村人民中第九條ノ資格ヲ有スル者ヲシテ互選セシム但便宜ニヨリ數町村ヲ合シテ五名ヨリ

多カラサル選舉人ヲ定ムルコトヲ得

町村選舉人ハ第九條ノ範圍内ニ於テ調査委員及補缺員ヲ選舉スヘシ

第十一條 調査委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス但第一回ノ改選ハ抽籤ヲ以テ其退任者ヲ定ム

第十二條 調査委員ノ手當、旅費其他調査ニ關スル費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 郡區長ハ第六條ノ屆書ニ據リ所得金高下調査ヲ製シ其屆書ト共ニ調査委員會ニ付スヘシ

第十四條 郡區長ハ納稅者ト認ムルモノニシテ第六條ノ期限ヲ過キテ其届出ヲ爲サ、ル者アルトキハ所得金高ノ見積ヲ立テ之ヲ調査委員會ニ付スヘシ

第十五條 調査委員會ハ郡區長ノ招集ニ由リ之ヲ開ク調査委員會ノ會長ハ郡區長ヲ以テ之ニ充ツ郡區長缺席スルトキハ會員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 調査委員會ハ會員過半数出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス會議ハ出席員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ可否スル所ニ依ル但自己ノ所得ニ關スルトキハ其會議ニ與ルコトヲ得ス

第十七條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ據リ各納稅者ノ所得稅等級金額ヲ定メ之ヲ納稅者ニ達スヘシ

第十八條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ府縣知事ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第十九條 納稅者ニ於テ所得稅ノ等級金額ヲ不當トスルトキハ其違ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ所得金高明細書及其證據トナルヘキモノヲ添ヘ府縣知事ニ申出ルコトヲ得但此場合ニ於ケルモ其税金ハ違ヲ受ケタル金額ニ從テ之ヲ納ムヘシ

第二十條 府縣知事ハ第十八條第十九條ノ場合ニ於テハ府縣常置委員會ニ付シテ調査セシメ其決議ニ據テ之ヲ處分スヘシ但其處分納稅後ニ涉ルトキハ稅額ノ不足アルモノハ之ヲ追徵シ過剩アルモノハ之ヲ還付スヘシ

第二十一條 調査委員會又ハ常置委員會ハ此稅法ニ關シ調査上必要ト認ムルトキハ納稅者ニ尋問スルコトヲ得

第二十二條 調査委員其他所得稅ノ調査ニ關スル者ハ納稅者ノ資産及所得ニ係ル事件ヲ他ニ漏洩スヘカラス

第二十三條 納稅者其納期前ニ於テ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シタルトキハ郡區長ニ申出ルコトヲ得郡區長ハ事實ヲ審査シテ其稅額ヲ減シ所得金高一箇年三百圓ヲ下ルモノハ之ヲ免稅スヘシ但既納ノ税金ハ之ヲ還付セス

第二十四條 所得金高ヲ隱蔽シテ違稅シタル者ハ其違稅金高三倍ノ罰金ニ處ス但自首スル者ハ其税金ヲ追徵シ其罪ヲ問ハス

第二十五條 第二十二條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第六條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條 此稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不倫罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ

用ヒス

第二十八條 此稅法施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十九條 此稅法ハ明治二十年七月一日ヨリ施行ス

但北海道、沖繩縣及東京府管轄小笠原嶋、伊豆七嶋ニ於テハ官廳ヨリ受クル俸給、手當、年金及恩給金ノ外ハ當分ノ内之ヲ施行セス

附則

本法第六條ノ届書ハ本年ニ限リ七月三十一日マテニ差出スヘシ

○所得稅施行細則

二十年五月五日
大藏省令第八號

所得稅法施行細則左ノ通相定ム

所得稅法施行細則

第一條 戶主ニ所得ヲクシテ同居ノ家族ノミニ所得アル場合ニ於テモ一家内ニ屬スルモノハ總テ合算ノ上其戶主ノ名ヲ以テ届出納稅スヘキモノトス

第二條 稅法第二條第三項ニ依リ所得ヲ算出スルハ其年所得ヲ生スヘキ現在ノ資産又ハ現在ノ業務ニ應シ前三箇年平均若クハ月額平均ノ歩合ニ依リ又ハ他ノ比準ニ依ルヘキモノトス

第三條 物品ニ收入スル所得ハ其相當價格ヲ以テ代金ヲ算出スヘシ

第四條 稅法第六條ノ届書ハ第一號書式ニ依ルヘシ

第五條 左ニ掲クル者ハ一定ノ地ニ其納稅管理人ヲ定メ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出此稅

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

法施行ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

一 此税法ヲ施行セサル地ニ居住シ本法施行ノ地ニ於テ生スル所得金一箇年三百圓以上ヲ收入スル者

一 内外國ニ旅行シ又ハ外國若クハ此税法ヲ施行セサル地ニ寄留スル納稅者

第六條 一人ニシテ數箇所ニ於テ所得ヲ收入スル者ハ其居住地ノ郡區長ニ届出ヲ爲ス

ト同時ニ第二號書式ニ依リ其所得ヲ收入ズル各地ノ郡區長ニ届出ヘシ

第七條 郡區長第六條ノ届出ヲ受クルトキハ之ヲ其納稅地ノ郡區長ニ送付スヘシ但其届出高ニ對シ意見アルトキハ別ニ其意見ヲ附スヘシ

第八條 納稅者他ノ郡區役所所轄内ニ轉居セントスル片及ヒ轉居シタル片ハ各其地ノ戸長ヲ經テ郡區長ニ届出ヘシ

第九條 郡區長第八條ノ他ニ轉居セントスル者ノ届出ヲ受タルトキハ直チニ轉居者ノ所得稅ニ係ル一切ノ事項ヲ其轉居先ノ郡區長ニ通報スヘシ

第十條 郡區長ハ其所轄内ニ於テ納稅者ト認ムルモノ、所得ニ關シ調査上必要ナル場合ニ於テハ各地方ノ會社若クハ一個人ニ對シ其事項ノ問合ヲ爲スコトヲ得

第十一條 郡區長ハ調査委員撰擧ノ爲メ税法第六條ノ届出ニ依リ毎年五月納稅者ノ住所姓名ヲ其管内ニ公告スヘシ

第十二條 調査委員會及ヒ調査委員撰擧ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ム

第十三條 調査委員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ郡區長ニ於テ已ムヲ得スト思料スル事故

在ルモノニ限ル

第十四條 調査委員會ノ決議書ハ會長及委員二名以上之ニ署名スヘシ

第十五條 所得稅ノ等級金額ハ第三號書式ニ依リ年八月十日マテ毎ニ之ヲ達スヘシ

第十六條 區長ニ於テ直ニ戸長ノ事務ヲ行フ區内ニ在テハ府縣知事ノ見込ヲ以テ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ一區内ヲ數部ニ劃シ每部ニ五名以下ノ臨時取調掛ヲ置キ區長ノ指揮ニ從ヒ所得稅調査ニ關スル下調ヲ爲サシムルコトヲ得

第十七條 税法第二十九條但書ノ所得ニ關スル等級金額ハ北海道廳長官東京府知事沖繩縣知事之ヲ査定スヘシ

第十八條 調査委員招集ニ應セサルカ又ハ會員過半数出席セス若クハ其他ノ事故ニ依リ第十五條ノ等級金額達期限マテニ調査ヲ了セサル片ハ郡區長ニ於テ等級金額ノ意見ヲ付シ府縣知事ニ差出シ府縣知事ハ之ヲ大藏大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ
第十九條 第五條ニ違ヒ又ハ第六條第八條ノ届出ヲ怠リタル者ハ罰則以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

本年ニ限リ第十一條ノ公告ハ十月末日迄ニ第十五條ノ達ハ十二月末日迄ニ之ヲ爲スヘシ
(書式第一號)

所得金高届

△税法第二條第一項ノ所得金ハ公債證券株券貸金俸給其他共稅法
ノ掲記ニ從ヒ各別項ニ記スルヲ要ス

△印ハ朱書

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

三百六十一

二十年九月
大藏省令第
十三號ヲ以
テ附則改正

一金何圓 何々ノ利息又ハ利益配當金又ハ何々
一金何圓 貸金ノ利息

△稅法第二條第二項ノ所得金營業並ニ資產ノ種類ヲ別チテ之ヲ記スルヲ要ス但各該混同ニシテ所得ヲ分別シ
キモノハ之ヲ合記スヘシ其支店分店及ヒ居住地外ニ屬スルモノハ毎處所ノ所得ヲ別項ニ記シ其所得ノル
町村名ヲモ併記スヘシ若シ其混同スルモノハ之ヲ合記スヘシ又扣除スヘキ金額ハ外費トシテ各本項ニ
掲ケタル種類ニ屬スル費用ニ係ルモノノモ記スヘシ

一金何圓 何々ノ所得
外

金何圓 何租、何稅、區町村費、備荒儲蓄金

金何圓 製造品原質物、代金、商品原價

金何圓 借地借家料、何々借入料、何々修繕料

金何圓 種代、肥代、何々買入代金

金何圓 雇人給料、何々手當、何々費

金何圓 何々ニ係ル負債ノ利息

小以金

所得高計金

右之通ニ候也

何(府縣)何(郡區)何(町村)居住(又ハ寄留)

何(町村)

何ノ誰

何(府縣)何(郡區)何(町村)何誰納稅管理人
何(町村)

何ノ誰

(書式第二號)

所得稅納入地届

△所得及扣除金ノ區分方ハ總
テ第一號書式ニ準據スヘシ

一金何圓 何々ノ所得

一金何圓 何々ノ所得

外

金何圓 何々

金何圓 何々

小以金

所得高計金何圓

右ハ御所轄郡區内ノ所得金ニ有之候處稅金ハ何(府縣)何(郡區)何(町村)ニ於テ合算ノ上
相納候ニ付此段及御届候也

何(府縣)何(郡區)何(町村)居住(又ハ寄留)

何ノ誰

年月日

(若シ管理人ナルトキハ)
何(府縣)何(郡區)何(町村)何誰納稅管理人
何(町村)

(郡區)長宛

(書式第三號)

明治	年	何(郡區)何(町村)
何等所得稅金、	、	、
圓	何	誰
右所得稅ノ等級金額頭書ノ通相定ム但之ヲ不當トス ルトキハ所得稅法第十九條ニ據リ申出ヘシ		
年	月	日
何(郡區)長何 誰印		

○所得稅納稅者ヨリ届出書面ノ誤謬訂正申出ノ旨
取扱方 二十一年七月九日
大藏省訓令第卅五號

所得稅納稅者届出タル書面ニ誤謬ノ廉アルヲ以テ訂正方申出ツルトキハ郡區長之ヲ審
査シ其事實明確ト認ムルモノニ限り左ノ區別ニ從テ之ヲ取扱フヘシ
第一項 調査委員會開會以前ニ申出ツルモノハ郡區長ニ於テ之ヲ訂正セシムヘシ
第二項 届出ノ重複ニ涉レルモノハ調査委員會決議後ト雖モ郡區長ニ於テ之ヲ訂正
スルコトヲ得

第三項 第二項ノ場合ヲ除クノ外其申出ノ調査委員會決議後ニ係ル者ハ所得稅法第
十八條及第二十條ニ據リ處分スヘシ

○市制町村制施行地ノ所得稅

朕市制町村制施行地ノ所得稅ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御 璽

明治二十二年四月二十二日

內閣總理大臣 伯爵黑田清隆
大藏大臣 伯爵松方正義

法律第十四號

市制町村制施行ノ地ニ在テハ所得稅法第六條ノ届書ハ町村ニ於テハ町村長ヲ經テ郡長
ニ市ニ於テハ市長ヲ經テ府縣知事ニ之ヲ差出シ第七條第八條ノ調査委員ハ郡役所管轄
内及市ニ東京市京都市大坂市ハ區ニ置キ其區域内ニ於テ之ヲ撰舉シ第九條ノ調査委員
ノ撰舉人被撰舉人ノ現任ハ調査委員會設置區域内トシ第十條ノ場合ニ於テハ府縣知事
ハ市ニ東京市京都市大坂市ハ區ニ郡長ハ町村ニ若干名ノ撰舉人ヲ定メ第十七條ノ區長
ノ職務ハ府縣知事之ヲ行ヒ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ第二十條ニ依リ處
分スヘシ又第十三條第十四條第十五條第二十三條ノ區長ノ職務ハ府縣知事之ヲ行フヘ
シ但第十五條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ部下ノ官吏ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

● 伺指令

● 所得稅法取扱方ニ付静岡縣ヨリ大藏省ヘ伺二十年七月(同月三十日官報)

所得税法施行細則第六條ニ一人ニテ數箇所云々第二號書式ニ依リ其所得ヲ收入スル各地ノ郡區長ニ可届出ト有之右ハ税法第二條第二項ニ屬スルモノニ限リ届出ヲ爲サシムル儀ニシテ第一項ニ掲記ノ分ハ總ニ届出ヲ爲サシムルニ及ハサルヤ

同第十條會社若クハ一人ニ對シ其事項ノ問合ヲナスコトヲ得ト有之候得共其事項書面ニテ離座場合ニ於テハ其本人ヲ呼出スヲ得ルヤ

指令 二十年七月二十七日 第一項申出ノ通り第二項本人ヲ呼出スコトハ相成ラス

●所得稅取調方ノ件(滋賀縣)同明治廿一年十二月二日

所得稅納稅者他ノ郡區役所轄内ニ轉居セントスル時及轉居シタル時ハ其地ノ戶長ヲ經テ届出郡區長ハ直チニ轉居者ノ所得稅ニ係ル一切ノ事項ヲ轉居先郡區長ニ通報スヘキ嘗本年五月貴省令第八號施行細則第八條第九條ニ掲載有之候處既ニ調査會結了後他ノ調査會開會以前ノ郡區ヨリ轉居シタルモノアルトキハ其當人所得稅ヲ調査スル儀メ再ヒ調査會ヲ開クニ及ハス郡區長限リ査定セシメ可然哉

(大藏省) 指令 明治廿一年十二月六日 伺之通

但郡區長ニ於テ本人届書ニ對シ意見アルキハ税法第十八條ニ據ルヘシ

●所得屆課記ノ件(鹿兒嶋縣)同明治二十一年一月十九日

郡長ニ於テ所得税法施行細則第十五條ノ違チナシタル後納稅者ヨリ同税法範圍外ノ金額例ハハ軍人官舎料及馬飼料類算入届出置タル旨ヲ以テ違ノ届書中扣除ノ請申出タル者有之右ハ需手當ノ名稱ニテ既ニ委員會ニ於テ議決セシモノナレトモ申立ノ事實相違ナキトキハ郡長ハ直ニ右違金額更正取計可然哉ニ候哉

(大藏省主稅局) 回答 明治二十一年一月二十八日

●所得屆課記ノ件(大坂府)同明治二十一年一月二十四日

所得税法第十七條ニヨリ納稅者ニ所得稅等級金額ヲ違シタル後納稅者ニ於テ違ノ届出ニ誤謬 第二條第二項原質品ノ原價ヲ扣除スル儀

等アルヲ發見シ引直方ヲ申出ルモノアリ右ハ調査委員會ニ相當ト見認メ議決セシモノニ付第十八條ニ據リ郡區長ノ意見アルモノ、外ハ第十九條ノ期限内外ニ拘ハラス總テ受理セサル儀ニ候哉

(大藏省主稅局) 回答 明治二十一年一月二十八日

所得屆課リノ者ハ税法第十九條ニ據ルヲ得ヘシ

●所得金額出高誤謬發見ノ際取扱方ノ件(福嶋縣)同明治二十一年一月廿一日

所得稅調査委員會議決ノ未該税法施行細則第十五條ニヨリ等級稅金額等示違ノ後當初ノ届書金額ニ誤謬アリテ其訂正方ヲ本人ヨリ郡長ヘ申出申相違ナキモノ又ハ寺院等ニテ無形人ノ所得ヲ届出其儘調査委員會ニ於テ議定シタルヲ發見シ右處分郡長ヨリ申出タルトキハ假令議定後ト雖モ止ムテ得サル義ニ付更正又ハ取消ノ價開届不苦哉

(大藏省指令) 明治二十一年一月二十七日

税法第十八條第二十條ニ據ルノ外訂正不相成

●所得稅納人轉居セシ者處分方ノ件(新潟縣)同明治廿一年二月廿二日

所得稅ヲ納ムルモノノ納期ニ至リ(例ハ三月一日ヨ)甲郡區ヨリ乙郡區ヘ轉居シタルトキ甲郡區役所ニ於テハ既ニ徵稅令書ヲ發シタル後ニ付假令本人轉居先ニ納稅致度旨申出ルモ取扱上不都合ノ礙ナキニアラサルニ付甲郡區役所ニ於テ徵稅可爲致候ト存候得共延誤ニ涉リ候ニ付一應及御問合候

(大藏省主稅局) 回答 明治二十一年三月一日

右ハ既ニ徵稅令書ヲ發シタル者ニ限リ御見込通御取扱ノ可然ト被存候

●所得稅不納者處分方ノ件(兵庫縣)同明治廿一年四月十日

所得稅不納者處分方ノ儀去月十七日付テ以テ内訓ノ旨ヨ有之候處他ノ負債ノ爲メ身代限リ處分ニ際會スルトキハ該税金ハ先取ノ權アルモノトシ郡區長ヨリ裁判所ヘ照會シ財產變賣代價ノ内ヨリ請取可然哉

(大藏省指令) 明治廿一年四月廿六日

所得稅不納處分ノ件ハ伺ノ通り裁判所ヘ請求ス可シ

第三百三十一章

土地ニ賦課スル區町村費

十八年八月十五日
第二十五號布告

土地ニ賦課スル區町村費ハ明治十九年度ヨリ地租七分ノ一ヲ超過スルヲ得ス
但非常ノ費用ハ豫知スヘカラサル天災時變ノ費用ヲ云別ニ賦課スルヲ得此場合ニ於テハ區町村會若クハ水利土功會ノ評決ヲ取リ府知事縣令ノ指揮ヲ請フヘシ

○區町村會ニ於テ評決シタル區町村費ニ關シ出訴方

十七年七月四日
第二十三號布告

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモノハ都テ明治十五年(五月)第貳拾貳號布告ニ依ルヘシ
右奉 勅旨布告候事

第三百三十二章

區町村費及土木費怠納者處分

明治十七年五月七日
第拾五號布告

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費及ヒ水利土功會ニ於テ評決シタル土木費ノ怠納者ハ總テ明治十年(十一月)第拾九號布告ニ據リ處分ス可シ若シ財産公賣ノ際買受望人ナキトキハ官沒ノ手續ヲ爲サス郡區長又ハ戶長ニ於テ之ヲ管掌シ會議ノ評決ヲ取リ府知事縣令ノ認可ヲ得テ處分ス可シ

但明治十四年(四月)第貳拾四號布告ハ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

第三百三十三章

北海道區町村協同會費處分方及

不服者出訴ノキハ十七年第二十三號布告ニ據ラシム

ヘシ 十八年八月十日
第二十二號布告

函館札幌根室三縣ニ於テ區町村總代人ノ評決シタル協議費ノ怠納者ハ明治十七年(五月)第十五號布告ニ準シテ處分スヘシ其協議費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモノハ同年(七月)第貳拾三號布告ニ據ルヘシ
右奉 勅旨布告候事

第三百三十四章

備荒儲蓄法

明治十三年六月十五日
第三拾壹號布告

備荒儲蓄法別紙ノ通相定來ル十三年度(明治十四年一月一日)ヨリ施行候條明治八年(七月)第百廿二號達窮民一時救助規則及同十年(九月)第六十二號布告凶歲延納規則ハ右施行ノ期日ヨリ廢止トス此旨布告候事

(別紙)

備荒儲蓄法

第一條 備荒儲蓄法ハ非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リタル窮民ニ食料小屋掛料農具料種穀料ヲ給シ又罹災ノ爲メ地租國稅ノ部分ニ限ルヲ納ムル能ハサル者ノ租額ヲ補助シ或ハ貸與スルモノトス

第二條 各府縣ハ土地ヲ有スル人民ヨリ地租ノ幾分ニ當ル金額ヲ公儲セシメ以テ儲蓄金ヲ設ク可シ各人ヨリ公儲スルノ割合ハ府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ其總額ハ政府ヨリ配付スル金額ヨリ少カラサルヲ要ス

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

但市街ハ府縣會ノ議決ヲ以テ政府ノ許可ヲ得郡村ト其徵收法ヲ異ニスルヲ得

第三條 政府ハ毎歳百貳拾萬圓ヲ支出シテ儲蓄金ヲ補助スヘシ

第四條 政府ヨリ補助スル金額ノ内三拾萬圓ハ中央儲蓄金トシテ大藏卿之ヲ管掌シ九拾萬圓ハ各府縣ノ地租額ニ應シテ之ヲ配付スヘシ

第五條 府縣儲蓄金ヲ徵收シ管守シ支給シ及ヒ之ヲ一處ニ集儲シ數所ニ分儲シ或ハ米穀ヲ購入スルノ方法ハ府知事縣令ヨリ之ヲ府縣會ニ付シ其議決ヲ取リ内務大藏兩卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ但シ米穀ヲ儲積スルハ儲蓄金ノ半額ヲ超ユヘカラス他ノ半額ハ公債證書ニ交換シ置クヘキ者トス

第六條 府縣會ニ於テ議決スル儲蓄金支給ノ方法ハ左ノ制限ヲ超ユヘカラス

第一 食料ヲ給スルハ罹災ノ爲メ自ラ生存スル能ハサル者ニ限ル其日數ハ三十日以内トス又同上ノ窮民ニ小屋掛料ヲ給スルハ一戸拾圓以内農具料種穀料ヲ給スルハ一戸貳拾圓以内トス

第二 地租ヲ補助及ヒ貸與スルハ罹災ノ爲メ土地家屋ヲ賣却スルニアラサレハ地租ヲ納ムル能ハサル者ニ限ル

第七條 各府縣窮民ノ救助地租ノ補助及ヒ貸與ノ金額府縣ノ儲蓄金三分貳以上ヲ供用支出スルルハ府知事縣令ノ具申ニ依リ内務大藏兩卿ノ協議ヲ以テ中央儲蓄金ヨリ補助スヘシ

第八條 従前人民公儲ノ儲蓄金アル府縣郡區町村ハ之ヲ以テ今般施行スル所ノ儲蓄金

蓄金ニ補充スルヲ得

第九條 各府縣内儲蓄金ノ出納ハ大藏卿歲次或ハ臨時ニ之ヲ検査スヘシ

第十條 府知事縣令ハ毎年七月中ニ其府縣儲蓄金ノ出納ヲ内務大藏兩卿ニ報告シ兩卿ハ每年中央及ヒ府縣儲蓄金ノ出納ヲ全國ニ公布スヘシ

第十一條 此方法ハ貳拾ヶ年間施行スルモノトス滿期ノ後ニ至リ各府縣ニ存在スル儲蓄金ハ府縣會ノ議決ヲ以テ其保存方法ヲ定ムヘシ

○備荒儲蓄金怠納者處分方及免除方

明治十三年十一月十二日
第五拾號布告

本年(六月)第三拾壹號布告ヲ以テ定メタル備荒儲蓄金ヲ怠納スル者ハ十年(十一月)第七拾九號布告ニ據リ處分スヘシ但該儲蓄金ヨリ給與補助若クハ貸與ヲ受ルモノハ免除スヘシ此旨布告候事

○備荒儲蓄金ニ關シ不服アリテ出訴方

明治十五年十二月二十八日
第七拾四號布告

備荒儲蓄金及區町村會若クハ水利土功ノ集會ニ於テ詳決シタル土木費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモノハ都テ明治十五年(五月)第貳拾貳號布告ニ依ルヘシ
右奉 勅旨布告候事

○大藏省令第十五號

府

縣

沖繩縣
ヲ除ク

明治十三年十一月内務大藏乙第卅八號通備荒儲蓄金取扱順序左ノ通改定ス

但シ報告書式ハ別ニ頒ツ(書式略ス)

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

十五年第貳拾貳號布告
參看(第百廿六章)

明治二十年十二月九日

大藏大臣伯爵松方正義

備荒儲蓄金取扱順序

- 第一條 備荒儲蓄金ハ毎年政府ヨリ配付スルモノヲ配付金ト稱シ人民ヨリ徴收スルモノヲ公儲金ト稱ス而シテ右配付金及公儲金ヲ合セテ府縣儲蓄金ト稱スヘシ
- 第二條 配付金ハ前年度ノ地租豫算高ニ據リ其額ヲ定メ以テ毎年十一月以前ニ送スヘシ
- 第三條 府縣ニ於テハ配付金高ヲ以テ最下額トシ公儲金徴收ノ割合ヲ定メ而シテ其徴收期限ハ支出差支ナキ爲メ適宜前收ノ方法ヲ設ケ府縣會ニ於テ議定セシムヘシ
- 第四條 公儲金ヲ免除スルハ罹災ノ年限ニ限ルモノトス其免除及不納處分等ヨリ生スル缺額ハ總テ翌々年度ニ於テ一般ニ賦課シテ補充スヘシ最其總額配付金ノ高ヨリ不足セサル場合ニ在リテハ之ヲ補充セサルモ妨ナシ
- 但前年度内ニ公儲金ノ全額ヲ前收スルモノニ限り本年度罹災者ハ翌年度ノ公儲金ヲ免除スルヲ得
- 第五條 地租ノ貸與金事故ナクシテ返納ヲ怠ルモノハ裁判ニ付スヘシト雖モ不慮ノ災害ニ遭遇シ返納シ能ハサルモノハ之ヲ猶豫シ又ハ免除スルノ方法ヲ設ケ府縣會ニ於テ議定セシムヘシ
- 第六條 備荒儲蓄法第五條ニ因リ内務大藏兩大臣へ具申スルトキ儲蓄金收支豫算書ヲ添へ差出スヘシ大藏大臣ハ配付金ヲ兩度四月ニ交付スヘシ十月ニ交付スヘシ

第七條 府縣儲蓄金ノ内災害其他相當ノ支出ニ充ツル爲メ現金ヲ備置キ引出方ニ差支ナキニ於テハ之ヲ銀行等へ預ケ金ト爲スモ妨ナシ

但預ケ金ヲ爲ス場合ニ於テハ其預ケ箇所ハ府縣會ニ於テ議定セシメ必ス預ケ金額ニ對スル抵當ヲ取置ヘシ最有抵當ハ公債證書ニ限ルモノトス

第八條 米穀ヲ貯積スル爲メ倉庫ヲ建築シ及借庫料番人給料等ニ係ル諸費用官吏郡區吏旅費ノ如キハ此限ニアラズ 此ニ米穀公債證書ノ賣買等ニ關スル諸雜費及損失ハ府縣儲蓄金ノ内ヨリ支辨スルノ方法ヲ設ケ府縣會ニ於テ議定セシムヘシ

但シ倉庫ヲ建築スルハ給貸等ニ支障ナキヲ計リ府縣儲蓄金ノ餘裕アルヲ待テ之ニ着手スヘシ

第九條 府縣儲蓄金ノ三分ノ二前年度ヨリノ超過及ヒ其年収入スヘキ儲蓄金ヲ合セタル總額ニ對シ計ルヘシ以上ヲ供用支出セントスルルハ豫メ災害ノ景況及救助額ノ概算ヲ内務大藏兩大臣ニ具狀シ中央儲蓄金ノ補助金ノ補助ヲ請求スヘシ此場合ニ於テハ時トシテ内務大藏兩省ノ官吏ヲ派遣シ實際ヲ査閱スルヲアルヘシ

第十條 中央儲蓄金ヨリ補助ヲ要シタルトキ府縣知事ハ其頗末ヲ管下へ告示スヘシ

第十一條 凡府縣儲蓄金ノ出納ハ每半期報告書ヲ作り上半期ハ十月中下半期ハ翌年四月中其地ヲ發シ大藏大臣へ差出スヘシ

第十二條 府縣儲蓄金ノ出納ハ便宜ニ從ヒ出納簿現金米穀公債證書等ノ受及内譯簿 現金米穀出納ノ内訳ヲ明カニスル帳簿ヲ云フヲ製シ置キ當ニ其會計ヲシテ明瞭ナラシムヘシ

二十一年五月
大藏省令
第五號
三月
四月
中
下

第十三條 府縣儲蓄金ノ精算報告ハ備荒儲蓄法第十條ニ因リ毎年七月中ニ内務大藏兩大臣ニ差出シ且其年通常府縣會ニ報告スヘシ書式ハ第三號ニ據ルヘシ

第十四條 大藏大臣ハ官吏ヲ派遣シ毎歲又ハ臨時ニ府縣儲蓄金或ハ貯積米ヲ檢査セシムヘキニ因リ府縣知事ハ集蓄及分儲ノ所在並ニ米穀貯積ノ場所等ヲ毎年四月中ニ大藏大臣ニ報告スヘシ報告書式ハ第四號ニ據ルヘシ

第十五條 府縣儲蓄金或ハ貯積米ノ檢査ハ大藏省派出官吏ノ便宜ニ因リ府縣知事ヘ通牒セス直ニ其所在ニ就キ檢査スルコトアルヘシ尤此場合ニ於テハ派出官吏ハ大藏大臣ノ命令書ヲ携帶スルモノトス

○備荒儲蓄金ヲ定期預ケト爲シ又ハ預ケ金ニ對スル
抵當物件

明治十三年乙第三十八號ヲ以テ相違候備荒儲蓄金取扱順序第七條儲蓄金ヲ以テ銀行等ヘ定期預ケト爲ス場合ニ於テハ其預ケ箇所ハ豫シノ府縣會ニ於テ議定セシメ必ス預ケ金額ニ對スル抵當取置候ハ勿論ニ候處右抵當ハ公債證書ニ限り候儀ト心得ヘシ此旨相違候事

○公儲金ヲ免除スルハ罹災年度ニ限ル

明治十三年十一月(第五十號)布告但書ニ依リ公儲金ヲ免除スルハ其罹災ノ年度ニ限ルヘキ儀ト心得ヘシ此旨相違候事
府縣(函館沖繩札幌樺太四縣)ノ道

但從前ノ令達之ニ矛盾スルモノハ廢止ス

○伺指令

備荒儲蓄ノ内無定期預金ニ對スル抵當品ノ儀ニ付山形縣ヨリ内務省ヘ伺十六年十月九日

備荒儲蓄定例預金ニ對スル抵當品ハ公債證書ニ限ルヘキ旨十五年乙第二十五號御省御達之趣モ有之候處要用ノ節ハ何時ニテモ返納可致約束ヲ結ビ全ク當分ノ無定期預金タルモ抵當ハ前號御達ノ例ニ據リ公債證書ニ限ルヘキ旨又ハ相當ノ地所ニシテ預金額ニ對シ二割以上ヲ超過シタル地價金ヲ以テ充分ト見認候抵當品出候箇ハ預ケ金取行差支無之候至急何分ノ御指那相成候儀致度此段相伺候也

指令(大藏省)十六年十月十六日
伺之趣抵當品ハ公債證書ニ限ル儀ト可相心得事

備荒儲蓄金支出科目疑義ノ件(福井縣)伺明治二十一年六月廿五日

客年十二月御省令第十五號ヲ以テ備荒儲蓄金取扱順序改正相成其出納科目ハ則チ款項目箇ニ區別設定セラレ候處備荒儲蓄法第一條ニ據リ地租ノ補助貸與ヲ爲スヘキモノト土地檢査ノ爲メ出張官吏ニ於テ雇上ケタル坪敷枳等ノ人足貸ハ救助費若クハ地租貸與ノ項ニ相當ノ日無之ニ付是等ハ儲蓄費備入料ヨリ支拂可然哉又ハ儲蓄費ノ備入料トハ其性質ナ果ニスルモノナルヲ以テ救助費ノ内ヘ更ニ雜費ノ節ヲ設ケ支拂可然哉

(大藏省)指令 明治二十一年七月三十一日
後段伺ノ通

第二百二十五章

預金規則

明治十八年五月三十日
第三號布告

預金規則左ノ通制定ス

預金規則

第十二類

租稅及食紙幣公債區町村費

- 第一條 大藏省中ニ預金局ヲ置キ左ノ貯金積立金ヲ預リ之ヲ保管利殖セシム
- 第一 際遞屆貯金
- 第二 各官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金
- 第三 社寺教會會社其他人民ノ共有ニ係ル積立金ニシテ其請願ニ據ルモノ
- 第二條 預リ金取扱手續ハ大藏卿之ヲ定ム
- 第三條 預リ金ノ利子割合ハ大藏卿之ヲ定ム
- 第四條 預リ金ニ關スル損益ハ國庫ノ負擔トス
- 第五條 預リ金ノ證書ハ買賣讓與又ハ書入質入スルヲ得ス
- 第六條 預リ金ノ運用ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルモノトス
- 第七條 大藏卿ハ便宜ノ地ヲ撰ミ預金局出張所ヲ設置シ又ハ國庫金取扱所ヲシテ預リ金受渡ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ
- 第八條 預リ金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

○社寺教會々社及人民共有ニ係ル預金取扱手續

明治十八年六月八日
大藏省第八十八號告示

本年(五月)第十三號布告預金規則第一條第三項社寺教會々社及人民共有ニ係ル預リ金取扱手續左ノ通相定ム

但施行日限及利子割合ハ進テ新聞紙ヲ以テ廣告ス

二十年六月
大藏省告示
第八十五號
ヲ以テ但
チ追加本
七月一日
施行セラ

右告示候事

預金取扱手續

- 第一條 預ケ金受渡ハ東京ハ預金局各地方ハ國庫金取扱所(稅關國庫金取扱所ヲ除ク)ニ於テ取扱フモノトス
但東京府下郡部ニ設置ノ國庫金出納支所ニ於テモ各地方預ケ金ノ受渡ヲ取扱フモノトス
- 第二條 預ケ金ヲ分チテ通常定期ノ二種トス
- 第三條 通常預ケ金ハ金額ヲ限ラズ拂戻期限ヲ定メサルモノトシ定期預ケ金ハ金額百圓以上期限ヲ滿六ヶ月ヨリ十八ヶ月迄トス
- 第四條 通常預ケ金ヲ始メテ預ケ入ルルハ申込書(第一式)及印鑑二枚ヲ其預リ所東京ハ預金局各地方ハ國庫金取扱所ニ差出スヘシ
- 第五條 預ケ主ハ預リ所ニ於テ預金通帳ヲ受取り預ケ金ヲナス毎ニ之ヲ其預リ所ニ差出シ金員及年月日ノ記入預リ所ノ印主務者ノ調印ヲ受クヘシ
- 第六條 預金局ヘ直ニ預ケ入タル通常預ケ金ノ拂戻ヲナス片ハ請求書(第二式)ニ通帳ヲ添ヘ預金局ヘ差出シ其金員ヲ受取ルヘシ
- 第七條 各地國庫金取扱所ヘ預ケ入タル預ケ金ノ拂戻ヲナス片ハ請求書(第二式)ヲ其取扱所ヲ經テ預金局ヘ差出スヘシ
- 第八條 預金局ニ於テ前條拂戻請求書ヲ受ケタル片ハ拂戻證書(第三式)ヲ其請求人ヘ送

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

送スヘシ請求人ハ該證書ノ請取欄内ニ記名調印ヲナシ取扱所ヨリ其金員ヲ受取ルヘシ

第九條 拂戻金ハ其拂戻證書ノ日付ヨリ左ノ期日内ニ受取ルヘシ若シ期日ヲ失スルモハ取扱所ヲ經テ更ニ預金局ヘ其證書ノ書替ヲ請求スヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ此限ニアラス

東京ヨリ
百里未満 二十日
二百里未満 三十日
二百里以外 四十日

第十條 通常預ケ金ノ全額ヲ拂戻スルハ通帳ヲ返付セス又其幾分ヲ拂戻スルハ預リ所ニ於テ其通帳ニ拂戻金員及年月日ヲ記載シ預リ所ノ印主務者ノ調印ヲナシ 返付スヘシ

第十一條 通常預ケ金ハ預ケ入レタル月及拂戻ス月ハ其金額ニ利子ヲ付セス但預リ所ハ預ケ入タル月ヲ以テ預ケ月トシ預金局ヨリ拂戻證書ヲ發シタル月 東京ハ金庫局任拂切符ヲ發シタル月 以テ拂戻シ月トス

第十二條 通常預ケ金ヨリ生スル利子ハ毎年六月十二月ノ兩期ニ分チ之ヲ其元金ニ組入ルヘシ

第十三條 預ケ主ハ毎年三月九月ニ於テ通帳ヲ其預リ所ニ差出シ前條利子ノ記入ヲ受クヘシ

十九年一月
大蔵省告示
第七號ヲ以
テ出納局ヲ
金庫局ト改

第十四條 元金ニ加ヘサル通常預ケ金ノ利子ハ預ケ金ノ金額ヲ拂戻スルニアラサレハ之ヲ受取ルヲ得ス

第十五條 一ノ預リ所ヨリ受取タル通帳ヲ以テ他ノ預リ所ニ於テ預ケ入レ拂戻ヲナスヲ得ス

第十六條 預金通帳ハ預ケ金受授ノ證トス

第十七條 定期預ケ金ヲナスルハ申込書 (第四式) 及印鑑ニ枚ヲ預リ所ニ差出シ其金員ヲ預ケ入レ定期預リ金證書ヲ受取ルヘシ

第十八條 定期預ケ金ヲ受取ルルハ其預リ金證書ノ受取欄内ニ元利金額受取ノ記入ヲナシ記名調印ノ上之ト引替ニ其金員ヲ受取ルヘシ

第十九條 定期預ケ金ヲ引繼キ預ケ入ルルハ更ニ期限等ヲ認メタル申込書ヲ左ノ日割ニ據リ其預リ所ニ差出シ隣キ満期ニ至リ新舊證書ノ引替ヲナスヘシ

東京ヨリ
百里未満ハ満期ヨリ三十日前
二百里未満ハ満期ヨリ四十日前
二百里以外ハ満期ヨリ五十日前

第二十條 定期預ケ金ノ利子ハ預リ所ニ預リタル翌日ヨリ満期當日迄日歩割ヲ以テ計算スルモノトス

第二十一條 金銀貨ヲ預ケ入レ同種類ヲ以テ拂戻ヲ要スル分ハ定期預ケ金ニ限ルモノトス

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

第二十二條 定期預ケ金ハ其期限内之ヲ引出スヲ得ス

第二十三條 預ケ金ヲ直ニ預金局ニ預ケ入ルルハ金庫局へ現金ヲ納付シ全局ノ領收證書ヲ以テ預ケ入ルモノトシ又其拂戻ヲナスルハ預金局ヨリ金庫局仕拂切符ヲ以テ拂渡スモノトス

第二十四條 各地國庫金取扱所ニ於テ取扱ヒタル預ケ金ハ其報告ニ依リ預金局ノ帳簿ニ登記シ全局ヨリ帳記濟ノ通知書ヲ其預ケ主ヘ送付スヘシ

第二十五條 國庫金取扱所へ預ケ金ヲナシタル後左ノ期日迄ニ前條ノ通知書到達セサルハ預ケ主ハ其日限ノ翌日ヨリ一週間以内又到達セシモ金員年月日ニ相違アルハ到達ノ翌日ヨリ一週間以内ニ其旨ヲ認タル通知書ヲ預金局へ發送スヘシ

百里未滿 二十日

東京ヨリ 二百里未滿 三十日

二百里以外 五十日

第二十六條 預ケ金拾錢未滿ノ端金ニハ利子ヲ付セス

第二十七條 預ケ入申込書及拂戻請求書其他調印ヲ要スル書類ニハ社寺教會々社ニアリテハ其名稱ヲ記シ且押印ヲナシ其擔當者一書記名調印シ又二人以上ノ共同ニ係ルモノハ其總代人一名記名調印シ且共同者中ノ一名記名加印スヘシ

第二十八條 社寺教會々社ノ預ケ金ハ社寺教會々社ヲ以テ一個ノ預ケ主ト看做シ又共

同ニ係ル預ケ金ハ其總代人ヲ以テ一個ノ預ケ主ト看做スヘシ

第二十九條 社寺教會々社并其擔當者及共有預ケ金ノ總代人并加印者氏名變換又ハ轉住セシルハ其屆書ヲ預リ所ニ差出スヘシ

第三十條 預ケ金擔當者總代人若クハ加印者變更アルハ後任者ノ印鑑二枚ヲ添へ連署ノ屆書ヲ預リ所へ差出スヘシ

但前任者連署シ能ハサルハ證人ヲ立ツヘシ

第三十一條 預金通帳定期預リ金證書又ハ拂戻證書ヲ失亡セシル或ハ汚染毀傷シテ文字印章判明ナラサルハ其事由ヲ詳記セシ屆書ヲ預リ所ニ差出シ再渡ノ請求ヲナスヘシ但通帳又ハ證書失亡ノ場合ニ於テ再渡ヲ受ケシ後ハ舊通帳又ハ證書ハ無効トシ爾後發見セシルハ之ヲ預リ所へ納付スヘシ

第三十二條 預金通帳又ハ定期預リ金證書ハ大藏省官員ヨリ檢査照合等ヲ要スルコトアルヘシ但該官員臨檢ヲナスルハ其證據書ヲ携帶スルモノトス

用紙渡渡紙

(第壹書式)

通常預ケ金申込書

何社 何寺 何會 何社 何共

何々余預ケ入仕度尤御成規堅ク相守可申候也

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

明治何年何月何日

社寺教會々社
ナル片ハ此例ニ倣フヘシ
何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地
何神社(何寺)(何教會)(何會社)印
擔當者 氏名印

共有預ケ金ナ
ル片ハ此例ニ倣フヘシ
何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地
共有金總代人 氏名印
加印者 氏名印

局長
官氏名殿

(第貳書式)
用紙美濃紙

預ケ金拂戻請求書

何神社(何寺)
何教會(何會社)
何々金(元利息皆御拂戻被下度候也)
何々金(元利息皆御拂戻被下度候也)

明治何年何月何日

預金局長

(預ケ人氏名住所等)印
(職方第一書式ニ同シ)

(第三書式)

官氏名殿

番號	第何號	渡	何神社(何寺)(何教會)
通帳番記號	ハ第何號	先	何神社(何會社)(共有金總代人氏名)

一金何程也

內金何程也

元金
利子

右金額此證書引替ニ可相渡候也

明治何年何月何日

預金局長
官氏名印

何府(縣)
何地

甲 號
國庫金取扱所

前書金額正ニ請取候也

何神社(何寺)(何教會)(社寺教會々社ハ其名)
(何會社)(何々共有金)稱ノ下ニ其印ヲ捺ス

總代人(擔當者)

明治何年何月何日

加印者 氏名印

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費